

私は場が欲しかった。生きることが、そこを基点として創りあげられる場、女をつなぐ、バラバラに分断された女が、少くとも集まれる場として。

去年の10月まで、関西府ぶ連絡会議とレイレイしく名うった私らが、その場として集まっていたのは、一人の女の「家」だった。苦い思いこめて言わんといかんのがつらいけどそこはやっぱり家だった。その女とその夫と、その子の、どんな風にも言わなかった。あそこは彼らの場所なのだという暗黙の了解が私らの中にあつた。それがどういう意味をもつか、私らの動きがどんなものであつたかを、結局「男と女と子供」のフニキにいたたまれなくなって逃げだしたのだけど、その女の「家」の問題でふき出したゴタゴタが、こちらに流れこまざるを得なくなつた今となって、それが思い知らされるのだ。

プライベートを尊重する、という言葉のゾツとするずるさの中で、流れこますこと自体が、その女にとって不可能だったのだと。プライベートな場として、男と自分をおく時、女は性差別の一番巧妙な部分と対決することになる、それを感じつつ、「ここではやれん」としか言えなかった自分のずるさにいらだつ。その女

「まさかかあなたの
展望だけじゃ
おなかがすくよ」

コレクティブだより(3)

ワグ^o仕事部屋の巻

— 130 —

のいらだちにおたつくしかなかった私らの関りの甘さ、甘さという程も本質には迫らぬ、それは抽象だった。逃げるなら逃げるで、捨てぜりふの一つもはくべきだった。

10月に6人ぐらの女達と、アパートの一部屋を借りた。

女が集まれる場所を作る、ということとは具体的であるゆえに、もつ意味は大きい。だけれども、問題のリアルさに顔をそむけて逃げだしたばかりの私らは、優生保護法改悪阻止という法案トーンーの中で浮き足立っていた。ただただ言葉並べたて、アビールをくりかえし集会ぶっちゃまける、ナンテンナンパチ風を一步だつてでておらんかったよ。たたかいて作りあげる、という言葉のウツクシさは、職をもち、職場の中で、子を育て、家とのしがらみに、どんなんマメツしくすぶって、半年後にそのアパート追い出されるハメになり、これをチャンスと、まだそのぐらの気力が残っていたのが奇跡みたい。

場所さえ変わればどうにかなる、ゆうもんでもないけれど、気分転換は悪いもんじゃない、そうそう教条的にはいかんよ、と歯切れはずい分悪かったけど、ど

うせならもっと広くて、もっといろいろ使える所を、ついでに帰る場なくした女3人住める場所を、と、どうせの中に、なにもかもたたきこんで、ここに引越した。

最初から共同生活のイメージはなかった。人がやたらごちゃごちゃ来るようになり、しんどくはないけど、生活してる気がせん、と二人はいい、私は生活ゆうのは、こうゆうもんや、と思った。というか、こうゆうもんでもあるんやないか、と、それは、ごく最近のことなのだけだ。一人の空間が欲しい、と二人はいい、私も始めは、そう思ったが、ハタ／＼一人になってなにするんや、と思いいたと、ここを出る気がうせた。

仕事部屋は、一人歩きしている。電話に手紙に来客に、モロモロの思いこめて、女が来る。優保にせよ、なんにせよ、今までの私の動きの中で、あやうく落ちこぼれそうになっていた部分を、訪ずれる女達との関わりの中で感じる。中絶するんだけど、病院教えてくれ、ビルはいかんというけど、そんならどうしたらええねん！。問題はもっと日常的なのだ。

仲間の女が妊娠したことは、だから、すごく重いものとしてでてきた。彼女の大きくなっていくおなかは、私らの方向を具体的に具体的にきかせていく。

そんな中で、妊娠に限らず、私らの生理、私らの貧弱な体力、私ら自身わけがわからんうちにどんどん消耗していく自分のからだ、というやつと、まず対決せねばという思いがムラムラわいてきた。なにおもろないか、といって自分の体、自分でつかめんことが一番おもしろないし、自分の体生かす形での動きかたができんのが、一番いらだつじゃないか。妊娠してる女との関わりも含めて、まず妊娠出産のほんとのところ探ろうと情報集めにかかっている。妊娠、生理を、自分のものにするために、そしてずいぶん遠いけれど、私らの医療を創りあげるために。

今、11月か。つまり4カ月三人でくらし、つい最近二人は出ていった。一人は妊娠し、結婚とかを親に迫られ、直接には、ここは職場に遠くしてしんどかったからで、もう一人は家庭の事情というやつで、ヒイハアいった末、家に一時帰った。

住むのはすでに私一人になっているけど、それは関係あるようでも関係ない。生活が、生活が、とこだわり続けたものが、ふいとふっ切れた。住んでいるとか住んでないとか、生活のあり方が、つまり浮世のつながり、というやつで、別に彼方で生きるつもりはないけど、どうしたって義理人情背中に背おってるんだから、せめてもここは、世間様の生活とやらとは別でありたいと思う。別のつながりもあるのだ、私は生活を創るのだ、と、それは、以前、はききれなかった捨てぜりふでもあるのだ。

家に、一人ぐらしのアパートにと、ばらばらに生きる女が、自分の生活ベースにあわせて来ることができて、話ができ、それが最初だ。女が分断されざるを得ない状況を、それこそかかえこんで、ここは女の仕事部屋なのだ。

一つの場の創造が、次の場への関わりを生み出すような、確かな手ごたえを感じたい、と思う。妊娠している女が二人いる。春には子供が生まれる。私らの中で子育てのイメージが発酵していきつつある。新たな場、として。金と人と家さえあれば、そりゃあ立派なガキコレができるだろうさ。私らにもない。空恐ろしくなる程、なにもない。ほとんどが定職もち、24時間がんじがらめ、実際「職業病」で倒れていく女も何人かいる。胎んでいる女の一人はそうで「職業病」と闘う女の会というのを作り、働く女のセンターみたいなのにしていこう、ともくろんでいる。——とにかく、オノレの体のリズムまず第一に考えねばならず、だから私らの始めるガキコレの不充分さは目に見えている。子供の場所をひとつ定めて、昼間はだれかに頼み、夜だけローテーション組んで育てようと、結論ではないけれど、一つの方向としてでている。だけでもこれは、女が一

人で、あるいは男と二人で育てる方が、もしかしたら楽かもしれんとも思える程のしんどさははらんでいるのだ。ローテーション、しかも夜だけ、で子供育てるのは、考えてみりゃ、すごく不合理で、だけれども、私らの今在中で、なにがまずできるのか、と考える時、最初の一步はとにかくも踏み出さねばならない。具体的にやってみることからしか、他の子持ち女との関わりも、次の一步もでてこんだらうから。

場所は、ここにはならんだらうな。ここは子供にはしんどすぎる。子供が自分を最大限生かせるように、子供の生活のペースにあわせるような形で、その場所をおきたい。子供との関係、云々言った所で、子供も女も、お互い満たされていような状況か、少なくとも、その方向むいてなきやあ、という所で。

ガキ生むのも育てるのも単純なものなのだ、という顔をしていたのだ。人間の生き様なんて、単純なものなんだ、と、ひらきなおっていたのだ。せめて自分の生理の、単純さに見合うような生き方でありたいと思う。ひらきなおりからぶつかる、どろどろ複雑カイキな現実に向かえる場をこそ、ここで作っていききたいのだ。どんな文章も、どんな観念も、ひとつの現実の前に色あせるのだ、ということ。色あせたバラ色の未来など欲しくないのだ、私は。私をいじげさせるのは、抽象化された資本主義でも家制度でもない目の前にある書類の山であり、タイプライターであり、クソ高い歩道橋であり、ホレた男でもあるのだ。言葉による美しい未来は私の明日を撃たない。よりリアルな場の表出と、そこを貫く関係を——と。

〜関西リフ仕事部屋は〜

(おわり)

大阪府茨木市下穂積2-1-2-10

ラビアンヌレポ1806号 上 田明子

「民法七百五十条の改正に」 立ち上がろう！

新谷
広美

ずっとまえ（はつきり言えば第三号で）結婚時の改姓について不満を述べた私めだけれども（皆様、思い出して下さい）、その後ますます、あの憎っくき民法を改正したいものだという気持抑えきれず、今日、ここに、賛同者を募集(?)し、改正への行動に移りたいと思うのであります。私めの趣意を、述べますので、よろしく御連絡下さい。

(参考) 民法第七百五十条 夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫又は妻の氏を称する。

趣意

一、ここには、結婚する男女は、どちらか一方の姓を称する、とあるが、女が改姓するのが、現在社会的な常識となっている。新民法では、個人と個人の結びつきを婚姻の基調としているはずなのに未だに、「結婚」というと、「家意識」「嫁ぐ意識」「もらう意識」がぬぐいきれないのは何故だろう。この民法のせいだ。そもそも、「氏」というのは、その一族をあらわすものであるならば、相手の氏を名のりすることは、相手の一族に属するという以外何ものでもない。いくら婚姻とはいえ、一個の独立した人格に、他人の氏を名のる義務を課して良いものだろうか！

「男女どちらか」ということで男女の公平が期されていると言われるかもしれないが、この民法について男側から不満が出ないとすれば、男が改姓することが少ないからであろう。もしこの民法の、「夫又は妻の氏を」という部分が十分活用されれば、男側からは、もっと不満が出るだろう。

よって、結婚時の改姓を廃止したい。

二、結婚時の改姓に、「家」の残像を見るのであるが、そうなくとも、そんなに簡単に姓を変えたくないと思うのである。

生まれた時から名のっている氏名は、もはや自己の人格そのものである。個人の存在は、氏名のあることによって認められているのではないだろうか。(昔の名字帯刃は権利であった。)私にとって自分の氏名は自分そのものの存在を示している。簡単には変えられない。まして、人の姓に。もし私が心から「名を改めたい」とすれば、私個人の中に何らかの変革を望むときであろう。結婚は、私の中に変革を起すものではない。結婚してもしなくても私という人間は同じなのだ。

よって、結婚しても旧姓で通す権利を獲得したい。

三、改姓による不都合、不便、には耐え難い。多くの女が外で働き、資格を有する時、改姓は、まことに困る。職場の人も困る。教え子も困る。免許の書き替えに金もいる。結婚、離婚、また結婚と姓が変わっては忙しくて仕方がない。

という訳で、今のところ、婚姻の際の改姓を、廃止するか、あるいは、せめて、旧姓を公用できる権利を獲得したいと思うのです。

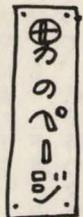
妻や、ヨメや、ムコ、が、本人自身の氏名を名のる時、結婚につきものの、憂鬱な家意識は、多少なりとも消えてゆき、家と家との結びつきではなく、本当の個人と個人の結びつき、という意識に変えられるのではないかと思います。

第一歩から始めたいと思います。婚姻と姓のことを、もっと考察し、具体的な、民法改正への方向を、思考錯誤する段階から話しあいたいと思います。

有志の御連絡をお待ちします。また、すでに、そういう活動をなさっている方がおられましたら、お教え下さい。

連絡先 TEL(夜間)〇四七三一二三二五五四〇

手紙 市川市新田四ノ九ノ廿一 土屋方 新谷広美



— R・D・レインの

存在論を中心にして —

△前号からのつづき▽

我々はこの関係からほど遠い。

一般に我々は生まれおちるとすぐ、実にさまざまな欲求をコントロールすることを学んでゆかなければならない。このことを社会化と呼んでいるが。社会化していくことは、ほとんど「してはいけない」ことを学ぶことだといってもよいくらいだ。もちろん「しなくてはならない」こともだが。子供は自分の欲求をコントロールし、衝動を統御することを学んでゆく。これは愛によってなされる。学ばば愛され、受け容れられ、ほめられる。学ばなければ罰をうける。これは親にとって子供に対して急速にやられる。そうでなければ社会から、社会化されなかつた子供は、病的だというレッテルをはられる。かくして愛は子供にとってマヤカシであり、暴力行為となる。ラバユは『レイン論』の中で「社会化するとは全面的に自己自身となるという子供のもっていた可能性を破壊することでもある」と云う。こうして子供は、もしかして自分自身になれるかもしれないという望みを持ちつづける者と、「あきらめ」によって引き裂かれた自己を背負ったまま大人に入ってゆくものとに別れる。この「あきらめ」はしばしば「適応」という言葉によっておきかえられる。このもしかして自分自身になれるかもしれないというはかない望みは、残念ながら現実の社会ではその足場もない、待ちうけているのは絶望と存在の不安定さである。

「自分が気が狂うのではないかと恐れていない人がいるだろうか(フアイアストーン『性の弁証法』)」

かくして引きさかれた自己は理解される(把握され、了解される)こと、愛されること、そして単に見られることにすら自己の存在が危険にさらされることもあるだろう。

もう一度MARYさんのことばをみてみよう。

〃ひょっとしたら生きていることも錯覚なのかもしれない〃

〃なにもないんだ。……存在そのものが無いんじゃないか〃

存在論的不安定にある引き裂かれた自己にあっては「彼は、実在的であろうとするための、自己や他者を生き生きと保つための、自己のアイデンティティを維持するための手段を工夫することに熱中し、彼がしばしばそういうように、自己を失うことから自分自身を守るための努力に没頭しなければならぬ。」(レイン『ひき裂かれた自己』) 彼らにあっては関係とはおよそ恐怖の対象であるだけだ。彼らにあって安全な関係とは一方的に自分だけが観察者になれる関係、つまり観察者でない他者と観察者である自己の一方通行的關係である。

一般に離人症などの精神病は、自己を失なうことというふうに一面的に理解されがちだが実際には、自己を失なうまいとする自分自身を守るための努力なのかもしれない。

〃呑みこみ、〇石化、離人化等、自己が無くなってしまおうという恐れ、存在が呑みこまれてしまおうという恐れ、自己が石、ロボットなど実体性のないものに変わる、ないしは変えられるという恐れ等、存在が無いんじゃないか、引き裂かれているという存在論的不安定にある自己はそのような危険にさらされている。

〃ひょっとしたら生きていることも錯覚なのかもしれない〃

〃なにもないんだ。……存在そのものが無いんじゃないか〃
彼女のことは詩的ではあるがしかし、決してウソのことばではない。離人症等、精神分裂病は決して我々の今の存在と無縁ではありえない。引き裂かれている、引き裂かれつつある我々にとって、自己の存在論的安定とは何か、主体性とは何か、生き生きと生きた実体としての自己とは何か、我々は今、真剣にさがさなくてはならない。我々の本来の關係とはどういうものなのか。自己をとりもどすとはどういうことなのか、自己の存在と社会とのかわりあいと

はどういうものなのか。

『われわれが正常性とか健全性とか自由とかよぶところの、今日ごくふつうに蔓延している狂気の文脈の中ではわれわれの關係枠の一切が曖昧で両義的である。「アカ」であるよりは「死ぬ」ことの方をえらぶ人間が正常といわれ、自分自身の魂を失ってしまったという人間が狂気にされる。「人間とは機械なり」と述べる人間が偉大な科学者で、自分は機械だという人間は精神医学のジャルゴンで「離人」症といわれる。……ある精神病院の十七才の少女が私に言った。私は自分の内側に原子爆弾をもつが故におそれられているとそれは勿論妄想である。しかし自分たちが最後の審判の日の武器をもつことを誇りかつ脅しとするところの、この世界の政治家たちの方がはるかに危険であり、「精神病的」というレッテルを貼られる人々の多くより、はるかに「現実」から疎隔されている。

……われわれの「正常」な「適応のよい」状態があまりにもしばしば 恍惚の放棄、われわれの真の可能性への裏切りであるにすぎるということである。われわれの多くは、「にせ」の現実に適応するため「にせ」の自己を獲得するということに成功しすぎている。』(R・D・レイン『ひき裂かれた自己』)

1949年ボーヴォワールが「人は女性にうまれるのではない。女性になるのだ。」と言ってから久しい。女をつくられた性として男の附屬物としての他者とみてきた。我々は女性の主体性の確立としてのみ女性解放をみるのではないが、しかしそれは大きなウエイトをしめる。生きた、生き生きとした自己として女が生きつづけてゆくには、まだまだ道は遠い。むしろ、ますます遠くなってゆく気がしないでもない。今はますます反動化しているのだ。その中で、ただ日常生活における反抗のみとして自己の存在を確立しようというのか。そうではなく、あらゆる全面的な変革を、女性解放運動は目ざしていかなくてはならないのだ。そうでなければほんとうに「存在そのものが無くなってしまうのだ。我々はいま「存在のふち」にただずんでいるのだ。(一九七四・五・一二)

「わたしの解放」

富山妙子著
筑摩書房 八八〇円

著者は一九二一年神戸生れ。「満州」に育つ。戦争を知っている大人たちが懐しげに語る「開拓」の大地は、自らの苦役によるのでなく（『内地では日本人が満人のように苦力をしていた』）神社と「御真影」の虚妄の地点であったと少女期の目を通して回想する。日中戦争の中で、アジアの虎狼では

ないもう一つの西洋（自由）を希求して画家を志望した著者の自己変革の歴史であり、侵略と抑圧の現代史を透視させる。

しかし、日本の軍国主義と家父長制を呪い青春を投げこんだはずの女子美とは、個性を殺し、パリ留学即帝展入選のための女の軍律組織であったのだ。個性開眼、芸術至上主義を標榜する日本版「パウハウス」の画学生となるが、教師である画家たちは、『国家とか、政治とか、大衆から離れ、絵画の純粋性』を「守る」にはあまりにもろく、古き良き時代にヨーロッパに遊学した上流の子弟たちであり、そのレジスタンスは受け継がれない。大政翼賛会の下、日本浪曼派が日本美の再発見を言い、「エコール・ド・パリ」の生活に酔いしれる時、著者の西洋

自由というレアリテもまた「内地」で崩壊していく。

「家」には抵抗しても「国家」重圧には影をひそめる「芸術家」たちは、「特上の玉露で現代美術を語り、恋愛によって結ばれた女たちをぼろ布にする。著者は閉塞した彼らとの交流、恋愛、共同生活、二度の離婚を経て二人の子供と戦後を生きる。青春のタブローが空白の重みとなって残った時、炭坑に絵画のレアリテを求めてその鉞脈を掘りつづける。「なんの疑いもなく社会主義リアリズムを信奉している人たちのなかで私はそれを批判し、ブルジョア画家とよばれる人たちのなかで擁護している私は、いったいどこに自分の足場をおくのか」。

その本

「韓」国の四・一九革命、安保・三池闘争は「日米新時代」によって

かき消され、ある者は一家を建て、ある者は棄民として南米へ。著者も旅行者として移民船に乗り込むが、ブラジルの日本人街でのひどい「カルチュアショック」、キューバの「陽気な社会主義」、またユダヤ系ドイツ人としてブラジルへ亡命し、軍事クーデターによる弾圧をのがれて西ドイツへ逆亡命するF博士のことなど、国家は人間の人生を切りぎさむことを思い知らされる。二度目の旅ではチエコ事件、中近東戦争など、人間の権力。権威や抑圧・差別からの解放は決して地球は

一つ「といった奢りや画一的な幻想では得られないことを示唆している。

市民運動を通じ、「過去にひきもどり、国家に小さな『私』を対決」させ、金芝河、徐兄弟ら救援（現在も二邦人を含めて助ける運動を起こしている）のため「韓」国に渡った著者は、そこでキリスト教徒の朝鮮人から血の決済表をつきつけられる。『日本の知識人も、国家権力によっていたためつけられた歴史は私たちと共通でしょうが、権力の大もとの天皇制批判は表面に現われませんね』と……。「アジアは一つ」という錦の御旗がひるがえりつつある今日、私たちへの最大の警鐘であり、その生命をかけた叫びを黙殺してはならないだろう。（北 真偷木）

「女・エロス」の読者会

11月9日山手マンションの住民ひろばで「女・エロス」の読者会がひらかれた。50人ぐらいの女たちと少しばかりの男が集っての熱気ある会社でのお茶くみ問題をどう処理しているか、男との共同生活でいわゆる「家庭」化を防ぐには？などなど。

女がこんなふう悩んでるのに、おそらく男はこのどの問題にも悩むことを知らないだろうと思うと、アンチクショウメノとくやし涙がでた。（M）

「未婚の母」K子さん裁判の
「和解」調停成立

主な和解条件は左の通りです。

- ① 子供を判決にしたがってS方に引渡す。
- ② 引渡し後は、子供を正式にK方に返す。
- S方はおじ、おばの立場でつき合ひし、子供を養子に出す場合はS方に相談し、S方を無視しない。

- ③ K方がS方を慰謝する(Nの妻も)。
- ④ S・N方よりの告訴・裁判の全てを取り下げる。

『子供は返ってきましたが、決して満足はいく解決ではありません。しかし、判決に負けて(裁判所がいう4回も負けて)いる現在の私には、何の反論も、しゃべることも許されないのです。京都地裁の未婚の母勝訴の判決内容を見ますと、私の場合とはまったく逆で、親権・監護権のない実父夫婦が育てることは違法行為」というのです。それなのに私の場合は、まったくの他人で親権・監護権もないのに、竹内判決は働いている、未婚であるという理由で、違法に子を取っているS夫婦を勝訴させたのです。……裁判の非情さにく度泣いたことでしょう。……法的に安定して、堂々と子供とくらせるそのことだけに、ひかれての和解でした。失ったものは多かったです。裁判で争っても、もう数回負けている私には、現在の制度の中において

勝つ見込みはないのです。だからこの調停で成立させる以外に子供を守る方法はなかったのです。今後、何があっても裁判だけはしたくないのです。

『本当に長期間の御支援ありがとうございました。』(K子さんの手記―支援ニュースより)

お知らせ!

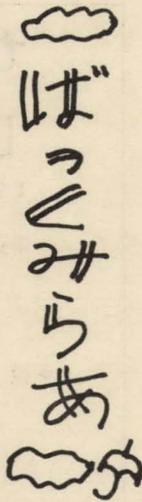
★住所変更

○札幌こむうぬ 札幌市北区24条西
4丁目 北田方
○おんな寺小屋 名古屋市中区宮前
町4-20 第一ビル3F

★関西地区のおんなたちへ。東京や名古屋や北海道や九州や、いろんなところでいろんなおんなたちがはりきっているけど、大阪もがんばっているのダ。空手やりたい人、空手教室やっています。職業病問題にかかわりたい人、グループあります(とくに頸腕)。その他、刑法改悪学習会、妊娠・中絶に関すること、グループ保育など。とにかく連絡は大阪府茨木市下穂積二一十ラビアンヌレポ1306号 上田明子まで。機関誌「あじやら女」№4も最近でたばかり、その他各種パンフたくさんあるのデス。(電話0726-27-5553夜)

★原稿おくって下さい。女が旧姓を使えるよ

うに法改正運動がはじまりましたが、あなたほどのように自分の名前を維持しているか苦心談秘訣いろいろ語って下さい。あるいは結婚して籍を入れないためにかかったこの世の圧力についてなど。原稿用紙400字2枚におねがいします。大阪「女から女たちへ」まで。



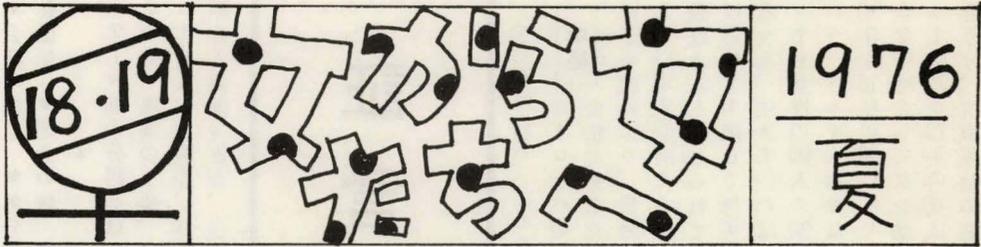
★夏に№12をだしてからやがて秋がすぎて冬が訪れようとしているいま、やっと№13です。手づくりを楽しんできましたが腕をいためたため、今号から印刷に出すことにしました。ページ数に制限がありますので投稿規定をつくりました。400字詰原稿用紙(200字詰でもよい)で、本の紹介は一冊につき一枚。男のページは2枚。主張、報告など女からの投稿は7枚(それ以上は原則として連載にします)。原稿はかならず原稿用紙にかいてください。★「女・エロス」にガリ刷りの助手をお願いする広告をだして、多くの方々の申し出をうけました。ほんとうにありがとうございます。今回からはその必要がなくなりましてのでお礼とともにお知らせします。★次号は新年の酔いがさめた頃にとっています。(majoro)



女から女たちへ
No. 03

1974.11 ￥50

- 申込み：東京都目黒区大橋
2-22-9の1013
鈴木方
- 投稿：大阪府茨木市大池
2-11-8
玉木ビル301



特集・女への犯罪を告発する国際裁判（ITCAW）

ブリュッセル 1976.3.4～8（会場：パレ・デ・コングレ）

ボーヴォワールのメッセージ

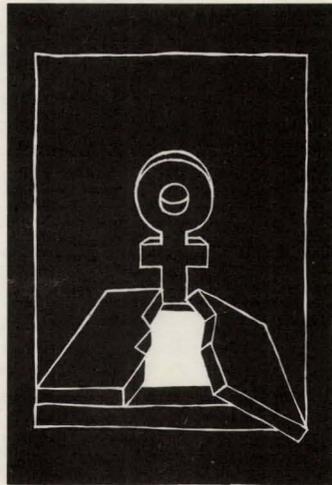
今日、わたしはあいにく参加できなくて、残念ですが、心の中では参加しているつもりです。この「会議」は偉大な歴史的事件だと思っています。国や党から委任されてきた女たちが、男社会に女を統合しようとした——メキシコ大会とちがって、あなた方は、女たちが受けている抑圧を告発するために集まりました。

この抑圧とたたかうために、すでにかなり前から女たちが多くの国で集っています。でもまだお互いに知り合っていない。

今はじめてさまざまなグループが一同に会し、全世界からきた女たちが、女の状況こそ女への犯罪の根源であることを自覚することになるでしょう。

みんなで話し合うこと、世界に向けて訴えること、人類の半分が隠そうとしている恥ずべき真実を明らかにすること、「会議」はそれ自身においてひとつの行動であり、これからはじまる多くの行動の前ぶれです。

（当日、都合で欠席のため寄せられたメッセージです。）



もくじ

ボーヴォワールのメッセージ	1
プログラム	1
証言集	2
これよ　これが地球の女やよ（河村）	4
座談会・「会議に参加して」（司会・松井）	6
International Sisterhood（伊地知）	9
ブリュッセルの体験（プロデリック）	10
自己規制をふり振って（片岡）	11
ぱくみらあ	12

〔上の絵はITCAWのポスターに使われたデザインです〕

プログラム

- 第1日 ▼開会の辞II ボーヴォワールのメッセージ ▼開会までの経過報告 ▼
- 第2日 ▼証言△労働▽家事労働の疎外・就職差別など
- 第3日 ▼証言△人種差別と性差別▽マイノリティ・グループの問題 △強姦▽
- 第4日 証言△女性政治犯に対する拷問▽ △レズビアンに対する迫害▽ △夫の暴力▽
- 第5日 ▼証言△売春▽ △ポルノ▽ △女殺し▽

▼会議の反省 ▼各分科会の決議の発表と行動提起 ▼閉会の辞 ▼記者会見

テーマ別の分科会は毎日夕方から開かれ、その他、映画の上映、パンフレット、本、レコードなどの販売、妊娠を自分で知る方法の紹介と実演などが、自主的におこなわれた。

証言集

(これは資料、メモをもとにまとめました。)

中絶 ヨーロッパの多くの国では中絶が非合法であるため、望んでもいないのに子を産んだり、自分で中絶したりという痛ましい現実が訴えられた。アイルランドでは避妊さえも禁じられているし、ポルトガルでは自分で中絶して毎年2千人の女が死んでいるうえ、生きていれば投獄されるし、スペインでも女性の囚人の30%は中絶の罪によるという。ベルギーもおなじで、中絶した医者は10年、15年の罪になり、すでにカナダでは安全な中絶をして女を助けていたモーゲンテイラー医師が73年の夏に起訴され、18カ月の刑をうけ、抗議運動の結果、10カ月服役した76

年1月26日によろやく釈放されている。中絶に關しては「金もちは外国へ、貧乏人は牢獄へ」といわれ、イギリスやオランダへ中絶に行くが、そのイギリスでは中絶の決定権が医者であり、医師の拒否にあえばできない。こうした医師の拒否は、カトリックの精神風土もつだって、オランダ、ノルウェー、オーストリア、イスラエルなどにもみられる。

プエルトリコでは中絶が禁じられているので、医師は出産直後の女に不妊手術をすすめ、20才、27才の女の3分の2がその手術をうけているが、これに対して「不妊手術はジェノサイドだ」と訴えていた。

女が中絶の権利を獲得しないかぎり、女性の性生は抑圧され、女は肉体から疎外されつづける。「女のからだは女のもの」というあたりまえのこの意味を女は確認しておかなければならないと思つた。

家族・労働・法律

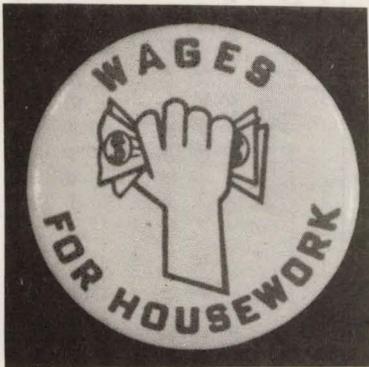
女が家庭にとじこめられ、外に出れば低賃金が待っている状況は、どの国も変わりないようだ。労働組合は男中心で、女にたいしては偏見をもち、女を支援しないばかりか、女は家にいるべきだという(スイス、フランス)。

内では家事・育児が足かせとなり、外では年功序列制度が壁となって、女が仕事をえて自立するのはむずかしく(ベルギー、オランダ)、また大半の女が生涯を家事労働で終るのに、それにはなんの社会保障もない。

家事労働が女の無償労働であるため、外で仕事をもちたときにも、無償の「家事労働的」サービスを要求されて、女は内と外で二重に搾取されている。これにはイタリア、イギリス、カナダの女たちが「家事労働に賃金を支払え！」という運動を大きく展開している。

こうした条件のもとでは、離婚したあとの女のくらしは苦しく、別居手当も男の善意によるから、払おうとしない男をどうにもできないし(フランス)、未婚の母は売春婦になるしかない(ポルトガル)。またイスラエルでは妻は夫の財産だから、女は離婚を夫から買わなければならない。

夫の暴力にあい、逃げ場もなく、自立のあてもない女とこどものために、イギリスをはじめとして各国で避難センターが女によって設立され、その輪はひろがっているが、政府が出資する国はまだ少い。



〈家事労働に賃金を—とかけたバッジ〉

強姦・ポルノ・売春

強姦は被害者の女が犯罪者のような問われ方をする事件である。フランスでは2人の女がキャンプ中に、3人の男に強姦された。男のひとりか街で彼女たちに言い寄って拒絶されたため、彼らは「男らしさ」を侮辱されたと思ひ、復しゅうするのがあたりまえだと考えたのだ。彼女たちは大声で助けを求め、キャンプ用のハンマーで5時間も抵抗したが力つきてしまった。裁判では、ここで「合意が成立」するとして、強姦事件ではなく傷害事件にされてしまった。強姦されたことを女が証明せねばならず、その最上の証明が「死ぬこと」であり、生きていることは「合意」の証拠なのだ。女たちの抗議運動の結果、彼女たちは勝訴したが、ここに至るまでには、腔を調べられ、冷淡な裁判官の質問に答え、という過程を経なければならなかった。スイスの女も、裁判で強姦された状況を根拠を葉ほり問われ、男の警察、男の裁判官、男の裁判所のやり方を女にたいする心理的な犯罪だと告発した。

アメリカやオーストラリアでは被害者の女たちの力になるレイブ（強姦）センターがすでに活動を開始、他の国々でもその動きがはじまっている。

デンマークでは性犯罪が少くなるからというので69年にポルノ解禁になってから、残虐なセックス、強姦など、女がただの肉片に

すぎないような映画がつくられて、男と資本が利益をえていると告発。

元売春婦だというアメリカの女性は、売春婦になるのは貧困が原因であること、売春婦だけを逮捕して買ひ手の男を取締らないのはおかしい、多くの売春婦が客の男に殺されているが、闇に葬られたままであること、を訴えた。

人種差別 + 女性差別

南アでは黒人女性性は6階級の最下位におかれ、職業の自由も居住の自由もなく、家を借りる権利もない状態で、食べるためには12才の少女も売春婦になっていく状態である。またアメリカの先住民（インディアン）の女性は、彼女と子どもにおそいかった白人男を正当防衛で射殺したが、裁判ではそれが認められず、目下斗争中で、支援を訴え、署名と多額のカンパが集められた。オーストラリアの先住民、イギリスのインド女性も二重差別の実情を報告した。



〈私は女を愛する〉

レスビアン・女性政治犯

「私はレスビアン」 「私は女を愛する」と書いた大きなカードを胸や背中につけて、大勢のレスビアンたちがステージにかけあがり、就職差別、日常的な差別、女が男なしで生きることに対する男社会の抑圧を訴え、レスビアンの運動はリブの運動と共にあると語った。

女の80%は貧しい農民であるというガンジ1政権下のインドでは、物価高の抗議デモをしただけでも逮捕され、獄中では女性の性器にタバコの火をつけたり、鉄棒をつっこんだりの拷問が加えられており、またチリーでも秘密の刑務所で妊娠中の女性囚人をなぐったりけったり、中絶を強制したりしていることが報告された。



〈老年を考ふる分科会〉

その他、書ききれないが、女への犯罪が、じつに、女のからだ自体からはじまって社会生活のすみずみにおよび、生涯にわたっていることをはつきり知らされた告発会議であった。（三木草子）

これよ これよ これが地球の女やよ

河村悦子

一五〇〇人以上が参加したITC A Wは、政府・組織団体代表の集まりではなく、民間主催のいわば「肩書なし」の会議であった。ただ申し合せとして、女の経済的貧困や労働における差別、性的暴力などが、国際政治経済体制と密接に関係していることは確かだけれど、そのために女同志が国境を敷いて代理戦争をするのは避けよう。自分たちの周りにある差別や精神的肉体的暴力を生存権否定の犯罪として告発し、連帯を強めようということであった。

よく世界会議を形容して「国際色豊かな」という表現があるが、単なるお国自慢や政府肩代りの声明の場でなかったことが何よりも好ましかった。

会場風景を見渡すと、妻と子どものための避難センターをつくったイギリスのグループ（夫の暴力で片目を失明した人もいた）は、居住権・就学権・自治体の援助を勝ちとったとはいえず、服装もあり合せといった感じ。けれど、みんなハレの衣装とは程遠く、学生はヤッケスタイル、多くはジーンズにTシャツ。それに更紗や手織り風のショールを肩に巻き、会場で売られていた数種のバッジを好き

なだけつけるといった具合。♀マークをアレソングしてポンチョに染めぬいたフロリダの白人は、女のミニコミを出している五十過ぎの人。セーターに大小段階的にいていねいに編み込んだ人も。単なるファッションとして見過ごせない。♀のペンダント・イヤリング・指輪などもザラで、資金源として売っている。スピーチだけでなく、こんなところにも表現力や行動力があるのだなと感心しつつ、日本では案外できないデモンストレーションだし、♀・「女」文字に対するアレルギーの強いことに気づいてしまった。

同時通訳はもちろん参加者の中から。公用語ではなかったが、ドイツ語勢が多いので委員会からポランティアを求めると、その場でマイク室へかけ上がる人が出現。sisterhoodも盛り上がった。

証言のテーマ別にみると、強姦（仏・北欧など）夫の暴力（英・蘭など）ポルノグラフィ（北欧など）フランス以北のヨーロッパ勢が目立った。それに女性政治犯に対する性的拷問、強制避妊手術と女へのムチとメスが続々。アメリカが証言のタイトルに使ったフェミサイド（女性皆殺し）が単に誇張でないと感じてしまう。むしろこれらの暴力は同時に同所性を持たないし、一時的にせよ恒常的にせよ、男女の個人的関係に性愛の問題を前提として判断されるから、犯罪性の立証および類型化はされにくい。警察や司法の調査・裁

定にも、因習や怪しい精神分析を伴っており、世論の支援がなければ女の正当性さえも認められない。会議では強姦裁判で闘争中の女たちが証言し、支援の輪がぐんと広がった。例えば、一九七四年マルセイユ近くを旅行中の二人が三人の男に輪姦された事件。一九七一年、中絶解禁のため「三四三人宣言」にポーヴォワールらと参加したジゼル・アリミが弁護士として法廷に立ち、パリのフェミニズムグループ「シヨアジュール」が支援。二月初旬、ITC A W参加国や各地の支援アピールを集めて勝訴した。犯罪の告発と女の連帯を呼びかけた会議の成果とともに、互いに知ることの強さを認めたい。ところが、日本で女が告訴したとあまり聞かないのは、事件が少ないからだろうか？ 例の大久保事件や最近の女児暴行が殺人に終っているのは…？ いいかえると身の潔白を証し、世間の一致した同情を得る被害者になるには殺されるのが一番ということになるのだが、被害者の声はまだ出せないと考えた方がよさそうだ。会議で証言した女たちは、強姦を証明するために、男の警官、医者、陪審員、判事の「強姦」を受けるのだと訴えた。

よく男の暴力を正当化するのに「女にはマゾが好きなのがいる」「性格矯正のためのやむをえぬ手段」「男の衝動を触発するような言動時刻・場所：」云々が持ちだされる。が、それは、女の生存権・自律性・異議申し立てを

放棄せよということになりはしまいか。また男女の関係を積極的に見直そうとしない人は、「暴力否定だが一方的にいいない」従って告発しないで、その男を肯定してしまうのではなからうか。ただし事件としての暴力だけでなく、日常をとりまく男根主義とをしっかりと結びつける視点を失なうてはならない。処女性崇拜も非処女性崇拜も、あるがままの女を見ない男の妄想であり、男の支配欲に根ざした性の解放に迎合しないことを女たちは宣言しているのだ。むしろ男と女の関係は分裂・対立にあるのではなく、互いに自立して解放されることだ。女同士はやつと連帯をし始めたが、男もいつまでも一匹狼でいることはない。男社会の中で孤立を感じだした男から仲間をつくり、男と女の関係を繕ざらいつてはどうだろう。女たちは、女の社会（労働）参加と男の家事・育児参加を呼びかけてきた。しかし、家庭は、女がそうであるように、家事ができるだけのロボット男を作りだす場としてあるのではない。日常性の中からトータルに出会う場として選びたい。

ともあれ、西洋の男女の対立は、日本と比べてより先鋭的で顕在化しているといわねばならないだろう。中絶・離婚を許さないカトリックやルソー以来の近代家長主義との拮抗ともいえるし、個人主義の発達に起因しているかもしれない。一方、まるとご家族制度社会に組み込まれた私たちは、男も女も対立

以前に自己規制してしまっているのではなからうか。あちこちで「日本の夫婦は自分たちのセックスや愛についてよく話し合うか」と質問を受けたが、「現代ではマスコミの押しつけとは反対に、主婦同士、家族間でも性に對するタブーがあるのだ」と力説しなければならなかったことをつけ加えておく。

男女対立の最も先鋭化した部分がリブの中のレズビアンだ。会議では西ドイツ・オランダなどがレズビアンに対する迫害を訴え、数十人がデモンストレーションやマイク占拠しているのを見ると、今後女性解放を云々する場合、その位置づけの検討をせまられているような気がした。ホモセクシャルが古代ギリシャ以来、むしろ人間の愛で最上のものとされ、支配階級や文化人に受け入れられて市民権を得つゝあるのに対し、地下からはい上がったとたんに石つぶでの投下を受けたレズビアンたち。西ドイツは、「フライング・レズビアン」というレコードとロックバンドを送り、フランスは「デ・ファム」という女の出版社が関連書物を売っていた。

あわただしい旅立ちを前に予想できなかったのが在欧の女たちの参加である。ケルンの永井さん、西ベルリンの寺崎さんとパリの玉木さん。昭和一ケタ、十年代後半、二十二年生れの三人の文句なしに若かったこと。独身で、女のグループには属していないが自立した（個人主義の世界では、カラダとココロが

よほど鍛えられていないと生活の自給もおぼつかない）人たちが、恣意的向上心に基づいたものでなく、日本の職場や狭隘な人間関係での挫折をのりこえたものだった。まさに女一人大地を来た彼女たちは本当にしなやか。日本のリブや女性史のことを聞きたがり、寺崎さんは日本主催のティーチンやパリから参加したベトナム人訪問のコンタクトをとってくれた。日本向け短波放送に勤める永井さんは、歴とした休暇中、私たちにマイクを向けた。翌日、オン・エアするという。またヨガを教え、ベビシッターをしている玉木さんのおかげで、彼女が寄宿するフランス人夫婦の招待をうけて思いがけない体験をした。ブリュッセルの三日月夜、中世のギルドハウス・グランプラスを見下す会場パレ・デ・コングレの前庭で、肌をさす冷氣と女たちの白いあつい息が忘れられない。

山に千年 海に千年
ああ 宇宙宏大無辺
寝たいとき 山と寝る
濡れたとき 川と濡れる
これよ これよ
これが列島のおんなやよ

「列島おんなのうた」より
深尾須磨子
(1976・5月記)

会 談 座

ブリュツセル会議に参加して

出席者 河村悦子／片岡陽子
キャサリン・プロデリック／
三木草子／松井京子（司会と
まとめ）5月15日、プロデリ
ックさん宅にて。（伊地知さ
んは都合悪く欠席）

とになった。何だか早かったわね。

★印象に残ったスピーチ そして
レズになる理由がわかった

五日間、朝早くから夜おそくまで、外
国語の渦の中に放りこまれ、フラフラに
なりながらも、精力的に話をきき、発言
し、歩き回った女たちに、オモテ話・ウ
ラ話をしてもらいました。（松井記）

★参加の動機はそれぞれ……

河村 前から西洋へ行きたかったのと、夫に
も一人暮らしをさせるため。安いツアーがあ
ったので、伊地知優子さんの話をきいたとき
すつと参加する気になりました。

片岡 私も同じ。夫と子どものサービスマン
者から逃げ出したかった。

プロデリック 私は以前、二年間いたパリに
行きたくて。

三木 伊地知さんの話を「れ・ふあむ」の集
いでできたのが一月半ば。末にはもう行くこ

河村 印象的だったのはイボンヌ・ワンロー。
落ち着いた言い方で、裁判闘争のためのカン
パを訴えると、すぐ袋や帽子が回された。英
語が全部はわからなくても、気迫が伝わって
くる。それからベトナム女性が「リベラン
オン」紙記者である夫（フランス人で離婚）を
告発したこと。家事・育児を押しつけた上、
彼女の論文を自分の名前で発表したとか。サ
ルトルのかかわる新左翼系新聞でも、そんな
ことがあるなんて。だけど彼女の発言中、フ
ランス勢からヤジがとんでいた。

三木 日本でもおなじよ。政党、労組の活
動家も、妻の内助の功を高く評価しているか
ら。

片岡 妻は結婚したとたん、夫と対等でなく
なると、私も発言したんですが、ベトナムの
女性ほど強く告発できなかった。高群逸枝の
ことと、妊娠・出産がまったく、わたくしご
とにされていることを話しました。夫がいじ
わるでなかったも、何かと妻が自己規制して、
我慢してしまうでしょう。

三木 本心に、自己規制が強いわね。もっと
自由になるべきよ。自分が我慢すると、結局、
他の女にも我慢を押しつけることになるから。

私はK子さん事件を報告し、あの判決はK
子さんにだけ向けられたのではないといった
の。私のほかにも二、三人が未婚の母（シン
グルマザー）について発言していたけど、彼
女たちは、中絶できなかったから、未婚の母
になったわけ。日本なら中絶か、生むか、自
分で選択できるから、未婚の母はかっこいい
面がある。欧米、とくにカトリックの国は、
やむを得ず、生むわけで、子どもをしょいこ
むのは大変だという意識が強い。日本では子
どものいる方が一人前に見られるけど。

中絶への関心がとても強くて、日本でフリ
ーだというと、びっくりしていた。カトリッ
ク国からイギリスへ中絶に行く人もいるけど、
精神科医の判定によって中絶できるかどうか
きめられるしね。男を拒否して、レズになる
面もあるんよ。

片岡 会議へ行って、なぜレズになるか、わ
かったような気がしますね。中性の魅力もあ
るし。

河村 亭主が暴力をふるうので、愛想をつか
して、レズになった人も。欧米では、女と男
がとことん出会った上での結果かも。生まれ
つきという人もいたでしょう。

三木 異性間の場合とおなじように、同性間
の恋愛が、もし小さいうちから教えられてい

たら、見方が変わるんちがう？
プロデリック ヨーロッパにはレズが多い。
いまアメリカでは、男でも女でも、というバイセクシュアルがカッコいいとされているそうです。

★子持ちはすくないリブたち

片岡 ヨーロッパのリブの人は、レズが多いのかしら。毎日、千人以上の女性が会場にきたけど、子どもはほとんど見なかった。いったい、千人の子どもはどこにいるのだろう、と思いましたが、もっと子どもの話がでる方がいいと思うけど。

河村 雑談でも子ども、家庭のことなんか口にできない感じだね。

三木 集まったのは未婚と離婚した女ばかりなんやろか。託児もなかったし、子持ちの女にもう少し配慮してほしかった。

★もちろん政治問題も

三木 キャサリン・デイ・ジャーメイというアメリカ黒人はすごいアジテーターやね。きいてて感心したわ。母子家庭に対する福祉行政はお粗末なのに、カネの使い方に口出しするので、実力行使に出たんよ。例えば、行政機関から出る一食分の費用十九セント。だからレストランへ行って、きちんと食事をして、十九セントしか払わない。文句があるなら福祉事務所へ、というわけ。オープンだったか

レンジだったか、ぜいたく品だといってくれなかったときは、わざと匂いのある食物を持って行って役所で料理する。子ども用マットをくれないときはスリープ・イン。傑作なのはピー・イン。十セント入れなきゃならない公衆便所に反対して、トイレの外でおしっこ。ちょっと日本の女には真似できないねえ。

プロデリック 政治犯の囚人に対する拷問の報告が印象に残りました。反政府運動をしたインドの例と、アジエンダが倒されたあとのチリの例。静かなしやべり方だったけど、みんな熱心にききました。



〈プロデリックさん〉

三木 マイノリティの分科会に出席したとき、ヨーロッパ留学中の朝鮮人が、「だれか韓国のことを発言してほしい、私はつかまる危険があるから」といったので、「朝日」の松井やよりさんの「キーセン観光に反対する」英文を伊地知さんに報告してもらったの。

★交流——そして在欧の日本の女たちは

河村 白人が圧倒的だったから、日本人は目

立ったみたい。

三木 オランダの新聞記者にインタビューされたんだけど、彼女自身離婚して子どもが一人いて、今、同せいでリブの活動をしているという人。K子さん事件の判決にあきれて、日本の女の状況を話してほしいといったから、日本の女は二十五才まで働く、仕事をやめて結婚するようお願い、自立して暮らすのはむづかしい、と説明したの。日本のリブはどんな運動をしているのか、全国的な組織があるのか、きかれた。

プロデリック 日本の実情、何も知られていない。

河村 私は西ドイツや韓国の学生に、キーセン観光のことを話したけど、資料など文書交流がもっとできたらと思った。

予想してなかったのに、在欧の日本の女たちが参加してうれしかった。

三木 彼女たちは行動力と判断力があるねえ。私たちが日本から持っていったビデオをうつしたいけど、どうしたらよいかわからず、ウロウロしていたら、さっさと部屋を借りてくれて、ポスターまでかいてくれて。結局、それは機械が故障してできなかったけど。できばきしているせいかな、みんな若々しくてね。

★人種差別も味わった

三木 会議中はユースホステル泊り。朝九時半から夜十時まで、全体会議と分科会でびっ

しり。外国語だから、よけい疲れちゃう。初めの日は、ほかの人も十時ごろ帰ってきたけど、あとになると、消灯時まで帰ってこない。ねているのは私たちだけだったね。

ブリュッセルはいやな町でね。

日本人というので差別されたことが何回もあった。みんなでレストランに行ったとき、パンが少ないの。ほかのテーブルは余るぐらいたくさん盛ってあるのに。我慢しようかといっていたら、在欧の三人が、絶対、抗議すべきだといって、「パンよこせ」をやりまして。会議場のレストランでコーヒーを頼んだときも、日本人を無視。これが二回もよ。切手を自動販売機で買ったら、切手が出ない。近くの郵便局へ行ったら「別の郵便局へ行け」。そこに行ったら中央郵便局へ、とたらい回し。片岡さんなんか、買物で店に入ったら袋の中を調べられたんですよ。早くベルギーを出たくて、たまらなかつた。

プロテリック そう、ほんと。

★帰国したわたしたち あふれる思いを行動に

プロテリック 会議に出て、自分が変わったと思わない。Ms.などの雑誌はみていたが、日本で孤立した状態だったので、ナマの話をき



△司会の松井さん▽

けて、とてもよかつた。ヨーロッパにもすぐくたくさんの問題がある。むこうでは知らない人とも、すぐ友だちになれた。日本で近所の人とは、つきあい以上のことはぜんぜん、しゃべれない。私がブリュッセルへ行つたことを知っていても「会議はどうでしたか」ときかず、「ジョン君（息子さん）はさびしかつたでしょう」といわれました。

三木 わたしは行動しなければあかん、とものすごく感じた。会議のあと、アムステルダムへ行つたら、もうミーティングをしたり、「イボンヌを救え」といったポスターができていたのでびっくり。会議に参加するのは簡単だけど、それだけではあかん。私の力でやれる限りのことをしたい。

河村 わたしは外国語をこれからも、コツコツ勉強するつもり。自分を表現するのが、女の連帯の第一歩。せつかく会つたのに、ことばがわからなくて交流できないのはさびしいから。日本の女も相手から吸収するだけでなく、もっとこちらを相手に知らせなくては。片岡 私がブリュッセルへのカンパを呼びかけたおかげで、今まで女性解放に関心のなかった人が、少し目を向けるようになって、近所の主婦から「新聞に出ていましたね」といわれました。私が行くといわなかったら、同じ記事を見過ごす人もいたと思います。夫は帰ってからの私の変化についていけない、しんどいっていうんですよ。留守中、娘と共同で家事をしてくれましたが、私が帰って数日もすると、元通りになってしまいました。仕事の関係で家にいる時間が短かくなつたせいもあるんですけど。私自身は、自己主張の大切さを感じました。会議でも、もっと資料がほしいと思っても、だれも配ってくれない。「必要な人は取りにくるだろう」という態度ですね。相手の立場を思いやって、気をきかせるのが美德である日本の風土にどっぷりつかつた主婦の状況に慣れきってしまったら、自己主張どころではありません。

（撮影・三木）



<河村さん>



<片岡さん>

International Sisterhood is
More Powerful . . .

伊地知 優子

女への犯罪を告発する国際法廷と名づけた国際会議に、日本から関西の五名、現地参加の三名、そして文書とフィルムによる東京の二名を加えた計十名が参加したことは、主催者側にとっても嬉しい驚きだったようです。まして欧米勢より参加決定が一年も遅れたかけ込み参加の日本が四万三千ベルギーフランのお金を短期間で集めたのですから、二度びっくり、というわけで大歓迎され、日本の女の実力まで少々過大評価されたのでは？と思える程好意的な態度は、最後まで変わりませんでした。日本が大国だなどという神話は私は信じませんが、アジアといえども日本を思い、まっ先に日本の参加を期待するという欧米人の最近の傾向は更に強くなっているようです。それが良い傾向かどうかは別として、現実日本への関心が非常に高まっていて、積極的に日本からの情報が求められているにもかかわらず、正確な情報を提供する窓口や、パイプ役、又は源になり得る人材があまりにも少ないことを痛感してきました。

反人種差別闘争も、女性解放運

動も、国際連帯によって加速がきつつつある今日、日本もそれに呼応し、連帯を強めてゆく必要にせまられています。

そんな時、国際フェミニスト運動史のページを飾る「女への犯罪を告発する国際法廷」に、十余年女性問題ととりくんできた関西の若手が出席し、更に新しいパイプ、人脈を築いてきたことは、今後の日本の運動に、もう一つの可能性をもたらしたといえるでしょう。国際会議は初めてだとおっしゃった皆さん、なかなかどうして、それぞれ堂々たる大和撫子の誇るべき新種でした。

K子さん事件を例にとり、未婚の母への抑圧を訴えた松野（三木草子）さん。制限時間内で、実に簡潔に要点を得た英語で、さすがに教壇で講義しなれた人の発表でした。ロビーでの交流や、日本グループと語る会での彼女の活躍ぶりは、持ち前の語学力に加えた長年の研究の実績があればこそでしょう。

慢然と十五年（？）主婦として過ごしてきたことへの反省からまとめた「妻への差別」をあげたフランス語の片岡陽子さん。小学校へ行く二人の子供を夫にたくして、一ヶ月家をあけることを初めて断行してみせた「主婦の鏡」片岡さんは、そういう条件下に参加したこと自体に大きな意味があった人だと思えます。ゆっくりと少しずつかな口調で語りかける演壇の彼女は、日本のやさしいお母さんをも代表していました。

なんとか発表にこぎつけようと、暴力亭主の問題を自分なりにまとめようと努力していたフランス語の平井（河村）悦子さん。結局、発表はえんりよなきったけれど、国際連帯への機会をともかく逃さず参加してみたその意欲を今後も持ち続けてください。

日本語と仏語も達者なアメリカ人のキャサリン・プロデリックさん。男の子と女の子のふたりの母親ですが、ちらほら子連れ参加の人もみられた会場で「あゝ私も一人くらい連れてくればよかった」と思われたかどうかおたずねする機会を逸してしまいました。やはり言葉の条件に恵まれた彼女が、最も気軽に参加し、交流を楽しみ得た人ではないかと思えます。日本人に混じって出席して下さって、私達も何かと力強かったです。

私達全員が、毎日討議に参加し、協力を惜しまず、最後まで連帯の一翼を担っていたことが、ヨーロッパとアメリカ勢を勇気づけ、奮起させたのだそうです。「あんなに遠くからよくぞかけつけてくれた。しかも、フジヤマゲイシャの伝統の国でこんなにも女達ががんばっているではないか」というわけです。事務局のリディアからそれを聞いた時こそ、私は、一方通行ではない「国際連帯」という言葉を実感しました。

この体験が、幸運にも出席出来た私達一人一人の将来と、それを分担金カンパで支えてくださった沢山の方々の将来に、必ず良い結

果をもたらずよう、さらにさらに努力を積んでゆかねばなりません。

分担金の四万三千フランが、女性解放への多くの日本人の願いがこめられたお金であったことが「日本の女」を認識させた大きな理由の一つでもあったと思います。

この紙上をお借りして、主催者代表ダイアナ・ラッセル、リディア・ホートン、ニコール・バンドベン連名の日本に対し特に出されたというお礼状をご紹介します、私達の感謝の言葉にかえさせていただきます。

* 親愛なるユーコ

女への犯罪を告発する国際法廷に対し、財政面のみならず、会議における出席者の貢献ぶりにおいても、これ程寛大に、強力にこの会議を支えてくださった日本の女性にお礼を申しあげたいと思います。

国際連帯による女のたたかいが、今回、多くの国の参加によって一層の前進をみしましたのも、特に日本のような遠路をおしてご出席くださった方々のご協力があればこそでした。組織委員一同に代って、心から感謝の意を表します。

四万三千ベルギーフラン、確かに領収致しました。一九七六年三月十六日

ダイアナ・ラッセル／リディア・ホートン

ニコール・バンドベン

(1ベルギーフラン約7・64円 編集部注)

ブリュッセルの体験

キャサリン
プロデリック

ブリュッセルについたときはもう空はくもり、外は寒く風があったが、パレ・デ・コングレの中では、たくさんの方からやってきた私たちの心と歓迎と連帯でわたしたちはあたたかだった。わたしは日本では言語の壁と、活動している私たちと接する時間が少ないので、孤立感を味わってきた。いまわたしは思う存分の交流をえ、実際、あんまりたくさんなので、5日間の短い会議にはいきらないほどだった。失望したこともまた、あった。わたしは幸福な結婚をして2人の子の母親であり、専任の大学教授でもあるという自分の身分が、よくうけとられないことに気づいてすぐに会話の中で「わたしの夫」というのをやめるようにした。たとえ心の中で深く感動しても、わたしは耳にした問題の多くから自分が離れたところにいるのを感じました。しかしわたしはアメリカから脱した状況に身をひたすことができ、しあわせだった。(つまり、わたしはアメリカのそとにいるいく人かのアメリカ人ばかりでなく、ヨーロッパの、アフリカの、アジアの、わたたちの中にうれしかったのだ。というのはそれは、自分がアメリカのなかにいる場合よりもっとうまく物語ることのできるような体験であり、もしアメリカにいればわたしは目の前で進行していることからもっと切りはなされていると感じただろうと思うからだ。)どれほどわたしはわたしのまわりにいるわたたちのエネルギーや勤勉さや誠実さをうらやましく思ったことだろう。わたしにはなにかに没頭する時間がほとんどないのに、このわたたちは彼女たちの人生の、仕事の、大部分を他のわたたちにさげている。全参加者1500人のわたたちの間には、全体として、ゆさぶるほどの一致団結は感じられなかったけれど、ひとたび小さなグループの中に加わると、はげまじやほんとうのふれあいがあるらしいものだったし、またそれはわたしの毎日の生活に欠けているものだった。証言したわたたちの勇気はなんどもわたしの涙をさそったし、自分自身をあわれに思う感情をどの女もはねのけていたことは、証言のもっとも印象的な場面のひとつであった。あれほどの噴激、あれほどの怒り—そしてその憤激や怒りの理由の真相を見きわめそれを変えようというあれほどの決意—はわたしたちすべての人に力をあたえた。ブリュッセルではあまりにたくさんのでき事があったので、わたしはひとつに没頭したり分類したりすることができない。会議から

およそ3カ月たったいま、わたしはさまざまな印象や記憶や会話を、転じて、その意味や本質やすべての体験の味わいをさがしだそうとしているところである。わたしの夫と子どもたちは、その間、1カ月をおだやかにしあわせにすごした——夫はわたしが行くことにたいへん協力的で、彼はこのことについて子どもたちによく話してやったので、子どもたちはわたしの旅行をあたりまえのことだと思っている。他方、息子の幼稚園の友だちの母親たちは、ブリュッセルには関心がないようだった。——彼女たちはただこういっただけだ。「ああ、おかえりなさい——ジョン君はさみしくなかったでしょう」。なんの質問もなんの関心もなく——知りすぎることの恐れがあるようにわたしには思われた。まるで関心をもつことそのものが、家にいてなにもしない「よき」妻という保守的なイメージを裏切るとでもいうように。おそらくそれは根本的な文化のちがいのだろうが、わたしはこの歴史的な女の会議について誰をもほんとうに知りたいたいと思わせることさえないのでガツカリした。わたしがいない間、夫は会話の中でくりかえし女の人たちから、あなたは「かわいそう」とあびせられ、ついにはアメリカ人の友人にまで彼は、自分は「かわいそう」ではないとうんざりするほど主張したのだった。わたしにはこれは、近所の女たちが自分たちの都合よく範囲のきめられた世界には手をつけな

でおこうという防衛なのだということがわかる。それでわたしは、こうした反応をうけてからはブリュッセルの体験を個人的な体験として扱い、いまではほとんどそれを奪われまいとするほどになっている。それはそれほど意味深い体験であったし、その深さをわたしはようやく理解しはじめたばかりで、わたしはその体験を安っぽいものにされたくないし、ジャンヌ・ジョプリンのいう「安っぽいスリル」を人にあたえたくもないのだ。わたしはブリュッセルで、女たちはたたかっており、

場合によっては身を危険にさらし、そして女たちは孤独ではないのだ、ということを知った。わたしたち女にはとても大きな支援組織があるから、おたがいに身構える必要などない。わたしたちは他の女たちと話し、わかちあい、仕事をし、自由を得ることを熱望している。これがブリュッセルでわたしの学んだことであり、わたしはそれがながくながくわたしのの中にのこることをのぞんでいる。

(1976.5.19) (三木 訳)

自己規制をふり払って 片岡陽子

「私は夫に扶養されることを当然とする結婚に解放を期待しませんでした。結婚することによって、両親の支配をのがれ、共働きして経済的自立を果そうと思っていました。夫が反対するなどは予測しませんでした。女子学生の就職がむずかしい程度以上に、結婚した女には仕事がないことを知りませんでした。けれども多くの企業が若年定年制や結婚退職を公然とかかげている中では、結婚した女が働きたいというのは正常ではないのです。それは結婚した女が、ぶつかっていく前にあきらめてしまうほどの圧倒的な風潮です。それに、たとえ夫があからさまに反対しなくて

も、彼が家事、育児は女の仕事と考えているかぎり、反対しているのと同じことだとも痛感しました。こうして夫が外で働き、妻が家にいるという、そういう結婚では分業と扶養は一枚の紙の表と裏であること、そして、夫と妻の性格がどうあろうと、養う者は主人であり、養われる者は召使いになるしかないこと。しかも妻は、命令される前に自己規制してしまうことが多いので、夫の支配には気がつかないこと。女だからと教育を閉ざされることには反抗できるようになっていても、私はだめなんだと思いきみがちなこと。夫の方が秀れてい

るから、自分が劣っているからと位置づけてしまうこと。」

五分以内ということもあって、意は尽くせませんでしたが、私が「証言」でまづいいなかったのは以上のようなことです。

ではこの分業を打ち破るにはどうすればよいか。物の生産と並んで生命の生産―妊娠、出産、育児を正しく位置づけなくては続いて高群逸枝の史観を紹介しました。かつて日本では、女も外で働き、出産や育児は共同化されていて、そこでの女の地位は高かったと。海外で高群逸枝の名が語られることは多くないだろうし、さまざまな「証言」の中で歴史的な見方からの訴えは少かったと思うので、私はこの二つに自分の証言の意義を認めています。

とはいってもあまりにも生々しく、過酷な残酷な、あるいは明白で普遍的な犯罪の「証言」に比べると影のうすい「証言」でした。そして、私はこれを自分がすべての面でできき役にまわるいいわけにしてみました。「もっとはっきりした犯罪なら、私の語学力でも主張できるんだけど」などと考えていました。しかし、それでいいと思えるはずはありません。自己を主張しないことが当然とされ、それどころか人間に自己主張があることすら忘れてしまう主婦の状況（*専業主婦になるということは、まさに人間を失うことです。少くとも名前はなくなりません。だれだれの奥さん、

だれだれのお母さんとか呼ばれないのですから）に十五年間も埋没していたとはいえず、そこから脱するためにこそ、あえてブリュッセルまで来たのではないかと自らを鞭うってもしました。

「会議」でも、パリの生活でも、外国人にとっては、自己主張はあまりにも当り前のことなのだ改めて気付きました。「証言」は五分と決められていたのに、守る人が少なかったのも、五分では訴えきれないという自己主張だろうし、実行委員会の人たちがプログラム通りにもっていかうとしないのも、あるいは案内や情報が懇切丁寧というわけではなからと考えられます。その弊害もむろんあるわけで、混乱もしましたし、予定した「証言」ができなかったケースもあったと思うのですが。

避妊や中絶が非合法であることがどんなに恐ろしいかは実感しているつもりでしたが、「会議」で女の胸を飾っている「私は中絶を選ぶ」という大きなバッヂを見た時は感無量でした。そして女がレスビアンになるわけがひとつだけはっきりしたと思ったのです。

(1976・5・21)

(*国際婦人年北区準備会のミニパンフより)

はっくみらあ

▼伊地知さんは、日本の窓口として、ITC AWの委員会との連絡、東京―大阪間を数回往復しての東京の女たちへの呼びかけ、カンパの送金など、すべて自前での活躍で、大会の場でもわたしたちは大いに頼っていました。▼「れ・ふあむ」の正路怜子さんには参加を強くすすめられ、出発までなにかとお世話になつてたすけられた▼カンパをありがとう。▼今号は18・19合併号としました。12ページでは足りない位でしたが、下代も高くなるのでここまですええました。資料など、なにかのかたちで出すことを考えていますが、少しづつ紹介していくことになるかもしれません。▼大阪に振替口座を開きましたのでご利用下さい。口座番号 大阪48156番 加入者 三木草子▼ご意見、ご感想をおよせください。(三木)

女から女たちへ

№ 18. 19 ¥150

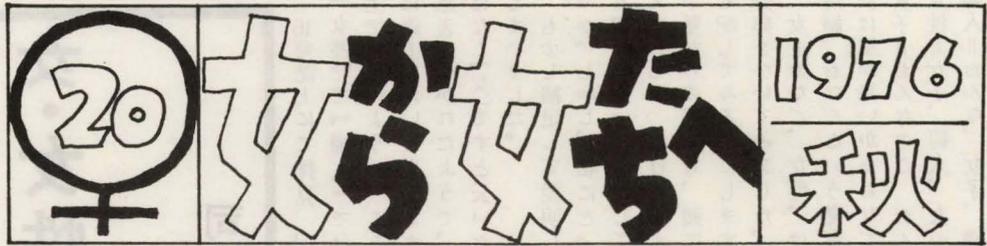
1976. 6

購読申込：東京都目黒区大橋

2-22-9の1013
鈴木洋子

投稿：大阪府茨木市大池

2-11-8 玉木ビル 301
三木草子



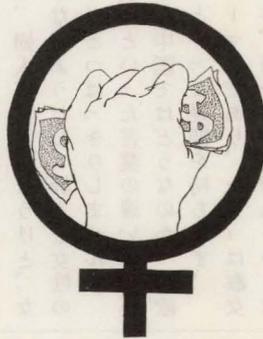
- もくじ
- あなたは自分の預金通帳をもっていますか …… 1
 - 離婚した母と別の姓でくらして …… 4
 - パートタイマーという味なもの …… 4
 - 女・女性・婦人 …… 2
 - さいきん読んだ本から …… 5

結婚してすぐ離婚貯金をはじめた人があるときいて、えらいなあと感じました。わたしも、夫の扶養者となることを潔しとはしなかったし、家事労働を評価させなくては思っていました。それだのにずるずると専業主婦を脱し切れず、その上貯金はすべて夫名義にして平然としていました。

でも何度も争い、離婚を考えたり、相手から離婚を宣言されたりするうちに、貯金だけは折半する、各々の名義の通帳に入れるというようになりました。

もし夫名義の通帳しがなく、夫がそれを独占しようとしたら（争いがあれば夫たちはしばしばそんなことをするものです。しないという保証はありません）、専業主婦の妻には財布の中のお金以外には何も無いことを身に泌みてしらせましたから。

たとえば、ボーナスを貯金する時、必ず折半する、出し入れでデコボコがあれば、それを調整する形で両方の通帳に入れます。これが、説得しやすく、実行できる方法だと思



あなたは自分の預金通帳をもっていますか

片岡陽子

これはまた、家事労働を無償のままにはしないひとつの方法ではないでしょうか。家事労働の評価としては低すぎるだろうし、評価するのは夫でしかないという限界はあります。又、家事労働の評価は、むしろ女を家事労働に縛りつける恐れがあることも事実です。プロであれと要求されることによって、主婦がいよいよ家事に埋没してしまふという落とし穴もあると思います。それよりなにより、夫が妻名義の通帳は認めたとしても、家事労働を評価したとは認めたくない場合も多いでしょう。

ともあれ、専業主婦は、とりわけサラリーマンの妻などではないので、あたかも財布は自由に、自分のためにも使えるかのように鎖覚しているのではないのでしょうか。

△編集室より▽ 主婦の経済的自立↓主婦からの脱出についてのすばらしいアイデア、実際のな行動の原稿を待っています。

女・女性・婦人

司 ころこ

16号誌上にて拜見、「わたしたちは、『女』『女性』で『婦人』ではありません。男が紳士ではないように。こちらあたりで『婦人』は返上したいと思います……」とありました。意表をつかれたようで、何故彼女は『婦人』ではなく『女』ですと云いたいのだろうと考えてしまいました。

も少し補足して説明していただけるでしょうか。しかし、私にとっては日頃漠然と気にも留めず使い、見過してきた言葉について考えてみるきっかけを与えてしまいました。以下私なりの婦人考、頭にかぶよしなし事ども記してみる事にします。先ず家にある国語辞典をひいてみました。

女Ⅱおなご、女性、はしため、下女下婢、情婦、おなごという発音は大嫌い。祖母曰く、女は業が深いからおなごなのだそうです。

女子Ⅱおんなのこ、おんな、婦女、婦人
女性Ⅱ女子、婦人、女の性質

婦人Ⅱおんな、女子、婦女（特に成年の）と

あります。あまりはつきりしません。女という言葉の説明に、下女、情婦だのがくっついているのにびっくり、男Ⅱおのこ、男子、男だて、情夫はありましたが、下男だの家僕だのという意味はありませんでした。このちがいは大きい事です。辞書も性差別の上に立っているらしいのです。

貴婦人、婦女子、婦人問題、婦人運動 etc 使いますし、法令用語とか公文書等には、女より婦人の方を使うようです。

女性解放とは云うが、婦人解放ではどうもピンとこないし、婦人警官とは云うけど、女性警官とは云わないようだし、婦人と女性の使いわけが、今ひとつはつきりしません。

婦人、女、女性といった言葉の違いは、漢字の輸入元である中国ではどうなのか。西歐ではどうなのかといった疑問を持ちます。

英語では、ウーマンであり、レディは淑女と訳されているが、身分の高い婦人という意味があり、日本語の婦人とは又別の意味も持っているようだ。紳士Ⅱ身分の高い男とはのっていなくて、道徳正しく高麗な人と辞書は説明します。レディらしくとか、レディにあるまじきふるまいとか云うから、身分の他に、紳士と同じように道徳的な規範もあるようです。外国語の知識が乏しいから、よくわからないが、一般に西歐諸国の言語では男性の話し方、女性の話し方が、日本語のように、明確な区別をしないとききます。仏語では、日

本語の敬語とはちがって、親密な会話、他人行儀な会話の区別があるそうだが、これも男女の話し方の区別とはちがうようだ。男性名詞とか女性名詞とかいうが、それも男女の話し方を規定するものではないようである。日本語では、女らしさと言葉づかいは、深いつながりがあるようだが、西歐の国々ではどうなのだろうかとも思う。話し言葉の面からみるとそれだけ日本では女性差別が酷しいのだろうか。

一般に、女、女性という言葉から受けるものは、女という性を持った自然な人間、生々しい、活々とした、生きている、人間くさい、なまめかしい、色気のある女人等々と、自然な、或は解放された、制約制限、枠をはめられるといった人間の女のイメージ、生理的、肉体的な印象の強い言葉といったことがあります。一方、婦人という言葉からは、社会的、文化的に人為的な人間、精神的になにかかまえているといった状態の女、或はそういった状態を余儀なくさせられる状態といったところ、かっこうをつけるとか、気どっているとか、つくられた女といったイメージの違いを、私は持つのですが、しかし返上したいところお考えをおききしてみたいと思います。一方では女王、女史、女流、女丈夫、女傑、女優、女医、女教師等、女〇〇とつく言葉が沢山あります。男王とか男史とか男流とかの言

葉はきいた事もない。男の場合はわざわざ男
をつけなくても言葉そのもので表せるのであ
る。なぜなのだろう。これらの言葉は別に女
性差別の言葉ではないだろうけれど、特別だ
という区別を持たせた言葉なのである。男に
は普通の事、当然の事、女には少ない、特別だ
といった事から区別をする言葉が、女〇〇と
いう言葉を生む背景にあると思う。というの
も、性的分業と云われる、おじいさんは山へ
芝刈りに、おばあさんは川で洗濯をするとい
う伝統的パターン、男は社会にでて職業活動
をし、女は家庭にあって、家事、育児をやる
といった役割の区別をつける根強い社会風潮
から、社会活動の上では、男がやるのが普通
の状態である、多い、という事から、ひいて

は男がそうすることが正常であるといった考
え方がいつも根底にあっての言葉の生まれる
土壌なのである。それらが区別にとどまっ
ている場合はよいのだけれど、差別へとつな
がっていくのが困るのである。女〇〇とつく言
葉には、女性への蔑称が多くみられるからで
ある。特に社会活動の分野の言葉にみられる
事は、その事をよく示しているとは云えない
だろうか。職業に女〇〇とつく場合、役職地
位に女〇〇がつく場合、女課長、女社長、女
性党首、女性大使、女の上司の下で働けるか
等々よく耳にする言葉である。これらを婦人
に改めてみた所で同じ事ではあるまいか。丁
寧な表現にしたつもりでも、やはり女性を区
別している事には違いないからである。区別

と差別は別だという。これは言葉のあやであ
って、区別は差別と同じ線上にある事は明ら
かなのだから。少くとも女性の側からみた場
合には。そして性的分業は何ら女性差別には
ならないという考え方も男性的思考のものだ
からである。性的分業が女性をどれほど差別
しているかは、すでに多く語られているし女
性の側のいたみであるが、それを痛みと感じ
ないように長い間ならされてきているから、
たかが言葉のありよう位では(それが問題なの
だが)女たちは差別なんか感じないのかも知
れないけれど。マザータング||母国語という
ように、女を通して言葉は伝えられてゆくと
いうのに。

女たちへ

●働く女性の相談室ができたよ

働く場で困ったことがあったら相
談して下さい。毎週水曜日夜6時
〜8時で無料です。かならず前も
って電話で予約して下さい。もっ
てくるものは就業規則、賃金表、
他、参考になるもの。東京都新宿
区新宿1の9の4 御苑グリーン

●報告会「東南アジアの女たち」

7月に東南アジア研修旅行にいっ
たフェミンタン・プレスの高木さ
わ子さんの報告会で、スライドも
上映します。
10月15日(金)6時半。リブ仕事部屋
吹田市岸部南町1の6の20明和荘
上田方 TEL 06・383・3552
(木曜夜のみ)阪急正雀駅2分。
線路の西側を大阪方向へ。

ハイツ806号室 中島法律事務
所内 TEL 03・35217010



●「女から女たちへ」の会

「女から女たちへ」20号と「女・
エロス」7号の合評会をします。
10月31日(日)1時30分〜5時。大阪
の編集室にて。場所のわからない
方は道順をお知らせしますのでご
連絡ください。(住所は6ページ)
参加は女性に限ります。
●「女・エロス」7号です
△特集▽明日へ翔ぶ女たち/リブ
報告・5年目のわたしたち/うた
う女 社会評論社 780円

姓 5

離婚した母と別の姓でくらしてきました

木村 万起子

結婚に際しての改姓について、多くの女性が疑問を持ち、抵抗している。私もまた結婚に際しての改姓は絶対に拒否したいと思っている者の一人である。今、なぜ私がことさら改姓について書きだしたかといえば、私的な事ではあるが私は自分の意志で18才の時に改姓しているからである。このコラムのテーマには少しはずれるかもしれないが、私が生きてきたこの二十余年の人生において姓名とのわずらわしいかかわりを思う時、私の人生を大きく支配してきた事柄だったと、改めて感じるのである。これは立場は違っても、女の生き難さという点で、深く現代の婚姻制度、社会体制にかかわっているのではないだろうか。

物心ついた時、私は近藤という父の姓を名乗り、木村という母の姓の表札のかかった家に住んでいた。離婚によって父の存在は既になかった。父はすべての扶養の義務を放棄したにもかかわらず、子供の籍だけは移すことを承諾しなかった。親権者という責任だけを母に押しつけて。そんなことが許されるのかどうか、今もって納得できないが、母に残されたものは老いた実母と二人の幼ない子供、そして借金だけだったという。そして私は、世間で言うところの複雑な家庭の子として育たざるをえなかった。今のように離婚が日常茶飯事という状況ではなかった。

保護者の欄に親の名を書きこむ。家に友達をつれてくる。そんな平凡な出来事に、いちいち説明が必要だった。ただでさえ母子家庭は貧困につながり、貧困は犯罪を予測させる。世間の好奇と偏見の目に耐えながら、離婚は罪悪のイメージが強くなった。生れながらに望まれない子供としての生は、悲しみと憎悪を抱かせた。まともに生きたかった。

18才になり、自分の意志で籍の変更が可能であると知り、私は一人で家庭裁判所へ行った。就職も間近かだったし、これ以上プライバシーを侵害されるのはがまんがならなかったのである。ほんの数分の事情説明で事はあっけなく終了した。そして私は木村の姓を名乗ることになった。まるで自分の離婚が成立したような安堵感があった。

婚姻制度、そしてそれに支えられる社会、それらが女にあたえる恩恵とは、うまくいってもともと、一つまちがえば地獄の体をあらわす。そしてひとたびそこからみ出したものに対する差別と偏見はすざまじい。

やっと手に入れた私の名だ、そうやすやすと手離すまい。私は木村万起子として生ききたい。そして、現在の婚姻制度を大きく目をひらいて見つめつつ、母がいまだすて切れない被害者意識を、少しでも取り除けたらと思っている。

就職戦線

その4

パートタイマーという 味なもの

— マユミー —

人手不足の為、我社でパートタイマーを大量に募集した。面接し、採用決定し、勤め出した人達の定着率は非常に悪く、約25パーセントである。続けられぬ理由をたずねたところ、①手が汚れるから。②主人等家族が反対するから。という二つの理由が目立った。①の手が汚れるには閉口した。仕事を何と心得ているのだろうか。さらに何の連絡もなく、貸与した作業服を返却せずに退めてしまおうとは……。こういう中途半端な事をしてくれている労働者としての女性への偏見を増々大きくするだけではないか。それとも長年の主婦稼業とは社会常識を減少させる環境なのか。(つまり夫の無理難題を受け入れ続けるうちに以前備わっていた常識が消え失せるのではないかと)等々主婦パートタイマーには失望させられた。

そんなある日、幾日も休んだままのIさんが、ひよっこり現われた。「退めます」との意志。理由を問えば、堰を切った様に出る苦情。「一年前に雇われたとき以来、時間給に労働時間数を乗じた金額の他は何もない。夏

冬のボーナス、さらに昇給もない。これでは何を楽しみにして働いてよいかわからない。正社員に負けまいとして働いて来たが、待遇にこれだけの差をつけられては、もう続ける気がありません」とのこと。同様の苦情をIさん以外の幾人かから聞いた後、「人員不足で、採用にかける費用、及手間を思えばヤル気ある人に長く勤めてもらう様、待遇改善を試みた方がよいのではないしょうか」という形で、人事関係の人に話したところ、全く冷い答が返って来た。「イヤなら退めるがいいさ。パートのおばはんなんて、いくらでも応募に来る」次々と人を換えて行けば、いつでも安い時間給で働かせられる」

なる程、これが、女子の低賃金にさらに輪をかけて人件費削減方式なのか、そう云えば最近の現場での欠員補充は、ほとんど、パートタイマーでなされている。つまり現場労働者を男子から女子へ、女子社員からパートタイマーへと切り換えを開始しているのだ。

主婦が、パートタイマー労働をやれば、たとえ低額であろうと、働いた分だけ収入増となるから、意志と時間のある人は喜んで働き続けるであろう。しかしよく考えてみれば、これ程割の合わぬ話はないとIさんの様に退めて行くのがほとんどであろう。(現実には年以上勤続している人は皆無である)そして会社側は、再び新しい人を募集する。これを繰り返すことにより、賃金は据え置かれたまま

となる。

女子の低賃金をさらに低くしたものの、これがパートタイマーである。これは、パートタイマーのみならず、正社員と双方に圧力をかける味なものである。

*



ほん さいぎん読んだ本から 河村悦子

A子さん、お便りありがとうございます。ミシンかけが楽しくなり、ろくに新聞も読まない毎日です。

では、互いにハッパをかけ合う意味で、最近、私が読んだ本を紹介します。古い順に、

- ① 森崎和江『からゆきさん』 朝日新聞社 780円
- ② 一番ヶ瀬康子編『入門・女性解放論』 亜紀書房 1200円
- ③ 吉武輝子『結婚が変わる』 大和書房 780円
- ④ 来栖琴子『共働き入門』 水曜社 1000円
- ⑤ ポリト、マ・レアージュ(女性名だがジャン・ポーランの筆が濃厚) 渋沢龍彦訳『O嬢の物語』 角川文庫 260円
- ⑥ 山崎朋子『火種はみずからの胸底に』

(追) 17号の受付係Yさんは、元気に働き続けています。彼女のぼくちゃんも保育園で8時から5時まで、元気で遊んでいる様です。彼女はよく耐えて、働き続けているという事が認められたのか、大幅な昇給がありました。

筑摩書房 980円

⑦ ジーン・マリー(男性)道下匡子訳『ほんとうの女らしさとは男のためのウーマンズ・リブ』朝日新聞社 1300円 読書中。

①と⑤を除いて、図書館で借りて読みました。よかったのは②と⑥そして多分⑦も。⑤は、反面教師としてひじょうにタメになった。ブリュッセル会議(76・3・4〜8)で、フランスがなんでこんなに強姦の証言ばかりしたのか、納得。男のいかさまを「人間の奥底にひそむ非合理的な衝動」といふくめるばかりか。巧妙に発達した欧米男文化が空恐しくなる。近年日本でも真似をして、アンアン・ノンなどが、いかにこのへ気品のある奴隷、聖少女のように男に神(訳者がそういうのだ。ならば男根)にへ美しく魂を売り渡す娼婦に近づかせようとしているかが見え

てくる。

①は大宣伝にしては、期待はずれ。私に合わないのか、著者は底辺女性のしたたかさ、おおらかさにスポットをあてているようす。

③読者対象はOL・学生。現代の離婚の実態からはじめて、婚姻制度と高度成長時代のヒズミからくる結婚の実体を指摘。この人(誠実な人だと思う)こんなブラック・ユーモアがあったのかと思うところも。いえ絶対笑えないのですが、少女時代の強姦をサラリ。

④は、ある婦人問題講座「共働きと子ども」出席のために読んだ。「明日から共働きといっても家事もあんまりしたことない」という人などには役立つかもしれないけど、女だけのやりくり論になってしまいがち。

⑦アメリカのリブを知りたければ、読後すぐ個々の著書にあたるべしと自戒。『ひでえ野郎だった』と反省する著者が、リブ活動家の妻の厳しく暖かい批判、激励に支えられて書いている。女ならヒステリー、欲求不満とやゆされるところを、男の立場を利用して、八方のイチヤモンを想定して弁護の役も買ってでている。ピゴット(無知による偏見)と差別意識との違い(前者はとり除くに、やや易しく、後者はいかに難しいか)を簡潔に述べている。男から男たちへのメッセージ。これを手にする真に勇気ある男はどこ?

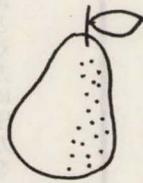
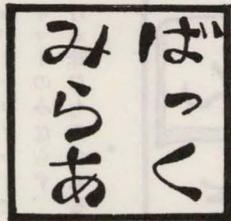
②は題が悪い。メアリー・ウルンストンクラフト、J・S・ミルから合州国リブ、中国

の女性解放まで、各界現役の女たちが担当執筆。ホットな想いが伝わる。賛美か批判だけに終始せず、一人の著者による偏向がない。現代なおつづく論争点も見えてくる。社会変革、女・男解放理論を先人、古典の足下から学び、両者をいかに接合するか、その理論をもちたいと思っている私には、再読したい本。

⑥「底辺・底辺と、被差別者の上に立っていることに変りない」という批難もあるが、その大半は、やっかみか観念的にラディカルなだけで、甘ったれた生き方をしている人(私も含め)が多いのでは。変革の思想展望も的をはずれていない。熱いまなざしのリブ批判だ。子どもを持つてからの生活、意識調査、女たちの声も入っている。

②と⑥ただで推せんします。⑤ウーン、くやしいけど二六〇円出して下さい。ちびさんと昼寝の後の孤独感? 活字への飢餓感も出て来たでしょ。では、またね。

(76・7・18)



▼8月6・7・8日、名古屋近郊でリブ運動論を語る合宿が開かれた。リブ5年目といっ

女から女たちへ

No. 20 ￥70 (▽ ￥50)

1976・10

購読申込：東京都目黒区大橋 2-22-9の1013 鈴木洋子 1年分(5号) 600円 (50円切手可)

投稿：大阪府茨木市大池 2-11-8 玉木ビル301 「女から女たちへ」編集室

郵便振替口座：大阪 48156

加入者：三木 草子

でも、まだわたしたちがこれまでに得たものを、次にくる女たちに十分手渡していない現状であること、手渡すにはどうしたらいいのかも手探りの状態であることなど、あきらかにされた。個別グループの排他性のなかに沈んでいくリブならば、もうそれははじめの頃のあのリブの輝きを失っている。女たちとひろく出会うことを女がもっととめなければ、女どうしの連帯をそだてることはむずかしい。だからきめた、来年も合宿をやろう。個人的にも全体的にも女をガッチリおさえている「籍」をテーマにして、さまざまな角度からリブの視点でそれをとらえなおすことにしている▼9月10・11日開かれた魔女コンサート(東京)の紙上ご招待、次号をおたのしみに▼77年度のカレンダーもつくる予定です。(まじよ)

女から女たちへ —— さらに男たちへ

女から女たちへ

1977 初夏 No.21・22・23

◇姓／6 女が入籍することは「わたし」を奪われることです…… P.2

結婚改姓に反対する会…… P.15

女の本 / 女の集会…… P.16



graphic from BATTLE ACTS

姓 6

最終回

女が入籍することは 「わたし」を奪われることです

座談会

暑い夏の日、結婚改姓や籍について、日頃から気にしたり悩んだりしている女たちが、扇風機なし、昔なつかしのうちわをあおいでの座談会にあつまりました。

出席者 松井京子／松尾洋子／河村悦子

加島さえ子／三木草子

1976年7月24日松尾さん宅にて。

三木 まず順番に現在にいたるまでの籍にまつわる話をしてください。

松井さんの場合

松井 松井です、29才、新聞社の家庭欄担当の記者をしています。4年ほどまえ、結婚しようということになったとき、式がどうのウエディング・ドレスがどうのと親がうるさく口出ししてきたので腹が立ってね。役所に届出だけしたらいいんじゃないの、と今から考えたらけつたいやけど、そういつたんだけど通

らなかつた。式や披露宴は親や親せきに認知をもとめることやから、いうんで、しようがないのでそれはすることにした。そしたらこんど、届を出すことに不審を感じてきて、具体的には女の姓が変わることだけど、それがわたしは気に入らなかつたの。式もやり披露宴もやり、新婚旅行は行けへんかつたけど（笑）、はた目にはちゃんとしても、籍は入れないまま2年ほどたつた。その間、親からはそろそろ入れたらどうか、こどもが女の子やったらうまれてから入れても戸籍にはのこるし、籍もいれずに子をうんだふしだらな母親だといって、その女の子の結婚にさしさわら（笑）といわれた。

三木 どちらの親がいうの？

松井 両方の親から。

松尾 女の子やったら、というのがあるんやねえ。

加島 うまれてからいれてもわからないんじやない？

松井 届けた日が婚姻の日になるから、さかのぼっては届けられないんよ。

三木 きちんとした勤めをもってると籍を入れないでおくのはむずかしいといわれるけど、どうだった？

松井 みんなが名前が変わること期待してるのね、とくにわたしがリブに関心があるから、名前をどうするかはうるさきかかれたから、籍は入れてないと答えたの。相手の男の名前を自分の方からいわなかつたから、社でもそのままですんだ。ただ、改姓届は出さなかつたけど結婚届は出した。それには相手の男の氏名と結婚した日を書けばよくて、それを出したら金5万円也のお祝いをもらって（笑）。

わたしの場合はいろんな人に会いに行く仕事だから、名前を変えない方がいい。会社の男性の反応としては、まあそうか、という人と、そんなこといつまでもでけへんのやから、若いうちに、はやいとこ入れといた方がいい、という現実派がいた。

三木 けっきょく籍をいれたのはこどもがうまれるまえ？

松井 お腹が大きくなってきていよいよよなつたとき、親からはげしく言われて、悩んだすえ、産休に入った日に届を出したの。こどもがかわいそうや、という風にせめられた。三木 あなた自身はかわいそうやとおもわれなかつたわけやね。

松井 そうやねん。こどもとわたしとどっちがかわいそうか、といつたんだけど。三木 彼はどんな考えなの？

松井 ふたりだけの間は火入れても入れなくてもいいけど、こどもができたら入れた方がいい、という。そんなに入れたかったらわたしの方にはいったら？といたら、そんなんできん、の一言。それは根拠なんてなくて、慣習でね。こどもが死産でダメだったらまた元の籍にもどす、というんで、ホロリときて籍を入れたわけ。

三木 籍を入れるのはまったくこどものためというわけね。

松井 それでもくやしいから、わたしもいろいろ報復措置を考えまして(笑)、戸籍筆頭者はわたしにするよ、といたらしおしお承知。それで区役所へ出かけたら役所のおじさん曰く「戸籍筆頭者は男にきまっていますから」だからそれもそのまま。

一同 へーえ、そんなんきまってるの？

加島 男の籍に入れたから、男が筆頭者になるわけじゃない？ 女の籍にはいれば、女がなるんじゃないかな。

三木 妊娠中は一応「未婚」だったわけだけど、病院ではなにもいわれなかった？

松井 なにもいわれなかった。母子手帳はいまも松井だし。

松尾さんの場合

松尾 わたしの場合も結婚に関しては、式も披露宴もなにもせずに、ただ一緒にくらすとすることで始めようとおもったけど、両方の

親から、小さくてもいい、形だけはふつうにやってほしいといわれて、結局やることになった。でも親同士がささいなことこじれてね、最終的にはうちの親と友人知人に来てもらってやった。籍の問題に関してはいろいろ見方があるけど、わたしには感覚的に不自然だというのがまずあって、入れないまま、いまにいたってわけです。

三木 何年になるの？

松尾 2年と2、3カ月。一年目はどちらの親からも籍をはやくいれろといわれたけど、あとはあきらめたみたい。でもこんどこどもがうまれることになって、また親が気にしてきている。わたしとしてはずっとこのままでいきたいし、こどもがうまれるから籍を入れるとなると、なんのためにこれまで籍を入れないでやってきたのか問題になるし。ギリギリの所で、やれる所までやってみる。

三木 やれへん、ということは予想できる？

松尾 自分自身でいつ自分を裏切るかわかれへん、ということは毎日感じてる。

三木 彼はどういっているの？

松尾 こどものことも、籍の問題も、わたしの意志で、とまあから言っているから、とくに意見はないみたい。

三木 じゃあ、あなたが自分を裏切って、彼の籍にはいるということになったらどうなのかしら。彼との関係が根本的に変わることだとおもうんだけど。

松尾 やはり彼も籍を入れないことを望んでいるとおもう。もし入れることになったら、人間的に失望するんじゃないかな。

松井 じゃあ、問題は親だけ？

松尾 いや、わたし自身。松井さんの場合だっておなじだとおもうけど、結局どこまで自分の意志をおすことになれば、できるんで、親というのは口実でね、世間ということよ。ほんとうの障害は自分やおもうんです。自分の筋をとおすんやったら、出生届もしいし。

松井 生れた時点でこどもは離れてしまうわけだけど、そのこどもに親の考えをおしつけることにはめらいはない？

松尾 籍を入れることもおなじじゃないかなあ。そちらにこどもをひきいれるから。わたし自身の延長線上にこどもがあるのだから、その結果として当然こどもはそういう生き方を受けてうまれてくることになる。つまり、こどもといっても今のところ自分のことで、自分を殺してこどものためというのはありえないとおもってる。

加島さんの場合

加島 加島です、22才。19才頃に彼と知りあって、いっしょに暮らしはじめたのは一年ぐらい前。いっしょに暮らしはじめた理由は、いっしょに暮らしたいからというんじゃない

んです。わたしはもともと好きになってしまったしよには暮らしたくはないとおもっていたから。それが、うかつにも妊娠してしまい、中絶したの。大学4年になるときで、ふたりとも別々に下宿していて、どちらも親からよく電話や来訪があり、親の干渉をさけるためにはいっしょに暮らして「家」のかたちをとればいいんじゃないか、ということだね。

松井 一緒に暮らすことには、親はなんにもいわなかったの？ 式もあげないで、とか。

加島 親には、一緒に暮らしたくなかったから、といったの。動揺したみただったけど。まだ学生だから籍も入れたくない、一年後には考えてみる、ということだった。こういうことで親子の関係がまずくなるのはイヤだから報告だけはしておきます、って。

松井 こどもを産む気にはならなかったの？

加島 ええ、就職しなかったから。生活費はバイトでまかなってたけど、学資は親に出してもらっていたから、とにかく自立したかった。そのためには卒業しなければとおもってたし、あのとき産んでいたら就職できなかったとおもう。

三木 いっしょに暮らした理由はわかったけど、いまの気持は？ 別々にくらす気はないの？

加島 いまでもひとりで暮らしたい気はあるけど、おたがいの親せきや周囲にふたりで暮らしていることがひろまりすぎて、できなく

なってきた。ふたりで暮らすことも意味のあることだからまあやってみようか、ということをやっているわけです。卒業後ふたりとも大阪に就職がきまってやってきたの。松井 だったらそのとき、また別々に暮らすチャンスだったんじゃない？

加島 そこがわたしたちの甘かったところで、彼の実家の隣が空家になっていて、そこに住めば家賃もいらぬし、交通の便もいいし、というんで。

三木 親が隣にいと干渉されない？

加島 式はあげなくてもいいから籍は入れてくれと、半年ほどよくいわれた。いまは口に出しては言わないけど、自分はいれないうこととおもっているけど、こどもが生まれたときのこと考えると……。その結論がでてないからこどもはつくない。

松井 表札はふたつ出しているの？

加島 郵便受に名前をふたつね。

三木 松尾さんみたいに、自分が自分を裏切るといふ不安はある？

加島 ある。だから松尾さんの気持はよくわかる。

河村さんの場合

河村 河村という姓を名のりだしてから2年足らずになります（女から女たちへ）14号をみて下さい。わたしが結婚したのは71年。結婚にさいして自分の名前をすてたくないとお

もってたけど、ふたりの経済的基盤などで弱みがあったうえ、甘えもあったとおもう。結納にも抵抗したけど、わたしたちの勝利感より親の満足感の方が大きかったとおもう。籍のことは自己規制して親にはいえなかったから、結局入れてしまった。式・結納には共闘したけど、改姓については彼ともあまり話しあわなかったし、わたしの籍に入ることを彼は考えてもみないし、孤立無援。

三木 自分で男と別の名前を名のろうとしたきっかけは？

河村 改姓のことは不本意だとずっと感じていた。自分の名前を失うことによって自分が自分の人格を失っていくことを日々感じている、女が家に閉じこもっているとういう心理状態になるか、彼に具体的に話して、けんかもしたけど、すこしずつ考えをわかってもらった。何度も話しあった結果、彼からの提案もあって別の名前を名のることにして表札をあげたの。籍はそのままで、河村というのとは母と離婚した父の姓で、わたしは母の離婚後は母の姓をのっていた。母が2度目の離婚をする頃、中学生のわたしは祖父と義祖母の養子になっていて、そのことは母も後で知らされただけ。祖父の家父長権が絶大だった。母方の家のややこしい家族関係からのがれたかったから（結婚改姓したのもその欲求が私の中に強くあったからおもう）、う

まれたときの名前を自分で選んで名のろうと

おもって、父の姓にしたわけです。

三木 戸籍上の名前も変えようとするのにはなぜ？

松井 就職したり、公けに出るときには、どうするの？

河村 そういった矛盾はいっぱいかかえこんでいる状態なの。アルバイトには河村でつとめたことがあるけど、就職したときどうするかは、まだ考えていない。籍を抜かないのはそれだけの話しあいとまだできていないということと、彼の方も、一緒に住んでいるのに名前がちがうと会社に変な目で見られ、いちいち説明しなければならぬということとおしきがあること、わたし自身もどこから何がふりかかってくるかわからないという感じで。また双方の実家が近いし、わたし自身が扶養されている身であるということがあつて。

三木さんの場合

三木 わたしは10年前に結婚したんだけど、その頃は同棲なんてふしだらなことだとおもってた。週刊誌に「入籍はまだなぜ？」なんて見出しが出ると、役所へ行けばすむことなのに、と単純におもったし、私生児ということとも堂々と使われていた頃だったの。届を出すことはあたりまえとおもってたのに、自分の名前が変わるのはイヤだったのね。夫婦が別の姓を名づけることは社会主義でもやっ

てることだと彼に言ったら、こは日本、こどもができたらどうするか、といわれて返答に困った。ただ感情的に「イヤだ」ということだけだったから。わたしたちは「家」を否定していたのに、名前のことになると彼は、

長男だからわたしの籍には入れない、つまり、家をつぐという考えを出してきたんやね。そんなことで籍を入れて結婚したんだけど、結婚したら、男の名前になったわたしだけが要求されて、昔のわたしなんてどうでもいいということになってしまったの。魅力があったのはむかしのわたしだったのね（笑）。彼の家の嫁、彼の妻としての存在であればよくて、それからはみだす部分はすべて否定されたわけ。

松井 具体的にいうと？

三木 たとえば結婚前は彼の友だちにも平気でものを言っていたんだけど、結婚したら、あんたはもうボクの女房なんだから、なれなれしくモノを言うな、とかいうわけ。おまえの失敗はオレの失敗になる、みたいにね。

松井 へーえ、親切やねえ。（笑）

三木 わたしは家というものに干渉されずに育ってきたから、相手の家から期待される嫁像を押しつけられるのが、かなわなかった。「男十家対わたし」という対立がうまれたとき、もう別れたいとおもったんだけど、もひとつふんぎりがつかないのね。百人もの人のまえで式をあげたし（笑）……ほんと、式なん

て別れさせないためにするもんやわ。ひっこみがつかなくてね。仲人もたのんだし。イヤだとおもいながらしてしまっただけど、感情的に「イヤだ」ということは、もっと深く考えるべきだったとおもう。

とにかく相手の家にあてはまる人間にならざるをえないので、すったもんだしたあげく最終的には家を出したの。離婚届に判を押してね。

松尾 結婚してから何年ぐらい？

三木 5年か6年。

加島 相手個人に対してもイヤ気がさしてきたの？

三木 そう。世界観がちがうということがわかったの。むこうは「家」の顔をしてきたし。

松井 こどもはできなかったの？

三木 学生結婚だったから、はじめはつくりたいことにしていたし、意見があわなくなつてからは、とでもつくる気がしなかった。相手の家からはまだか、とさいそくされたけど、自分の人格を無視され、むこうの家の子産み機械のようにおもえてきて、いやだった。

家出をしても相手は離婚届になかなか判をついてくれないの。そのときにね、こちらがイヤだとおもっている結婚を、一方がいいとおもっているために離婚できない、この婚姻届というものは一体なんだろうか、とはじめて籍の問題にぶちあたったわけ。はじめは名前が変わるのはイヤだという体験的な籍の問

題から、こんどは制度的に、自分が自分の自由になれないんだということがわかって、考えるようになったの。婚姻制度は人をしぼりつける以外のなものでもないって。それ以来、名前と籍にはこだわりつけています。

松井 離婚したのはいつ頃？

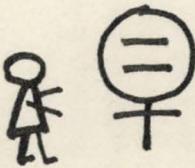
三木 それから二年位たってから。

籍を入れるのはこどものためか

三木 さきほどの話にもあったように、籍を入れるのはこどものため、というでしょ。一体こどものためとはどういうことなんだろうか、入れないことは自分だけの利益なんだろうか、というところを自由に語ってもらいたいんですが。

松尾 わたしの場合にはふたつあって、ひとつは、いっしょに暮らしはじめた

からといってそれを機会に名前を変えろということがみだら、という感じがして、いかにも今日からはこの男の女になりました、と公表する感覚がいやらしいというところ。もうひとつは、今の体制を支える会社の組織とおなじ形、相似形として家があると考えてるから、それに対するひとつの抵抗として籍を入れるということがあるの。



松井 こどものため、というのは世間の考えとおなじだとおもうけど、たてまえとしては母親の生き方を貫いていけばいいんだけどね。現実には、親の考え方をこどもに押しつけるのはかわいそうや、といわれるとひるんでしまう。

三木 こどもをもたない立場でいうんだけど、自分がいいとおもって選んでいる人生だったら、こどもにもその人生を選んでもらいたいというのが親の願いじゃないかしら。少くともどちらが人間を尊重している生き方かわかっていけば、籍は入れない、という生き方をとるべきだとおもう。親の考えを押しつけるというより、親が示してやるっていう態度でいってもいいんじゃないかって気がする。でないと自分は反体制でありながら、こどもはやすやすと体制側にあずけてしまうことになるでしょう。

もうひとつ、こどもに関しても問題は、母親は籍を入れないとおもっているのに、男が拒否してこどもの籍を入れられない場合があって、それをどう考えるかということがある。こどもをどちらかの籍に入れて、夫婦ぐるみの籍をつくらないようになれば、もうすこし世の中、変わるんじゃないかしら。

松井 家族単位の戸籍は日本だけなんですよ。

松尾 押しつけがかわいそうやというけど、反対に世間通りに育てていくということは、世間が押しつけるわけでしょ。

三木 だから自分の主義主張はもっと自信をもって、世の中にもこどもにも主張したらいいとおもう。お父さんとお母さんのなまえはどうしてちがうの？ってこどもにきかれたら、うまれたときから別々のなまえだったんだよ、とこたえてやったらいいし、他の人たちは途中でなまえを変えたんで、お母さんは変えたくなかったんだよ、とちゃんと説明してやればいいんじゃないかな、あいまいにしないで。となると、問われてくるのは女がどこまで強くなりえてるかってこと、個人的にも世の中でもね。

松井 まさつをさけてしまうというのか、女性はつくづくやさしいなとおもうの、すぐく気をつかうよね。

世間とのまさつ

三木 親たちがいう、いわゆるこどものためというのはなんだろう。

松尾 やはり、まず世間とのまさつを少くするということだとおもうけど。

三木 松井さんの場合、こどものためということで籍をいれたけど、自分のために自分の

籍をぬくつもりはない？

松井 ぬこうとすれば今まで以上にめるとおもろし、そこまでわたし自身の気持がかたまっていない。なにしろ日々の問題に追われて、これ以上問題をかかえこむのはしんどい。

松尾 籍を入れて後悔しなかった？

松井 入れるまえから覚悟してたから、それはない。

三木 家とかふたりの関係は変らなかつた？

松井 そんなんは、せんせん変わらない。

三木 じゃ、自分の意識でもせんせん変わらない？

松井 やっぱりそれはひきさかれる感じでね。こどものことになつたらわたしは松井ではなくて島本になるし、仕事の関係では松井で、使いわけをして、二重人格みたいなの……おちつかないかんじがする。

松尾 わたしもときどき彼の姓で近所の人に呼ばれるけれど（注・ふたりの氏名の表札をならべてかけている）、そんなとき、そちらむきの顔をせんならんという気におそわれる。

松井 わたしは近所づきあいがないから、それはない。日常では変わらないね。

三木 まさつをさけるため、というまさつはなんだろう。

松尾 それはいま自分がうけているまさつと

いっしょやろね。

三木 具体的に？

三木 具体的に？

松井 そりゃあ、けんかせんならんからよ。

松尾 うーん、やっぱり、男が対社会、会社にたいして籍を入れてないことなんか説明しなければならんとか、そういう日々のわずらわしさやね。

三木 それはさけるに値いするわずらわしさ

なのか、むしろわずらわしさをひきうけることが生き方をしめすことなのか、ということについては？

松井 こどもに押しつけはしたくないといっ

ても、どうしてもこどもを親のペースにまきこんでしまうでしょ。わたしは働いているし。

で、名前の問題がどれほどのウェイトをもって日常生活のなかにあるか、という「程度」の問題になつてくるとおもうの。いくら「べきだ」ということがあつても、だれしもそれを表現しているわけではないし、どれがゆ

ずれないか、どれはまあまあおいとこかという

ことは、そのときそのときによるんじゃないかなとおもうの。

松尾 松井さんの場合ね、籍を入れようとしたとき、自分を裏切つたという感覚はありませんでした？

松井 その辺、わたしは人がいいから……。

加島 同棲の経験はないんですよ。

松井 わたしはきわめていい子でして（笑）。

加島 悩んだ時期がないのね。

三木 彼女は優等生なのよ。で、理論的に悩

三木 彼女は優等生なのよ。で、理論的に悩

んでるわけ（笑）。

男と籍

三木 加島さんの場合はヒョンなことと一緒にくらすハメになつたでしょ（笑）。ふたりの生活は自分つづけていくつもり？

いつか、女が籍を入れないのは男にとつても絶対トク

なんだっていったでしょ、自由で……。そう

なると、なんのためにおたがいに籍を入れないでやりはじめたのかというところが、ポヤ

けてくるとおもうんだけど。

松井 入れても入れなくても男の人にはじつ

さい、実利実益はないのどちがうの？ 男の

人が奥さんが戸籍に入つていようといまいと関係ないわけでしょ、男の人の名前が変わる

わけやないから。

加島 名前の問題でなくて、自分はどういう

かたちで暮らしているんだってことで、ある

程度この男は変わつてゐるって、おもわれて

いるとおもうよ。

松尾 わたしも、それは男にとつても、大きな

問題やおもうね。男と女の関係自体が名前に象徴されていとおもうんやね、「自分の

」女という風に。パリッと洗濯されたもの

着て、公けの顔して、下請の仕事は自分の女

にまかせて、表向きは仕事だけをする。会社でもそういう仕事に女に押しつけられてくるし、家での女との関係のあり方が会社とおな

じになり、そういう関係が名前となっていてでくるとおもうわ。

松井 男の人が公け

で働いて、女の人が縁の下の力持ちというならば、別に籍を入れなくてもいっしょにくらしているという段階でそういう関係になるのところが

うの？ 籍を入れたらそれがさらにはつきりするということ？

松尾 わたしはそういう問題じゃないとおもってるの。

松井 でも、男の人はなんで入れたがるんやろね。

姓は性の問題ではないか

三木 まえにね、もし彼が松尾さんの籍に入れるとなれば、会社関係のものなど全部変えなきゃいけないとか、信用問題にもかかわるといったでしょ。(注・会社経営にあるため) 女に籍ひとつよう入れてやらんとか、そういう、男には男の社会があつて、いわゆる正式に、法的に、結婚していることがひとつの社会的信用になる。そういう意味で、会社は、もうそろそろ身をかためてはどうか、なんていう。ひとりでフワフワしていたら何



をしてかすかわからない(笑)みたいな……。だから男は女の籍を入れることを期待されるよね。

結局ね、わたしは籍の問題は姓の問題ではなくて、性の問題になるとおもうの。

松尾 わたしもそうおもう。権力がセックスを管理するひとつの方法やおもってる。それが名前というかたちであらわれているだけだね。

三木 その性の問題をどうとらえるかによって、男と女の間をどう考えていくか、それで籍をどうするか、と逆に考えることになる。

はじめのっかかりは、名前が変わると人格まで変えられることであつても、考えていくと、なんで籍なんか入れるんだらうというところにつきあたり、性にゆきつく。こいつはオレの女であるとか、この人はわたしの男である、はやくツバつけたもんが勝ち(笑)……

松井 そのわりにはええのにあたらん(笑)。

三木 籍入れた男女の間では、別の男がツバつける問題がおこるけど、それは国家が籍に入っている人に性の優先権をあたえているからだとおもう。セックスが義務になるわけでしょ、結婚のなかではね。イヤなときでもしなきゃいけない。しなれば義務を怠ったということと離婚の理由になるでしょう。こうなると、なんやろ籍で、とおもう。籍を入れた関係というのは、法律的に、わたしは

この人以外には、タテマエとして、寝ませんという宣言になってくるんちがうかなあ。自分たちが自分たちでセックスを管理しないで、その管理を社会にあずけてしまふ。社会が規制するわけでしょ。人妻なのによその人ときあつてる、なんていわれたくないために。そういう感情があつてもおさえてしまふ。

松井 それは世間よりもダンナやおもうわ。ダンナにバレたら具合いがわるい……。三木 ということはダンナにバレたら具合いがわるいという関係を結んでるわけよ、そのダンナと。

松井 それは夫婦によるんで、おたがいに気にする夫婦もあれば気にしない夫婦もあるし。松尾 気にする気にしないの問題ではないとおもう。

籍は性を管理している

松井 セックスの義務といつても、せえへんでもせんせん平気な奥さんかて、ダンナさんかているわけでしょ、おたがいに。その場合は離婚問題にならへんわけよ。

三木 そう、それはそうよ。

松尾 それぞれの夫婦っていわれたけど、個々の人間の感情のもちかた自体がやっぱり関係の中にあらわれているとおもう。感情というのも人間関係からきているから、気にしない夫婦がいるいないの問題でなくて、ダンナ

に知れたらまずいということが通念になつて
いるということが、男と女の関係をあらわし
ているとおもう。

松井 それはちょっと別の問題とちがうかな
あ。

三木 籍を入れてたら男の方にも女の方にも
絶対所有意識はでてくるとおもう。この人は
いっしょにくらしてなにかも共にするとい
う契約をむすんだんだから。ということば、
それで相手をしぱり、自分もしぱってしまう
ことなのよ。

松井 けどね、ほかの人とセックスをしたい
という気持になるときはね、もうその結婚と
いうか二人の関係は破綻しているとおもう。

三木 そうじゃなくて、あなたとも寝たい、
この人とも寝たい、という場合もあるわけよ、
現実に。そのときに籍入れた関係というのは、
こちらには許可するけどあちらは許可しないと
いう関係になつてゐるわけ。

松井 その辺は世間の目としてはたしかにそ
うやけど。

三木 法律的にもよ、だから浮気した、とい
うことで裁かれるわけでしょ。貞操義務を守
らなかつたとか。

松井 それも離婚の理由になりうるというこ
とでしょ。

三木 ウーン、ちがうの、ほんとうは責めら
れないことであるのよ、そういうことは。け

ど籍の関係を結ぶということは、ひとりの人
とのセックスは許可されるけど、それ以外
の人とは、申し立てがあれば責められる材料
になる、許可されない、ということなのよ。
松井 申し立てをするというのはその相手で
しょ。

三木 そう。そういう権利がそもそも彼女、
あるいは彼にあたえられているということが
おかしいのよ。そういうことで社会が個人の
生き方や性の管理をしているということにな
ってくるんじゃないか。籍の問題を考えなが
ら、わたしはそこにゆきあたったんやけどね。

松井 わかるような気がするけど、なんか飛
躍があるみたいな気がするの。

松尾 わたしなんか感覚的に、性が管理され
ているいうことにすぐく腹が立つんやね、そ
れがいちばん大きい。

松井 だけど、その割にはいろんな話がいつ
ばいあって、システムとしては管理されてい
てもそれがザル法で、けっこうみな適当にや
つていてるという感じがあるわね。

三木 それは結局、性というものが管理でき
ないものだからなのよ。でも一応できるかぎ
りはやろう(笑)としているもんだとおもう
の、籍というのは。

松尾 でも、ほとんどできてゐるとちがう?

松井 制度があるということは、いつでも結
める気があれば締められるということだから

コワイけどね。
松尾 それにみな自己規制するしね。

三木 そう、それは
大きい。わたしは○
○の妻だからとか、
人妻なのにとか。

松尾 結婚しなくて
も、人妻予備軍やし
ね。(笑)

三木 いずれ誰かの
人妻になるんだから
それまでは純潔を保
ちましょう、という



考え方もでてくる。

松井 でも、それは男と女とでは性のモラル
がちがうというダブル・コードの問題で、性
と性とはつながりがあるんやけど、籍の問題
にはもうすこしほかのいろんな問題がいつば
いあるような気がするけど。それがあまりで
てないんやないかしら。

女は「こども」に吸収される

河村 姓の問題がセックスまでいくとは予想
していなかったんだけどね。名前が変わると
いうことはいまの男と女のセックスの道德規
準からいくとオレの女になった、ということ
もあるとおもう。姓と性がつながっていると
いうことはわかるんだけど、改姓の問題をこ

だわることによって、婚姻制度や女の解放をどうとらえるかということになると、セックスの問題との関係は飛躍があって、そのまゝに具体的な方法とか理論づけが必要で、たとえはこどものことになると思ふ母子密着の日本の社会の現実をどうするか、どう理論づけするか、ということがもう少し必要ではないかしら。

さきほど、入籍しないことはこどもに自分の思想を押しつける、ということが問題になったけど、逆でもそうだから、それは選択の問題としてこどもに教えてやったらいいんじゃないか、そういう教育が必要だとおもう。

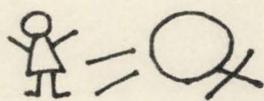
三木 だからね、こどものためにという場合、いちばん問われているのは女自身だとおもうんだけど。女自身の生き方と人生観ね、価値観、なにをもっているか、によるとおもうの。それがこどもという、非常に具

体的なものでありながら、ひとつの抽象名詞によってごまかしちゃってるわけでしょ、つきつめないで。それがゆるされてるし。日本で「こどものために」とゆうてごらんない、もう美

談よ、それは。(笑)

松井 なんでもとおるわ。

河村 産婦人科のお医者さんに「おめでとう」といわれたとた



んに、女は自分の人格よりもこどもの方がブワッと大きくなって、まだ影も形もないものが自分のなかで人格をもちはじめしてしまうようになるんじゃない。

ところで改姓を拒むことに対する反論がいろいろあるでしょ、それへの反論、理論づけが必要なんじゃないかなとおもう。そうでないと、改姓にちゅうちょしている人はいっぱいあるとおもうんだけど、それを理論化できないからつき破れないところがあるとおもうのよ。その辺のところ、改姓の運動がもりあがってない原因のひとつだとおもう。

三木 そういうことを考えていくとセックスの問題につきあたるのよ。

松尾 わたしもそうおもう。

加島 わたしは逆に、セックスの問題が根本にあって、そのところを自分がしっかりも

つていたら、なにもちゅうちょすることなんかないとおもう。結婚なんかしないとおもうけどね。(笑)

河村 もちろん、性差別はそこに行くんだけど。

松井 そこにね、世間とかの押しつけがくるでしょ、結婚なんかせえへんゆうたかて親がやいやい言うとか、なんとかで、やる人がふえてくるんじゃない？

松尾 それはその方がまさつが少いということ自分でわかっているからよ。

三木 どうしても軽い方、生きやすい方にながされるわね。人間はなまけものやし、わたしも経験あるけど。そういうあやまちをくり返してかしくなったりね。

生活を変えることが意識を変える

松尾 松井さんね、さっき結局、家では他の人とおなじことしてる、ゆうてはったでしょ。わたしも自分でそうおもうし、自分の立場もそうやし。だからへんなことばで言えば、わたしはヒモや、二号やおもうわけ。でも籍

入れている人は三号、四号やおもってる。いまの日本では、女の人に一号は存在しないとおもってるんよ。

松井 その、三号、四号てなに？(大笑)

加島 二号の方がましだということ？

松尾 ましというか、とにかく一号はいないとおもってるの。いくら個人的に男との関係が対等であっても、それは社会的に対等な立場として見られないし、ありえない。

松井 そうしたら、みんなの意識が変わったら……：：：そうかんたんに変わるものでもないけれどね。だけど、意識が変わったら見方が変わるものでもないねえ。

三木 わたしは、それはいっしょにやらないと、変わらないものやおもうけどねえ。試

行錯誤もある程度あるとおもうし。

加島 生活を変えないと意識は変わらない。

松井 松尾さんの場合、生活はいわゆる結婚して人と変わらへんわけでしょう。ただ改姓を拒んでいるという……。

三木 ギリギリの線で拒否してわけよね。

松尾 それと、いっしょにくらしは始めるまでの男との……。

松井 男と女が対等であるという意識でもって生活してるわけよね。そういう人がいっぱいふえてきたら……。

三木 そうしたら世間も絶対変わる。世間というのは最後までやいやい言うけど、コロッと変わる。長髪の問題にしても、Gパンの問題にしてもね、口すっぱく非難してた人が、ある日コロッと変わるのよ。だからそんな人の意見に左右されては、いちばんバカをみるのは自分だとおもう。世間なんてアテにならない。親にしたって、自分のこどもにそういう生き方をつきつけられると、にわかには気がつきはじめの。あの女優さんも籍を入れないんだって、とか、あの人もそんな意見だとか、あんなこの頃多いやねえ、てこととなる。だから、理論というか、親とどんなに話しあうよりも、具体的に生き方をつきつけることが相手を変えることだとおもう。

加島 わたしのうちも、わたしたちが実践してやっているから、母が若いこともあるけど、

ある程度わかってくれてる。でも彼女も頭でしかわからない。わたしは肌で感じたことをいって、彼女は頭でわかったことで話しあうわけだけど、ずい分彼女もかわってきたなあという成果はあるとおもうの。

三木 松井さんはいまでも籍は入れない方がいいとおもってるんでしょう。

松井 うん、いまでもそうおもってる。

三木 じゃ、もしほかの人がこどもがうまれた場合、こどものためには籍を入れた方がいいとおもう。

松井 それはその人と亭主との話しあい、問題なくやれるんだったら入れる必要はないとおもう。わたしは「必要」を認めないわけ。

ごめんね、もっと話したいけど夜勤だから失礼します。(松井さん退場)

籍を入れる理由を聞いてみよう

三木 籍を入れないでがんばったけど、がんばりきれず、男が女の籍に入ったという例をよくきくのね。わたしはそれもひとつの聞いた方だとおもって評価するんだけど、その人たちの籍入れた理由が、いちいち他人に説明しなければいけないからだっていうの、河村さんもそんなこと言ってたわね。男が籍入れなかったり、おたがいにそのつもりがなかったりすると説明しなければならぬといわれるけど、そんなときは説明なんかしないで、ど

うして籍を入れるんですかって質問したらいいとおもうの。こっちが説明するならそちらの説明もきかせてほしい。そうすれば説明する手間はどちらもおなじでしょ。

加島 聞いてみるとおもしろいよ。すごく悩んで答えるよ。

三木 考えたことないのよね。だからそれもひとつの運動じゃないかと。説明するのがわずらわしいから籍を入れる、となるとせつかくの問題のところがかりを、スラッとぬけてしまふことになる。

松尾 よく考えたらね、籍入れないことの方が簡単なのよ。籍を入れるということには、たくさんの項目があって、背負うべき義務とか。そやのにそれに関しては説明しなくてもよくて、ただいっしょにくらししているという場合にはそれを説明せんならんというのは、おかしな話やおもうけどね。

三木 もうひとつ、籍入れてることの問題で、たとえば、なんで一緒に暮らすんかってきくと、好きだからいっしょにいたいという答がかえってくるのね。で、そのくせ、なんで別れないんかという段になると、お金がないからひとりではやっていけない、という問題になる。なんで結婚したんか、という理由と、なんで離婚しないか、という理由がものすごくちがうんよ。

松尾 一緒にいたい理由がお金のためという

んやったら、すっきりするけど。(笑)

三木 結婚就職なんてとんでもないいいながら、結婚が就職とせんせんかわりなかつたりする。つきつめるとね、籍入れるのはすごく簡単、ほんとに。ところが別れるとなると、わたしの経験からいっても、なかなかふたりが同時に離婚届に判をつくとはいかない。ひとりが判をつかないために、その結婚生活を強制されるということになれば、裁判にもっていかなきゃならないでしょ。入れるときには問題なくても、抜くときにものすごく問題がでてくるということ、この籍の問題では考えなくてはいけないんじゃないか。

それと、籍なんかどうでもいいという人も、いったん入れるとなかなか抜かない。それはなぜか、という問題があるわね。

河村 わたしの場合には彼との話し合いがまだ十分できてないから。

女と男がいっしょに暮らすのは

松尾 話ができなくてとか、暴力をふるうとかいう人と一緒にいるというのはどうして？
河村 その点では三木さんとは人間のとらえ方がちがうとおもうけど、結婚とか同居しておなじ人間がずっと暮らしている場合、生活面でも感情面でもいつまでも好き好きでいけるものではなくて、ホレた相手でもイヤになるだろうし、きらいな人でも慣れるだら

うとおもうの。

三木 それは、女と男の関係のし方、婚姻形態というか、女と男の暮らし方そのものが、そうさせていくんだとおもう。結婚前は好き好きだったのに結婚後に好きでなくなるのは、ふたりの関係のあり方が問題だとおもうのね。会いたいときに会えばいいんで、強制的にひとつの屋根の下でくらさなければならぬというのにはちょっと……。

河村 妥協論かもしれないけれど、専業主婦であればおなじ人間としかつき合っていないから、檻の中にいるようなもので精神的によくないとおもう。いまの社会で男を変えていくにはどうすればよいか、具体的に実践しているんであって、あるときは別々に暮らしたいとおもうけど、現実には妥協していっしょに暮らしている。(この時、彼と私の関係をうまく表現できなかった。あきらめやシラケではなくとも妥協なしとは同居・別居を問わず私には言えない。)

三木 別々に暮らしたいというより、いっしょにいたいというわけ？

河村 ウーン、そういう感情面と、自分が経済的に自立してないという両面がある。

三木 やっぱり、別の姓を名のってやっつけているんじゃないかな。

加島 絶対そうおもうね。

三木 となると仕事をもちたず籍を入れようという考えになる人は、ある程度結婚就職よね。

松尾 なぜ一緒に暮らすのかということだけど、わたしも現在の女と男の暮らし方に左右されている面がかなりあるとおもう。もし女にも男とおなじように権利があたえられていて、おたがい別々に住んで会いたいときに会うということになっていけば、わたしもそうしたかもしれない。いまはいっしょに暮らすという人がほとんどやから、無意識にそういうものがしみついていて、わたしも男との関係がそういう形で頭の中で結びついてるんやとおもうわ。

三木 人間の考えることって、その程度やおもふんよね。別々に暮らしてる人が多ければ別々にくらす。だから逆に考えれば、それほどむずかしくもないことなのね。やれる人からライフ・スタイルを変えていくこと。

松尾 高群逸枝を読んでいても、いまとはぜんぜんちがった男女関係で、その時代はそれが自然やったわけで、だから何が自然やとかあたりまえやとかは根拠がないということがよくわかる。

行動によって強くなる

三木 その時代の体制にもっとも都合のいいことが普通だとされているわけでしょ。それを変えていくには自分の暮らし方を変えなき

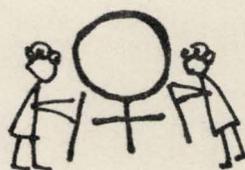
やいけないんじゃないか、そのためには自分のできる所からはじめたらいいとおもう。河村さんのように、まず名前をか

えることからはじめるとか…。具体的にひとりひとりがつまかさねていくよりしようがないとおもうのね。そのときに、こののためにできない、というのはださなideほしいの。

松尾 どんなときにも、こどものため、というのはいかんとおもうわ。

三木 自分を大事にすることはこどもを大事にすることだ、とおもったらいいんじゃないかな。

河村 ほんとうの個人主義が根づいていないので、なかなかね。未婚であろうと、同棲であろうと、こどもが生れたら親が喜んで、家族制度と実質上おなじになってしまおうでしょう。わたしの場合だけど、名前を変えたところのとき、彼の母親、兄姉なんかの反応が予想以上に強くてね。水くさい、というわけでもわたしは電話でも手紙へこの方法は、普段話せないことが書けるし、自分のペース、自己主張がつかぬけて、まことによい)でも河村でとおして、相手の意識が変わるようにした。その中で自分もかわっていくんだけどね。



三木 そこで自信ができてくるのよね。女が強くなるっていうのは、彼女のようになつみかさねの結果強くなるんだとおもうの。わたしが彼とけんかしな

がら家を出られなかったというの、いま考えてみると勇気がなかったからだとおもうし、自分の中でいろんな葛藤があるわけね。で、出てみると案外それは簡単なことだってわかるし。

そんなつみかさねによって、自信もつき勇気もわく。強い人ができるっていうのはウソで、自分の努力で強くなるしかないとおもう。

松尾 わたしも彼と暮らすなかで、その結論をえたわ。いつのまにか女としての自己規制をやってしまっていたことに気がついて、もやもやしたものをことばに出して言ったら、問題がスッと消えたわ。ことばに出したときに前へ行ける。個人的なことだとおもってることが案外社会的なことだったりするよね。

河村 「ジュリスト」76年増刊号の中の論文をみると、夫婦は対等と考えている人たちの99%までが夫の姓を名のっているわけ。意識的には平等だとおもっている、夫や家族によって押しきられる場合が多いんじゃないかとおもう。ドタン場でくずれるという…。おかしいとおもいながら改姓してしまった人

をどう運動のなかにくみこんでいくかも考えないといけないんじゃないかしら。

三木 女にそれだけの意識があるならわたしたちをバックアップしてほしいなあ。折にふれて男とその問題について話してほしい。黙っているからそういう問題がないとおもわれるんで、名前にこだわる女がそんなに多いのなら、男との関係でそれを言っしてほしいの。そこでけんかになるならけんかするべきだとおもう。

松尾 わたしも、けんかしてはじめて新しい関係になれるとおもう。それでダメになるんなら、もともとダメになる関係だったとおもう。

やはりこどもが問題に

三木 加島さんの場合は彼も籍を入れない主義なんですよ。



おたがいにひとりになりたくとか、別の人と暮らしたいということになったときの話はついてくるの？
加島 うん、できてる。男や女の友達ができて

も紹介してと言っている。仕事の関係で離れることもありうるし、それはそれでいいとおもっている。

三木 加島さんのような関係をこれからは意識的に求めていったらいいとおもうんだけど、そこでやはり問題になるのは、こどもをどうするか、ということでしょう。

加島 彼はこどもはほしくないの。わたしが生みたいって言ったときには、こどもはわたしの籍に入れた方がいいと思ってるんだらうけど、まわりのこととかで悩んでるみたい。だけど彼はこどもができるとわずらわしいから、ほしくないと言っている。わたしは絶対ほしくない、ということはないの。

松尾 こどもを生まない段階で籍を入れないで別々にくらすということには、具体的な障害はなにでもてこない。籍を入れないというのがくずれるのがこわいから、こどもは産まないというのがわたしにもあったとおもうけど、産みたいという欲求があるのなら、それにぶちあたってみなければならぬやないかとおもって……。いまお腹が大きいわけ。

(笑)

三木 こどもができたらどうするか、でなくて、女と男がこういうつもりで産むんだというのを、産むまえにはっきりさせておく必要があるよね。

加島 わたしも、まだこどもをどういう風に

育てていくか出しきれていないから、こどもはつくらないわけ。

籍による「保護」ってなんだろう

三木 籍に関しては、男とどういう関係をもちたいんかということが問題になるとおもうけど、松尾さんの場合は？

松尾 男との関係もふくめて、やっぱり自分がどういふ人生を選んでいくのかという問題だと思う。男と暮らすからといって名前を変えすることに疑問を持ってほしいね。

加島 わたしの場合、友人・先輩で籍を入れない人がいたから、それをみて自分たちも絶対入れたくないとふたりで話しあったの。

河村 わたしは今のところ感情的なまさに終始するより、自分のことをしようとおもっている。集合住宅の婦人会で河村の名で世話役をしてね、しんどいけど専業主婦とかかわりたいと思ってるの。地域では夫より妻の方が有名で統卒力があるといった現象もあるみたい。

三木 なぜほかの人にも籍を入れてほしくないか、ということについてはどうかしら。

河村 自分が姓を変えたことよって人格・私らしさを失ったから、いま迷ってる人には入れないようにとくに言いたい。名前は今の社会では区別するためとか単なる符号だけではないから。

加島 わたしは体制を支えている根本に婚姻制度があるとおもってる。自分が誰と寝ようと個人的なことだから、役所に届出する必要はないということ、それにそういうことは一人でやるのはさみしいからみんなといっしょにやれば元氣もでるから。

三木 わたしは籍を入れた人に、籍を抜く運動をやってほしいなとおもう。でもその場合、改姓した名前が社会的に定着している人の問題がでてくるけどね。

松尾 この間、離婚した後も夫の名を名乗るという法律が通ったけど、前はこの男の女だったということを示していくことだから、体制には痛くもかゆくもないとおもう。

三木 改姓反対の運動がひろまらないのはどこに問題があるのかしら。

松尾 籍を入れないと法律的に保護を受けられないから損だという見方があるでしょう。ということは未婚の女は何の保護もないということ、だいたい保護されるということ自体が問題やけど、入籍することによって女全体の立場を悪くしていることになっていくことなんよ。迷いながらも入れてしまうのは、それさえすればあとは何をしてもいいという状況があるからで、家がいかにか大き

いかかわかるねえ。

三木 いまの保護は女が自立しないための保

よね。自立するための保護をやってほしいわ。労働問題が解決しないからといって結婚にだれてゆくでしよう。

松尾 そこで、家事労働者がいわゆる「労働者」のうちに数えられないというのが問題。そのくせ女は家事ということで、外で働いている女も夫に働かせてもらっているという意識だし、会社もおなじ見方。腰かけと見ているでしよう。

河村 共働きの女でも、男の方に籍を入れていと自立ということはどうなるかしら。

三木 結婚しても就職しても女は不利なのに、なんで女は一致団結しないのかしらね。

加島 女はこうだ、という教育がしみこんでるのよ。就職難で結局これまでの女の生き方におちてゆくんじゃないかしら。

松尾 いったん籍を入れた人は姓の問題をどうでもいい問題にしていくけど、男にとってはとるに足りない問題と考えられがちだから、そういう男の見方にとらわれていってしまうのかしら。

三木 女の力、リブの女が少くて、弱い、世間の力が強すぎるといふことやね。

河村 とくに主婦は孤立していて、女は横の連帯ができないみたい。

三木 問題が山つみやね。
話はつきないけど、とにかく、自分が変わらなければ何も変わらない、というところで、

今日の座談会を終りにしたいとおもいます。
(まとめ) 松尾・三木

△座談会後記▽この座談会では、姓や籍の一般論ではなく、自分にとっての姓・籍を中心に語りあいました。ですから、年令22才〜33才の女にとってまだ視野に入っていない部分は当然、抜けています。財産相続、別れたあとのこどもの養育責任など、今後のわたしたちの課題でもあり、いずれ直面する問題でもあるとおもいます。

また、改姓したくない、籍は入れたくない、という女たちの生き方に、いつも障害となつてあらわれる親・男・こどもと、どのような関係をつくれればよいのか、家族をどう考えるのか、そういったことも女解放の視点から考えていく必要があるとおもっています。理想のかたちだけでなく、いま、という時点でどうするのかということ。(三木記)

結婚改姓に反対する会

会ではいま、民法七百五十条を「夫婦は婚姻後もそれぞれ固有の氏を称するものとする。但し、どちらか一方の氏を共通に称することもできる」という趣旨に改める、請願運動をしています。ぜひご協力を、
連絡先 東京都中央区銀座8の10の8
銀座8丁目10番ビル5F 岩井法律事務所 内

姓・籍と女を考えるための参考に

◇「女・エロス」1号 特集・婚姻制度をゆるがす/2号 特集・反結婚を生きる/6号 特集・主婦的状況をえぐる

また、同誌に連載されている「裁かれる女」では裁判にあらわれた女・妻・母の扱われ方が紹介され、たいへん参考になります。

「妻の座は何を守るか」1号/「母」の条件」2号/「合理的な性差別とは①」3号/「合理的な性差別とは②」4号/「夫のものは妻のものか」6号/「揺れる妻の座」8号 (社会評論社・各780円)バックナンバーあります。書店へお申込み下さい。

◇「ジュリスト・増刊総合特集」3号(76年6月)現代の女性―状況と展望/同 6号(77年春の号)現代の家族 (有斐閣)

◇「朝日ジャーナル」71年8月20・21日合併号 懸賞論文「私にとっての家」

女の 本

●「女の事典」

女が生きるためのハンデインガイド・ブック。くらし・からだ・男など

別冊宝島4号 860円

●「女と男」

目覚めたつなかりをつくるための手引。

別冊宝島5号 860円

●「れ・ふぁむ」11号 (77年版)

働いている女、子育てしている女、地域活動している女、ひとりぐらしを楽しんでいる女など、全員集合ノです。550円▽2百円

申込みは「女から女たちへ」大阪編集室へ。

●超ミニコミ 「西ドイツと日本」

全国にたった4部しかないミニコミ。

1号 特集「フライング・レズビアンズ」(西ベルリンのロック・バンド) / 2号 特集

「裁判・男の論理の貫徹」(エアリス・シュヴァルツァー)

読みたい人は、札幌「ひらひら」・東京「ホーキ星」・名古屋「ウーマンズ・ハウス」・

大阪「女から女たちへ」へ出かけて下さい。

手元におきたい人は自分でコピーを。編集発行人は、エネルギイッシュな寺崎あきこさん。

●「女・エロス」8号

特集・つくられる女像 社会評論社780円

女の 集会

●政治を変えたい女たちの会

女がいきいきと生きられる世界を創ることを願い、女解放へのあらたな運動が湧きあがってから七年になります。わたしたちはこの間、様々な活動をしながら、自己変革と社会変革をめざし、女から女たちへのきずなを強めてきました。そして今、わたしたち女の代表を

国会へ送るといふひとつの機会がやってきました。政治や制度を変え、女解放、子ども解放、そして男解放の世界を実現させるためには、わたしたち女の声を適確に国会で反映できる真の女たちの代表を送る必要があります

会では様々な討議の結果、次の三人を推すことに決めました。田中すみ子(現社会党参議院議員) 吉武輝子(吉武輝子とともに新しい運動を求め人びとの会) 依萌子(革新

自由連合)女の力を今こそ発揮しようではありませんか。

各地で、小沢遼子・中山千夏・樋口恵子・ヨネヤマママコなどと共々、集会も開きます。

6月4日 名古屋 女・政治大討論会 愛知

県勤労会館 6時~9時

6月5日 京都 女と政治を考える集り

京大・楽友会館 1時~4時

6月5日 大阪 小沢遼子さんを囲んで語る

女たちの会 南千里センタービル 6~8時

6月5日 広島 6時 (詳しいこと不明)

6月10日 東京 新・女の時局大演説会

お茶の水通会館 6時~8時半

●「女から女たちへ」の会

今号の「女から女たちへ」と「女・エロス」8号の合評会をします。大阪「女から女たちへ」編集室にて。参加される方はハガキでご連絡下さい。6月26日(日)1時半~5時

ば っ く み ら あ

▼ながらくお待たせしました。ああでもないこうでもない、と考えているうちに月日がたち、いいわけのしようもありません。▼三橋節子遺作展を見ました。久しぶりにうつくしい絵を見たような気がしました▼エリカ・ジョン「飛ぶのが怖い」(新潮文庫)の感想をお寄せ下さい。ハガキでも結構です▼このミニコミを10部20部と、まとめて買って下さるとカンパよりもうれしいのです。割引します▼大阪編集室が移りました。近くの方、編集をいっしょにして下さいませ。

女から女たちへ 21・22・23号 200円

1977.6

購読申込 東京都目黒区大橋2-122-19

の1013 鈴木洋子

投 稿 尼崎市南武庫之荘6丁目7-1

23の305「女から女たちへ」

女から女たちへ——さらに男たちへ

女から女たちへ

1977 秋 No.24

- * ボーボワールにきく P. 2
- * 女が読んだ「飛ぶのが怖い」 P. 7
- * スペキュラムを使ってみませんか P. 10
- * 女の集会 / 女の本 P. 11



シモーヌ・ド・ボーボワール

女小生解放についてポ－ポワールにきく

聞き手 = アリス・シュヴァルツァー 「Ms.」 77年7月号より

若い女性解放運動 家とのちがいは

——あなたと若い女性解放運動家たちとは今日どんな関係にあるのでしょうか。

ポ－ポワール 女たちとは個人的なつながりはありませんが、グループや運動体とは関係はありません。わたしは、厳密に言って、闘士ではないのです。——わたしはもはや30才ではなく67才であり、ことを武器としている知識人ですから——でもわたしはMFL（女性解放運動）によることで耳をかたむけますし、援助もします。

——あなたはあたらしい女性解放運動家たちに多くのことを教えてきました。彼女たちはあなたに何か教えたのでしょうか。

ポ－ポワール ええ、

とてもたくさん、彼女たちはわたしの考えの多くをもっとラディカルなものにしてきました。わたしに聞いていえば、わたしは男があるがままのもの、抑圧者である世界にくらすことに多少とも慣れてきました。個人的にはそのことでそれほど苦しむことはなかったのです。わたしは女の隷属のいちばん大きな形態、出産と家事をまぬかれましたから。

他方、わたしの職業に関していえば、あの当時、高等教育を享受した女性はいまよりうんと少なかったのです。哲学の教授資格試験に合格することは、女の中では、特権的な地位につくことでした。わたしはそれで男によって認められたのです。わたしは例外であり、わたしはそれを受けいれました。

今日、女性解放運動家たちは、わたしのように、彼女たちがまるで「ほんのおしるしの女」として扱われることを拒否しています。彼女たちは正しいし、わたしはたまたかかねばなりません。大きく言えば、彼女たちがわたしに教えてくれたことは、警戒すること、つまり、わたしたちはたとえそれが日常的なささいなことであっても、無批判的のごとをうけいれてはならない、ということです。たとえば、文法でいえば、男性が女性よりいつも先にくるといふことにしても。

「第二の性」が出た頃

——『第二の性』は、ある面ではいまなお

女性解放のバイブルですが、もともとは、純粹に知的な理論的な著作ですね。一九四九年に出版されたときの反応はどうだったんでしょうか。

ポ－ポワール とても暴力的、とても敵意にみちてました。

——誰から？

ポ－ポワール すべての人たちから。おそらく、本が出版されるまえに『現代』にセクシユアリティの章を出したことがまちがったのでしょう。たとえば、モーリヤックは、そのとき『現代』で働いていた友人にこう書きおくっています、「ああ、僕はたったいまきみのボスのワギナについて多くを学んだところだ……」。

そしてカミュは、そのころはまだ友だちだったので、わたしにこう言いました、「あなたはフランスの男性を笑いなしたんだ。」教授たちはその本にがまんがならず、教室から放りだしましたよ。

そしてわたしのゆきつけのレストラン、たとえばラ・クポルに、いつも着ているどっちかという女らしい服を着ていくと、人びとはわたしを見てこう言ったんです、「ああ、あいつは女だぜ……おれはおもってたんだが……あいつは両方やりたいんだな。」というのは、そのころわたしは、レズビアンだという評判だったのです。あのようなことを大胆にも書くような女は「正常」であるはずがな

い、というわけです。

コミュニストもまたわたしを非難しました。わたしを「プチ・ブル」とよび、こう説明してくれましたよ、「いいかね、ビリヤンクルの女子労働者なら、あなたが彼女たちに話していることについては、全然気にとめはしないだろうよ」。

じっさい、右翼も左翼もわたしに敵対しました。

左翼も女性を差別する

——左翼の男たちは、あなたがかって言われたように、「優越感」を内面化しています。彼らによれば、性戦争はただ「第二次的な矛盾」にすぎず、それは一次的な矛盾である階級闘争を分断するものだといっています。

ボーボワール かわいそうな人たち、あの人たちはほとんどそれ以外の方法ではできないのね。左翼の人たちもまたおえらい方なんですよ。それが血の中に流れているんです。男と女の矛盾は他の何よりも根本的なもの、基本的なものです。それは、結局、人類の半分が他の半分と対立するということです。MF Lは両者の接点をみつけ出さねばならないでしょう。

たしかに女の抑圧は階級によって異った形態をとっています。二重に犠牲になっている女もいます、自分自身が労働者の妻でもある

働く女性の場合です。母であり主婦であるかぎりで女としての抑圧をうけるにすぎない人たちもいます。しかし、たとえ中産階級の女性でも、夫にすてられたら、労働者階級の生活水準におちるので。彼女たちは職もなく、資格もなく、財源もないのですから。——それじゃあ、社会主義国の女の状況はどうなのでしょう。

ボーボワール わたしは、まずはじめに、現在の社会主義諸国はほんとうの社会主義ではない、と言いたいですね。マルクスが夢見たような、人間性を変革するような社会主義をこの国も達成していません。生産手段の所有は変革しましたけれども、ますますわかってきたように、それだけを変革することでは十分でないのです。というのは男と女の伝統的な役割はそのまま残っていますから。しかしわたしは、社会主義の国は状況がもっと悪い、とは思っていません。それどころか、女はそこではほんとうにより尊敬されているし、彼女たちはじっさい自尊心と社会における責任感を抱いているのです。それというのも約95%の女たちが働いているからです。彼女たちはほんのわずかの働かない女たちを軽蔑しています。彼女たちは経済的に独立し、結婚や離婚、私生子やその他に類することに關するかぎりでは、ずっと多くの便宜をもっていきます。しかしそれでもなお女たちはまだ「女の仕事」といわれる重荷を背負っています。

たとえば、仕事をもった女性も、仕事が終ると夫と子どもの食物を家にもって帰るために、列をつくらなければなりません。だからそんな女たちはみんな、より疲れています。——しかし、より尊重されてもいます。社会主義国の女は「男の特権」のいく分かを獲得しましたが、他方、あらゆる「女の義務」はそのままになっているのです。

女にとって結婚は最大のワナです

——ほとんど30年間にわたり、全世界の女たちから毎日あなたは手紙をもらっていますね。彼女たちの多くにとって、あなたは、あたらしく連合した女の闘争がはじまるまでさえ、アイドルであったし、いまもわたしたちの叛逆の生きた化身です。手紙の中から何かあたらしいことをお知りになりましたか。

ボーボワール 抑圧がいかに深くはば広いものであるかを知りましたよ、じっさいに監禁されている女性もいます。これはまれなことではありません。彼女たちは夫が帰ってくるまえにひそかにわたしに手紙を書くのです。いちばん興味深い手紙は35才—45才の結婚している女性からのもので、結婚が正しい行いであると心に決めたものの、すっかり道に迷ってしまつて……わたしに問いかけるのです。「わたしに何ができませんでしょうか。わたしは職業さえもっていません。わたしには何も無いし、わたしは何者でもないのです」と。

18才や20才で、女は愛のために結婚し、そしてそれから30才になり、目覚める——そのときには生きのびることはたいへん困難なのです。それはわたしにも大いに起りえたことであるので、とくにわたしがそういう状況には敏感であるわけです。

——助言をするということは、いつもとてもやりにくいことですね。でももし女の人があなたに求めたら……。

ボーボワール わたしは、女は子どもと結婚というワナにおちこんではいけないとおもいます。たとえ女が子どもをもちたいと思っても、自分が子どもを育てなければならぬ状況を、とつくり考えなければなりません、なぜなら出産は現在のところほんとうの奴隷制度ですから。父親と社会は、子育ての責任を女に、そして女だけにあずけています。育児のために仕事をやめなければならぬのは女です。子どもが病気のときに家にいなければならぬのは女です、そして子どもが落第したら責められるのは女です。

そしてもし、それでも子どもを持つとうと決心するのなら、結婚しないで産んだ方がいいでしょう、というのは結婚は最大のワナですから。

——しかし、すでに結婚してしまった人、子どもを産んでしまった人はどうでしょうか。
ボーボワール まえにあなたとインタビュをしたときに言いましたが、家庭にいる35才以

上の女性は、すでに大なり小なり、もう手おくれなのです。あのインタビュのあと、わたしはたくさんステキな手紙をそういった女性からいただきました。「あなたのおっしゃることは全然ほんとうではありません、わたしたちはまだ自分で自分のめんどうをみる事ができます」と。それだけ結構なことです。しかしいづれにせよ、なんらかの自治独立を得るためには、彼女たちは有給の仕事を見つめるよう努力しなければなりません。

家事は共同の仕事として

——家事についてはどうでしょうか。女は台所や子どもの教育について男よりも多くかかわることを拒否するべきでしょうか。
ボーボワール ええ、しかしそれでは十分ではありません。将来は家事をする他の方法を見つめるべきです。家事は女だけで行われるべきでなく、すべての人がするべきであり、なによりもそれはもう孤立して行われるべきではありません。

それはとてもいい考えだとおもうし、中国のある地方では現実にあるようです、みんな——男も女も子どもまでも——が家事をするために一定の日に協力するんです、気持ちのいい共同の活動なんです。

どんな仕事も屈辱的なものではありません。しかしその仕事が行われる枠組なんです、屈辱的なのは仕事の条件なのです。窓をふく

ことのどこがいけないでしょうか。タイプを打つこととおなじくらいに有益なことです。ただ、自尊心を下げるのは女が自分はタイプや窓ふきに限られていると気がつく状態なのです。

主婦に賃金を支払うのは終身刑の宣告

——ある政党や女性解放運動のある部分では、家庭にいる女性に給料を支払う可能性について耳にするのですが。

ボーボワール あきらかにそれには大いに反対です。おそらく、現在のところ、家庭にいてそれ以外にできない女性には給料をもらうということはとてもしあわせなことでしょう。しかし長い目で見れば、それは女に、主婦になることは職業なのであり、それはよろこばしい生き方なのだと思わせるのに役立つことになるでしょう。で、ここが重要な点です。家庭の中のゲッターにいるというこの終身刑は、もし女が完全な人間になりたいとおもうのなら、拒否しなければなりません。

——ある女たちの主張は、給料を要求することによって、家事労働にもまたその価値があるのだという考えを人びとにうえつけるといふものですが。

ボーボワール 同感です、でもわたしの考えではそれは正しいやり方ではありません。その目的を達成するためには、家事に付ずいている条件を変えなければなりません。そう

でないといこの価値という考え方は、女の孤立と結びついたらままであるだろうし、この孤立はわたしの考えでは、拒否しなければならぬものだからです。

女を母にさせるイデオロギーが問題

——あなたご自身はこの問題を解決されました。あなたはこどもがないし、サルトルといっしょにくらしてもいません。あなたはし

アリス・シュヴァルツァーは一九四二年西ドイツ生れ。タイプストやパリでのオ・ペア生活の傍らジャーナリストになるべく独学。この経歴が後にリブ運動にO Lや主婦をも引込むのに役に立つ。5年間パリで記者稼業のち西独に戻り、70年以来、中絶禁止反対キャンペーン創始、中絶、女の労働、性についてと3冊の本を著すなど、フェミニストとして活躍。共同編集の手帳「女のカレンダー」も今年で3冊目。その売上げは「かけ込み寺」設立に貢献。この2月には3人の女たちと女のための月刊誌「エマ」(30万部発行)を創刊。4月に短期来日。外見的には日本と西独の女たちと置かれている状況はかなり違うけど根本的ある女性抑圧のメカニズムは世界中同じとの感を新たにしたいという。現在は女友達とケルンに住。(寺崎あきこ)

ばしば、それも女たちから、あなたの出産の見解について攻撃されてきましたね。

ボーボワール わたしは出産を認めないのでありません。ただ、今日ではそれは女にとっては現実のワナであるとおもっています。しかしわたしはそれを価値判断してはいません。非難されるべきは母親ではなくて、女を母になるよう助長するイデオロギーと、彼女らが母になる条件なのです。

それに加えて、母と子のおそろべき神話をあげなければなりません。人が家族とこどもをそれほど強調するとすれば、それは一般に彼らが大きな孤立の中でくらしているからです。彼らは孤独で、それゆえ誰かを得るためにこどもを産むのです。このことはこどもにとってもおそろしいことです。一時しのぎにされるのですから。そして、いずれにしてもこどもは大きくなるとすぐに、逃げ出していきます。こどもはいつまでも孤独から守ってくれる保証人ではありません。

冷感症もレズビアンもいまの男女関係のあたりまえの反応

——セクシュアリティは女の抑圧において、どんな役割を果しているとおもいますか。ボーボワール セクシュアリティもまた別のおそろべきワナでありうるとおもっています。冷感症になる女もいます——しかしときによっては、それは女に起りうる最悪のことで

はないのです。女にとって最悪なのは、あまりにもセクシュアリティに幸福を見いだそうとするあまり、大なり小なり男の奴隷になりそのために彼女らを抑圧者に結びつけている鎖をさらに強化することになる、ということなのです。

——わたしがあなたを正しく理解しているとすれば、男と女の力関係によって生みだされる現在の不快な状態においては、冷感症はすくなくともより用心深い、よりもっとな反応である、なぜならそれはこの不快さを反映しており、女を男にあまり依存しなくてもいいようにしているからである、ということのようにですが。

ボーボワール まさにそのとおりです。——女性解放運動の中には、男支配の世の中においては男と私的な生活を共有しつづけたり、性的、感情的な関係をもちつづけることを拒否する女たちがいます。つまり政治的手段として女どうしの同性愛をつかう女たちです。あなたのご意見はいかがでしょう。ボーボワール わたしにはこの政治的に妥協を拒否することが完全に理解できます。恋愛は女に多くのことを受けいれさせるワナでありうるのです。

しかしそれは、現在の状況でのみ正しいように思われます。それ自身、同性愛は異性愛と同じくらい限界のあるものなのです。理想は女にしる男にしる——どちらでも、人間

を、おそれや抑制や義務なしで——愛することができるということであるべきです。しかし現状はこの通りですから、ある女たちを同性愛に引き入れるのとてもなく大きな不信感が、わたしには非常によくわかります。それは男に対する不信であり、また自身自身に対する不信でもあるのです。というのは男女関係においては男が男性優越主義的で抑圧的であるだけでなく、女自身もマゾヒストで女性的であるからです。

女の性を強調すると反ベニス思想に

——あなたのもっとも有名なことばは「人は女に生れるのではない、女になるのだ」ということばですね。今日では男と女がたいへん異っている、たいへんちがった考え方をするとということが、科学的に証明されます。両者はちがった感情をもち、歩き方もちがいます。しかしこのことは同時にある劣等性を意味してもいけません。それゆえ、あたらしい女の叛逆とともに、永遠の女らしさ、すなわち女らしさの神秘化、の「ルネサンス」が登場したことは二重に注目するべきことです。

ボーボワール 今日、ある種の男性的な欠点は女には見あたらぬとおもいます。たとえば男が自分を重大に考えるグロテスクな態度や彼らの虚栄心、自分を重要だと考えるクセなど。

競争相手を打ち負かすこの男性的なやり方

に關しては、女はふつうそんな風にふるまいません。ある点までは美德である忍耐（し）し度を越せば欠点になります（が）もまた女性の特徴です。そして反語的表現とか現実感覚もね。というのは女の方が日常生活に密着しているからです。これらの「女らしい」性質はわたしたちの抑圧のはじまりですが、それはわたしたちの解放後にも残されるべきだし男がそれを獲得するべきものです。

けれども逆方向に行きすぎてはよくないですね、女は大地や月や湖などと特別なつながりがあるとか、女の方が魂があり、生れながらあまり破壊的ではないとか言っています。そうではなくて、もしそこに何か真実があるとすれば、それはわたしたちの性質ゆえではなくて、わたしたちの生活方法によるのです。

「非常に女らしい」少女はどのように作られるのであつて、そのように生れてくるのはありません。女であるからといって女に何か特別な価値や先験的なものがあるわけではない。そうだとすればそれはもっとも後退した生物学主義だし、わたしが信じているすべてのものとまったく相入れないものです。

——この永遠の女らしさのルネサンスはじつさい何を意味しているのでしょうか。

ボーボワール ある意味では女がもはや自分のからだや妊娠や月経を恥かしがらないことはいいことです。しかしそれをもてはやしすぎて、女からだけは新鮮な世界像をあたえ

てくれる、と思つてはなりません。そうなるそれは反ベニスになるでしょう。こういう考え方をする女性是不合理的なものや神秘なものや宇宙的なものレベルにまで降りることになります。彼女たちは男のワナにかかり、男たちはもっとたやすく彼女らを抑圧して、知識と力から彼女たちを遠ざけておくことができるようになるでしょう。

永遠の女らしさなんてウソっぱちです、というのは自然は人間の発展においてささいな役割を果しているにすぎないからです。わたしたちは社会的な存在なのです。わたしは、女が生れながらに男に劣っているとはおもいませんし、また女が生れながらに男よりすぐれているとも思わないのです。

（訳・三木草子）

〔朝日ジャーナル・8/12・19合併号のボーボワールのインタビュー「究極の女性解放とは何か」もあわせてお読みください。なお、ふつうボーヴォワールと表記されるところ、ボーボワールと表記させていただきます〕



女が読んだエリカ・ジョングの「飛ぶのが怖い」

※エリカ・ジョング著「飛ぶのが怖い」

新潮文庫 四四〇円

あたりまえで正直な女

日本では耳なれない精神分析医やら、主観的日記風な構成のため、最初の数十ページは読むのに抵抗がありました。が、読み進んでいるうちにひきつけられて、3、4日で読み上げてしまいました。ポルノ小説として話題になっていましたが、従来のポルノ的なイメージを期待して読む人にはガッカリするほどポルノ的などころはありませんでした。みだらな(?)言葉はポルノ出て来ますがリズムが、カルでそう快でさえあります。イザドラの行動は状況によって様々に変わりますが、最後は夫のもとに帰る、これは彼女のジレンマが深いものであることをなおいっそう理解できるとともに、そのまま自由に自立しておればただの小説に過ぎないけれど、夫のもとに帰ることで彼女に対しごく親近感がわきました。イザドラもあたりまえの女なんだなと。イザドラは女であるとともにユダヤ人であることも、幼いころの家庭生活においても、人格形成上、大きな問題だと思うのですが、ユダヤ人であることにどんな感情をもっている

のかわかりにくかった、家族関係や女であることについてはごく正直に表現されていた。私は、書くことができるイザドラに羨望する。書くことに情熱を持ちまた才能もっている、そんな彼女でさえも自分自身の人生を生きていない、自由じゃない、解放されたいと強く強く望んでいる。それを男におついても軽くあしらわれてる。でも愛する男を求め続けている可愛い女なんだな。私自身は彼女のように素直に自分を見つめることができるかという否、否、率直に言うことができるかという否、否、否……。自分の見方を物を見ることのむずかしさ、せまいカラに閉じこもりがちなの自分を解放したい。以上、感想終ります。(竹内千恵子)

セックス好きは彼女に共感

印象に残った事。主人公の彼女も私と同じようにセックスが好きで楽しみたい事。特にクニリングスが好きで、しかし男がこちらにまいてる時でないと満足するまでしてくれないと不満を持っている。セックスの中にもある性役割から自由になれない彼女であり私である事。しかし、彼女もそうだという事はほっとした面もある。

笑ってしまったのは、立たないペニス無理矢理入れて、なんとか恋人とセックスした後「彼に溺れるような事はないな」という安堵感と共に「よかったわ」となぐさめずにはいられない所。赤面する思いでもあった。

「女は体に支配される」巨大なペニスこそ女を嬉ばせる。そんな誤った社会通念(?)に毒されているのだ。確かによくわかる。しかしそこを乗り越えていきたい像がこの主人公だ。最後に両手に荷物を持ち自立へと旅立つのが救いである。(渡辺文恵)

これで男がびくりにするなんて

アメリカのリブの女性が書いたポルノ小説が、ものすごいベストセラーになり、その内容に男もド肝をぬかれた……という噂を、「飛ぶのが怖い」が日本で翻訳出版される直前に聞いた。

日本のリブの女性であり、「女・エロス」の編集委員であり、いつも性的なことばかりを誌上でとりあげ、日本の男のド頭を一発くらわすことばかりを考えている女として、これはもう興奮しないではいられない待望の小説ではあった。読んですこしがっかり。もっとどぎつい描

写があると思つたのに、これなら女子大生や主婦がいつも考えていることを活字にしただけで、真面目すぎるぐらい。それでも男がびつくりするのなら、女たちはもっと日常茶飯的に性的ことを話し、ほんとうの女はこうだよということを男たちにわかつてもらうほうがよいのに。

「女とはこうである」「男とはこういうものだ」ということは、ほんとうにあてにならないと最近つくづく思う。

男はとても恥ずかしがりやだ。男は潔べきすぎるところがある。男は上品に振まいたが。男は氣どつてみせたがる。男は自信がもてない(そのために言葉づかいでせいっぱい偉そうにしたがる)……というのが電車のなかで観察した男たちにたいする感想である。女がもっていると思われていた特性を、男だつてもっているのだ。逆のことは女についてもいえるのでは。女はポルノが大好きなのだ、というのは真理だと思ふよ。(佐伯洋子)

現実の女は小説よりすんでいる

小説は現実の後からついてくる。影みたいに。時々は現実を超えることもあるが、それは光源が少しばかり変つた時のことだ。

「飛ぶのが怖い」を読んだ男たちは、ジョングの奔放さにびつくりするけれど、いささか認識不足に依るのだろう。なぜなら、飛んでいる女たちは既にたくさんいるし、飛ぶの

があたり前にもなっている。理屈なしに愉しんでいる女もいるし、存在そのものが主體的でありうる女も多い。もっと深刻に戦っている女も勿論いる。

わたしたちは小説の世界を自分たちの日常で創っている、自分の脚や行為や語らいで未来を創っている、とわたしは思っている。そして、誰かがこれらを文字に写してくれるのだろう。ジョングの次作かもしれない。他の女かもしれない。

小説というものの意味はそんなところではないだろうか。何よりも、わたしたちの日々が小説的である、ということだ。ジョング自身の方がジョングの本よりも更に生き生きしているはずだから。(舟本恵美)

怖ければ一緒に飛ぼう

あなたは女ひとりで生きていく自信がありますか？ それは物スゴく孤独でさびしいことですよ。あなたはそれに耐えられますか。とうてい無理でしょう。じゃあ、もう一度やってみませんか。男は一人じゃないんだから。でもどうして女が男と別れるのが、ひとりきりになるということと同義なのでしょう。

まるで世界には一人の女と沢山の男たちしか存在しないみたい。でもありがたいことに世界の半分は女、男たちも半分ではない。男と一緒にいるか、ひとりになるかしか女に

は生きる道がないなんてウソ。そんな迷信は破りすてておしまいよ。まわりには沢山のすてきな女たちがいるのだから。飛ぶのが怖い？ じゃあ、一緒に飛ぼうよ。一緒になれば女たちは強い。(寺崎あきこ)

自己を語る力は飛翔する力だ

女がセックスを描くとやれポルノ小説だとさわぐ男たち。その昔、瀬戸内晴美さんもおなじ目にあつたのだ。

これは天下一品のユーモア小説。抱腹絶倒。男の論理に女の非論理。論理と分析からこぼれおちた部分をひろえば、人生は矛盾だらけでこんなにもこっけい。ユーモアは人生の饗宴である。自分の失敗を笑いぐさにしつつ、そこより学べ……とは「赤毛のアン」の一節。そこより学んだイザドロー。

男は男によってつくられた「女」を分析し治療する。だが「女」の陰に女あり。男たちよ。わかるかな。

男には女がみえない。から、分析する。から、人生がこぼれおちる。から、ありのままの自分がわからない。から、自分が語れない。から、変ることができない。

論理と分析をもってしてもいぜん変らぬのは男であり、落ちるのを怖がって飛べないのは男なのだ。男たちよ、わかるかな

ありのままに自己を語るができるのはいまや飛翔する力なのだ。

イザドローラ、あなたの率直さが
女を解放する！

(三木草子)

果して十九世紀ぶりの結末か？

飛ぶのが怖いって？ 結構、男性とセック
クスしているじゃないかと言う意見もあるだ
ろう。とことんファックされたい願望をもつ
イザドローラ。彼女のジップレス・ファック理
論、ベッドの下の男こそ、父親の一部、欧米
社会特有の家父長権力をシンボライズしたペ
ニスをもつ絶対的創造者であった。その幻の
男の愛を得、彼の肉体を所有する、その力
によって、いわば、イザドローラ・イカルスは
大空に飛翔したがっている。他者の全面的な
愛の力で自己完成し、世界の創造主体になろ
うとするのはまやかしかだ。明らかに。だから
本能的に飛ぶのが怖い。本当にその状態だと
んでしまったら、イザドローラ・イカルスの失



墜は、火を見るよりも明らかだ。多くの女は、
やみくもに飛んでしまうから、自滅する。内
容は簡単だ。

舞台は一路、ジャンボ機に乗って、フロイ
トの生地へ。そこで誘惑に意識的に乗っかっ
て、つかんだ男が、不能ときている。これは
知的に仕組まれたおもしろさだ。パロディー
彼女の精神を指導する分析先生、いつしか、
手玉にとられて、イザドローラの解放の手段に
なっている所が、こきみ良い。彼女は何を認
識したか？ ジップレス・ファック理論に
「ベッドの下の男は絶対にベッドの上にはな
れない」という結論を与えた。当然だった。自
己を完成するのは、孤独な自己のみだ。かく
て、この世に存在しない絶対的創造主の全人
的愛への願望は、消失した。イザドローラ・イ
カルスの失墜。絶望からの全的自己破壊を否
定する彼女、したたかに、次の創作活動の為
のメモをはじめ。理性的な健康的なステッ
プ、プラグマチックな実家？ おおいにみ
ならうべき。なにごとも、オーバーに絶望し
ない。これでは、どころんでも十九世紀ふ
うには、ほどとおい。だが、ベネットのホテ
ルへ行くではないか、やっぱりだめね。こう
いう女もいる。しかしまあ、ホテルの孤独な
一室で、イザドローラは、結婚の孤独、冷たい
ベネットの思いやりのなさをあげつらって、
結婚生活に逆戻りしないと云っているから、

読者は、信じてあげてもいいではないの。本
国へひとりで帰らないのは、旅の女が受ける
肉体的な危険を考慮した実際の判断だろう。

別れた夫のホテルで、浴槽につかり、ぬけぬ
けと鼻歌まじり。「お風呂に入りに来ただけ
よ。」どうみても、ちゃっかりした二十世紀
末の女。なんなら、離婚は、本国でゆっくり
落着いて、その前に、ファックでもいかが？
といったところか。軽くさわやかな結末。
ところでボーヴォワールの作品「レ・マン
ダラン」のアンヌを思い出すなら(まだ読ん
でない人は、即刻、読め)彼女は、精神分
析医、イザドローラとは反対に、アメリカの精
神分析学会の招待講演で、米国へ行く、米国
の作家と恋をする、恋の破局、彼と友情を結
ぶも孤独、絶望(老いを含めた)から、フラ
ンスへ帰って、自殺寸前までとなる。おもし
ろい類似性や違いが分るから是非、読んでみ
て欲しい。
(枝村たつ江)

女が生きていることの真摯な告白

あまりにも、ざらにある話でありすぎた。
リアルすぎて「小説である」という気になら
なかった。女の置かれた場、「女」の説明書
しっかりと克明に撮影された白黒フィルムに
よる写真集であり、レポートだ。
この小説について世評は、「新しい女」
とか、「衝撃の性を描く」等の声を上げてい

る。しかしそれは男の見方。ジョングは、ひたすらに、結婚というものの真実を、女が生きるということは何なのか、女とは、そもそも何ものかということをも、真摯に告白している。その弱さも、置かれたわく組も、桎梏も屈辱も。

そこには女にとってバラ色の未来を提示する事はない。あわだちだけだ。それほど女の位相は重いのだ。でも彼女は言う。「這いつくばるつもりはない。わかっているのは、それだけだった。それで充分だった」と。

女にとっては、ここからが発端なのだ。だからこそ、ウーマンリブであるのだ。幾十万人の読者との熱い連帯を感じている。

(溝口明代)



たいていの男はおちんちんを
ふたとおりにしか使わない
立っておしっこをするか
横になってファックをするかだ
世界は水平男でいっぱい――
あるいは垂直男で――
そしてじっさいそれはおんなじ病気だ

――エリカ・ジョングの詩より

まじよの
コーナー

スペキュラム (子宮鏡) をあなたも使ってみませんか

スペキュラムを使うことは、あなた自身からだとの出会いです。うつくしい、やさしい出会いです。膣が、タンポンやペニスだけの場所、あなたの知らない場所だとしたら、なんとさみしいことでしょう。あなたのいちばん近くにありながら、いちばん遠くはなれた場所だなんて。あなたが、あなたのほんとうの気持ちにむかいあってリブを生きてきたように、こんどは、あなた自身のからだにともすなやかな気持ちになって、むかいあってみませんか。

わたしもスペキュラムのことはずいぶんまえから知っていたけれど、じつはこんどはじめて使ってみました。そして他の人にもすすめたくなりました。

8月20日、大阪で開かれた「女のからだティーチ・イン」は自己紹介のあと、アメリカの女たちの作ったスペキュラムのスライドを質問をまじえながら上映。そしてスペキュラムの実さいの使い方。あわいピンクのマシマロのようにかわいい子宮口がはつきり見えるのです。かたちはその人によってまちまちそう、人の顔がちがうようなものなのです。膣だって深い人もあれば浅い人もあり、個性的なのです。こうしていく人かの女たちの子

宮口や膣を見ると、その多様さにおもわずにっこりしてしまいます。ああ、やっぱりそうなのか、と。すばらしい発見です。

ひよっとしたら女は、男のペニスがからだの大きさとは関係なくいろいろであるということを知っているのに、女のからだについては、知らなかったのではないかしら。女は、女のためにもっとからだをひらこう。こころを開いてきた女たちだもの、からだをひらいて、女のからだをわかりあわなくては。

自分のからだを知っておけば、変化に気づくこともできます。見る事ができないために、わけもなく悩んでいる女はいませんか。女のからだにJISマークはないのです。スペキュラムを使って、ありのままのあなたのからだに出会ってみませんか。そして女が女たちとからだを共有することができたら、どんなにすばらしいことでしょう。

「女のからだティーチ・イン」の申込み、中絶・避妊・性病の電話相談は、
○四二五・八五・一三一八 葉月 (月水金夜七時―九時) ○三・三三二・一五七五 柴崎 (火月土 夜八時―十時) 通信による連絡は 東京都杉並区高井戸東二の二六の土 柴崎まで

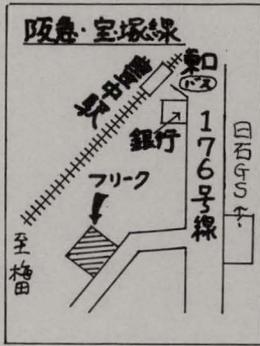
女の集會

◎合評会「女・エロス」9号

10月1日八東京V新宿「ホーキ星」
6時 刊03(341) 9364
八大阪V豊中「フリーク」5時
刊06(855) 3746
ぜひ参加してください。

◎大阪の女たち集れ!

出会いを求める大阪の女たちが、
喫茶店「フリーク」(阪急豊中駅
すぐ)で集りをもっています。
第一土曜(読書会) 第二木曜(井
戸端会議) 第四木曜(研究会)
連絡先は「フリーク」06(855)
3746 または「女から女たち
へ」大阪編集室まで。読書会は5
時から。他は6時半からです。



女の本

◎月刊「わたしは女」誕生!

7月刊刊号/結婚からの自立
8月号/わたしを感動させた女の
生き方 9月号/性の意識革命
10月号/男は女によってこう変わる
米自立したあたららしい生き方をめ
ざす若い女たちのための雑誌。で
も毎号、気になることがあるなあ
中年の男どもにページを与えて説
教させてるのん、おもしろくない
よ。どうせなら、男の価値観を反
省してる若ものたちに語らせたら
いいのね。商業誌の限界か、男
の編集長の限界か、それとも陰謀
なのか。ジック出版 480円

◎隔月刊「フェミニスト」創刊!

ハ論争の焦点Vマスコミによる現
代の神話作用をどう考えるか
米年に一回は英語版を出し、世界
に日本の事情を紹介したいとい
う編集方針で、ニューヨークとロサ
ンゼルスに支部をおく。世界各地
のリップの動きも紹介。表紙の人は
オノ・ヨーコ。牧神社 390円

◎「女・エロス」9号です

特集「売春考」はるかなるエロス”
全ページ売春問題を扱っています。
社会評論社 780円

◎「女の叛逆」17号できました

特集「リップ運動に後退なし」
*申込み送金は振替で。振替番号
名古屋42274加入者久野綾子
一部180円+〒120円
ミニコミ販売店にもあります。

◎女の店が大阪にできました

その名も、女たちの店「うーむ」
女たちの場として生かしたいとの
こと。大阪府枚方市御殿山町4の
11 刊0720(47) 1903

バックナンバーをどうぞ

「女から女たちへ」のバックナン
バーがあります。お友だちへのプ
レゼントにセットどうぞ!

お申込み下されば直接お友だちへ
お送りいたします。

14号~23号までの10号分セット価
630円+〒120円||750円
50円切手か定額小為替で編集部へ。



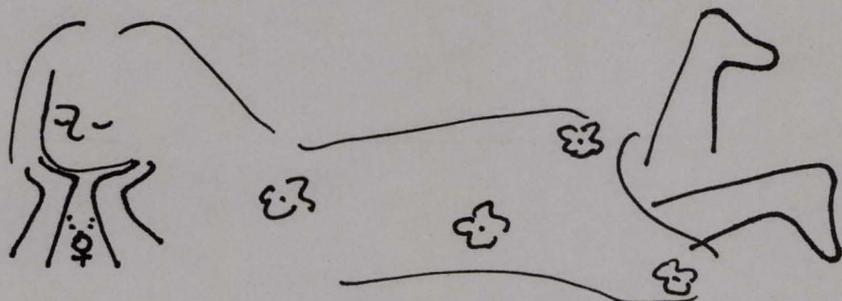
▼ジャニス・イアンのコムサート
に行きました。ありのままの彼女
がステキでした。最後にうたった
のは「17才の頃」です▼エリカ・
ジョンソンの詩にはとてもゆかいな
ものがあります。その一部を訳し
てみました▼今号よりページ数を
ふやして一部150円に改めまし
た。したがって定期購読料は5号
分で千円(千込み)。よろしく▼
「籍」をめぐる夏合宿、女たちの
語らいはつきない。報告は次号に
▼きびしい残暑。でもあつという
まに木枯しが吹くんですね。どう
ぞお元気で。(三木)

女から女たちへ

No.24 ¥150
1977. 9.

申込:東京都目黒区大橋
2-22-9の1013
鈴木洋子

投稿:兵庫県尼崎市南武庫之荘
6-7-23の305
三木草子



あなたを保護したがる男にご用心
そいつはそいつ以外のあらゆるものから
保護してくるってわけだからね



リブの女を称賛する男にご用心
そいつは自分の仕事をやめるつもりで
いるんだからね

— エリカ・ジョングー —

女から女たちへ

1977 冬 No. 25

- ★ <女・77・セミナー> 報告 P. 2
- ★ 事実と諸制度 P. 3
- ★ 中国の家族・籍 P. 5
- ★ 知られざる戸籍についての小さなガイド ① P. 6
- ★ 女の集会/女の店 P. 10



松本路子写真集「のびやかな女たち」(ウィメンズ・リヴェレーション)より

セミナー報告

女・77・セミナー

合宿レポート

”籍“ はなぜ女を分断するか

8月27・28・29日に開かれた合宿セミナー参加者は26人。そのうち赤ちゃん一人と男性一人。

一日目は夕方から自己紹介で、なぜ籍に関心があるかを一人ずつ語っていった。

「入籍はしないで同居、夫の名も名乗って勤めています」「入籍しないで同居3年目。子どもがうまれましたが、夫の家族がすぐ近所に住み、孫のため入籍するよう圧力をかける」「入籍結婚して20年たつ。お互いの家族のために犠牲になる年月だった。」「入籍しない結婚をしたいが公営住宅に当選して、婚姻届を出すことが入居条件になっている。よい方法はないか」「男が勝手に婚姻届を出してしまったので、婚姻無効届を出したんだけどプライベートなことを根ほり葉ほりきかれて受理してもらうのにずいぶん長い間かかった」など、みんな籍にまつわる悩みをかかえている。25人のうち独身者12人（うち離婚者2人）、婚姻入籍している人が4人、同居はしている人5人。入籍していない人が9人（うち子どもがいる人5人）。入籍している人の参加が少いのは、その人たちにとって籍が日常ではあまり問題ではないということなのだろう。

夜はただ一人の男性である佐藤文明さんが作成した「結婚と出産を見張る制度」という戸籍についてのガイドブックを読みながら、質疑討論。籍が女を分断するばかりでなく、差別と支配のカナメであることを知る。（佐藤さんは区役所で戸籍係をしていた経験から戸籍制度が家制度を温存し、婚姻外に産まれた子に嫡出でない子を差別して記する事実にくぐ然としたという。）

二日目は、歴史的に家制度を解明するため深江誠子さんが「日本の家思想について」をレポート。タテに連なるうとする日本人の意識は支配者にとってこのうえもなく安泰である。これからの日本人は、一度バラバラになって個をみつめていくなかで、家族単位の共同性を越えた新たな共同性を模索することが必要なのではないか、と話を結んだ。

つづいて齊藤幸枝さんが「婚姻無届による諸権利の差」について、会社の内規を調べてみると婚姻と内縁を同じ扱いにするところが多いと調査報告。

この夏中国を訪問した高木澄子さんは、「中国の婚姻制度」について、また白井千恵子さんは老後の女の自活を考えて年金についても

っと勉強することを「女性と年金」のなかで強調した。

最後の日は、高校の家庭科のテキストに書かれた結婚の項を検討、あまりの独断と偏見に一同びっくり、結婚と離婚の手引書を作成し、事実を伝える必要性を感じて、それを来年までの課題にして合宿を終えた。

さまざまな角度から籍のもつ意味を問い、参加者のかかえている問題をともに考え、経験を交換しあい、さらには夜を徹してのにぎやかな語りあいと、充実して楽しい三日間であった。

入籍せず同居の形でくらしして仕事をもっていなかった女が2人、合宿で勇気をえて、その後堂々と就職したことを聞いて、女の輪がこのように広がっていくことをうれしくおもった。

（編集部）



<合宿セミナー>

事実婚と諸制度

齊藤幸枝

99・8%の女が結婚により男の姓に変わるとか。「夫婦別姓を認めるべき」が未婚者の34%（77年内閣広報室調査）を占めるとい

に、結果において何故女たちは男の姓に変える方を選ぶのだろうか。妻の夫への改姓に家族制度の存続を見る思いがしたためか、相手を改姓させる必要性も見い出さなかったためか、5年間、私は改姓することなく、又相手もすることなく過してきた。籍が別々でも別に不自由することもなかった。

ところが今年の4月、彼が勤務先を退め、大学に入学した。体があまり丈夫でない彼にとって健康保険は不可欠。親の被扶養者として手続きしようとしたが何しろ相手は北海道、不便でしかたがない。やむなく国民健康保険に加入した。私の扶養家族にした方が有利であるが籍が別々の場合手続きが面倒だろうと思つたからである。国保の保険料は前年度の収入（1月～12月）を基準に算定される。10年動続34才であった彼は当然最高額。年額12万円ナリの支払い請求書が届いた。背に腹はかえられぬ。請求書を前にした私は彼を私の扶養家族とし健康保険に入れることにした。籍が同一でない男を女が扶養家族として申請する時、その手続きがどの位複雑なものか、

又、周囲の反応はどのようなものを調べるのも悪くないという興味も手伝つて。「正式に結婚してない」と。案の定事務担当

者から言われた。無理もない。扶養家族認定基準の末尾に書かれている「事実上の婚姻関係に有る者も含む」の一項を役立てようとしたのは彼女にとってはじめての経験だったのだから。二人のやりとりを聞いていたらしい周囲の人たちに、気にしていないはずなのに私の声は小さくなる。事務担当者が理解してテキパキと処理してくれた時にはほっとしたものだ。

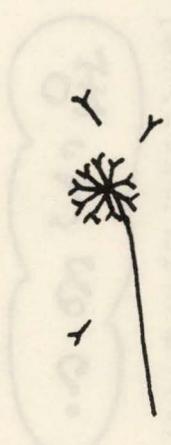
手続きに要した書類は何と10通。①住民票騰本②認定理由書③彼の在学証明書④彼の退職証明書⑤健康保険証の写⑥念書⑦彼の77年の源泉徴収票⑧二人の戸籍騰本⑨被扶養者認定申告書⑩給与所得の扶養控除等異動届書。各自の戸籍騰本が何故必要なのかは理解に苦しむが、半ば期待していた抵抗もなく、周囲の反応も私が気にしただけで全くないまま一ヶ月後無事認定された。

「正式な婚姻関係」と「事実上の婚姻関係」間にとどの位、手当や制度の面で差があるのだろうか。これを機会に調べてみた。まず大きな差は税制上の扶養控除の対象者にはなりえないことである。しかし私（地方公務員）の勤務先に関する限り、その他の面ではほとんど差がみられない。

- * 扶養手当・住居手当・健康保険
- * 慶弔休暇（相手の親族は姻族として扱う）
- * 結婚手当金（同居したことを届けた時支給も同じ扱いをうける）

これは国家公務員も全く同じ、民間企業でも古くからの企業では配偶者を「事実上の婚姻」として制度を設けている所が多い。奨学金や貸付金については婚姻関係の有無より性差別により支給されていないようだ。

しかし制度として「事実婚」が認められていれば必ず権利が行使できるか、といえれば現実はとてもとても。担当者や責任者あるいは上司にいやがらせをされたり、されていると思つて自己規制をしたり（意外とこれが多い）している場合も少くない。又、民間企業で、どこまでもだめだといわれた例も聞いている。この様な職場では本人が余程心して取組まねば、せっかくある制度も空文化し、ついには改定時に削られてしまうことになりかねない。ともあれ、ことあるごとに事実婚を通してゆきたい。戸籍制度からの私自身の解放のためにも。



家庭科のテキスト ▶ 離婚 ◀

文部省版

★離婚は、終生の愛情を誓って結ばれた夫婦にとってこのうえなく不幸なことである。また、こどものある夫婦の離婚は、こどもにも親の離婚のいたでを負わせることになる。

(教育図書)

★親子の血縁は生命のある限り断ち切ることができないのが事実である。したがって、多少の困難があっても、夫婦生活が破たんにならないように愛情を育て、日々の生活、日々の家族関係をかためるように努力しなければならない。

(実教出版)

★婚姻は終生をちぎりはずのものであるが、ときとして結婚生活を続けることが困難な事情にいたる人々がある。その不幸からたちなおるためには離婚もやむをえない場合があるが、その被害を最も受けることになるのはこどもである。

(学習研究社)

— 岡本紀子さん調査作成の
合宿パンフより—

リブ版

★離婚はともにくらす意志がなくなった夫婦にとってこのうえもなく賢明な決断である。また、こどものある夫婦の場合、夫婦がうまくいかないままにくらすことの方がこどもにいたでを与えることになる。(おんな図書)

★親子の血縁はまったく偶然のできごとである。血縁を特別視して家族中心にものごとを考えることは、とりわけ女にとって個を失うばかりでなく、社会性を欠くことにもなる。したがって、多少の困難があっても個人の自立が破たんにならないよう、日々の生活、日々の家族関係をよく見つめ、たかめなければならない。

(魔女出版)

★婚姻は女と男の関係を法律で認めたものである。結婚生活を続けることが困難な事情にいたった場合は、その法律関係を解消することができる。それが離婚である。離婚がこどもに被害を与えるなどといった古い考え方にまどわされて離婚にふみきらないでいることは、親にとってもこどもにとってもいちばん不幸なことである。

(リブ研究社)

— まじょ 作成 —

知ってる？

「籍を入れるなら、男が女の籍に入るぐらいのことは最低の抵抗としてやってほしいな」と言ってきたし、いまもそうおもってる。

でもサ、知ってる？ おどろいちゃったよ。女が入籍するのと、男が入籍するのとは、法律上でもちがうんだよね。男はまさしくムコ養子であって、女の両親の養子なのさ。だからこの男は妻に先だたれても妻の親の遺産相続ができる。この逆、女が男の籍に入ると、夫に先だたれたら夫の親の遺産相続はできないというわけ。どころんでも男はトクする籍のしくみだ。家制度はなにくわぬ顔で生きているのだ。

*

離婚すると、女の方だけに6カ月の再婚禁止期間がある。妊娠している可能性があるからというのがその理由。でも男が離婚した翌日に再婚してしまえば、一方女が妊娠していたら、彼女は法律的に婚外の母になるってことなんだよね。なんだか変だと思わない？ 妊娠しているかどうかを知るのにいまでは6カ月も必要ないし、だいたいそんなこと知る期間を法律で定めるのもおかしい。女にだけ妊娠の責任を負わせるのも納得できない。ここにも男によって規制される女の人生がある。

中国の家族・籍

高木澄子

— 社会主義建設の基礎単位として —

8億の民すべてが同じように食べていけるようになって、すべての家族が貧しさ故バラバラになることもなく、一家揃って暮らしていけるようになって、人民共和国が成立して、28年、今夏訪問した中国では、晩婚奨励と計画出産の家族政策がしきりであった。

男性28才、女性25才以上という年令で奨励される婚姻は登録によって成り立つ登録婚である。登録に際しては、その婚姻が男女双方の希望によるものであるが、一夫一婦制に合致しているか、結婚年令に達しているか（男性20才、女性18才）、一方あるいは双方に性生活器官の生理欠陥は無いか等、審査官がいて日本の届出制以上の実質的な審査があって婚姻が成立する。

婚姻後の姓名は、夫あるいは妻の姓に変更してもよいし、従来そのままでもよい。多くの場合は未婚時のままで、結婚後も姓を変更しない。子供の姓は、女兒には母の姓、男児には父の姓を名のらせるのが普通である。そして、成人後は子供自身で姓を選べる。それは父姓から母姓へ、母姓から父姓へ変更してよいだけではなく、父、母姓以外の姓を名のつてもよい。親しい人の名を、記念したい人の名を選んだりするという。また、何度変更し

てもよく、その都度届出をしさえすればよい。「世襲制度ではないので、姓名継承の意味はありません。」ということであった。

離婚は、婚姻の際に審査をきちんとするので、日本のように婚姻の無効や取消の条項はなく、破綻主義をとる。離婚の申し出を受け、住民委員会が調整をし、自己批判をさせる。それでも駄目で両者が一致した場合は、離婚届を出す。両者の意見が一致しない場合は、裁判となり裁判所が結婚の思想感情を調べ、仕事への影響等を判断し、結論を下す。

離婚の際、子供の養育は、子供にとって有利である方で育てられるよう判断が下されるが、授乳期の子供は、その間は母親のもとで育てられる。妊娠中、および出産後一年間は離婚できない。

相続は、夫婦の場合、一方が死亡すれば、すべて配偶者へ相続される。両親が死亡した場合は、子供の間で相談して決めるが、お互いにゆづり合うという。未成年者がいる場合は、その子が優先する。

訪中の第一歩、北京で最初に目にとび込んできたのは、整った団地風の労働者住宅の前にあった泥の壁、ムシロの入口の堀っ立て小屋の群、地震のための避難小屋の群であった。

工場では、同じ製品をつくるのに、はるかに能率の悪い手動式の機械もあり、そこでは手さぐりで出来る盲者の多くが働いていた。そんな風に人間が、子供も、老人も身障者も大切にされていた。三代が共に住むところも多い家族もお互いに協力し合い、うまく機能し合っていた。

しかし、首をかしげたことも多かった。離婚の際の判断の基準となるのは、本人達の気持であるよりは思想や仕事への影響であることに。計画出産、避妊のための薬、器具はすべて無料、私達の質問にびっくりして「何故未婚の女性にそれが必要なのですか」と言われたことに。「社会制度が違うので、結婚した夫や妻が他の人を好きになることは絶対ありません。」と言い切られたことに。

中国の婚姻法には、婚姻、離婚の自由、夫婦の平等はうたわれている。しかし、国の基本法である憲法には、ソビエトなど他の社会主義国と同じように個人の尊重はうたわれていない。このような社会主義国の基本原理があつて、家族は社会主義社会の基礎単位として認識された中国の家族政策がある。

個人が尊重され、個として真に自由で自立した時、そこから主体的に出發して、肉親に仲間、国などというものにつながっていくはず。登録、届出ではなく、こんなつながり方は日本にもないが、中国にもなかった。

結婚と出産を見張る制度

知られざる戸籍についての

小さなガイド ①

佐藤 文明

婚姻とは何か

① 婚姻成立の様式

結婚には男18以上、女16以上といった要件、柱を回るとか指輪を交わすとかいった様式とがある。この要件と様式がそろって結婚は成立し、相手が死んでしまうと遺産がコロゲ込むといった効力が発生します。

要件や様式は国、社会によって違い、一夫一婦を要件にしていない社会さえ存在。要件がその社会を律する力は大

きい。一方様式については法でこれを律しているもの、慣習に任せているもの、様式を問わず効力を認める法を持つものがあり、最初のを法律婚、最後のものを事実婚という。慣習については教会婚のように法律色の強い儀式婚と事実婚に近いものに分けられる。また法律婚には一定の儀式を法定した儀式婚と、相互が契約や宣言を取り交わす民事婚があり、ヨーロッパはフランス革命以来、多くが儀式婚から民事婚に移っている。かつて日本も民事婚を採用していたが、1986年、成立は式にあるが、役所に届けなければ効力は認めない、と改正。1898年には届出ないと成立したことにもならなくなった。これを法律婚のうち日本特有の形態、届出婚と呼ぶ。

② 届出婚は支配の要

個人の自由と直結し、ごく自治的な行為である男と女の関係を、なぜ日本は直接国家が管理することになったのか。それは維新政府の国家形成基盤にかかるものです。市民社会の法的諸権利、義務関係は婚姻を法で律するのが当然。そこでは効力も法で保償される以上、法律婚が古い慣習を破ります。しかし、だからといって届出婚のように、そのいちいちを国家が監視する必要はない。届出は婚姻制度に必要な様式ではなく、戸籍制度に必要な手続なのだ。

日本独特の届出婚については山主政幸氏は「明治絶対主義政権が徴兵制の要求から人民を警察的に支配しようとして戸籍制度を改革した際、その付随的な結果としてこれを生み出した」といつている。つまり、支配の武器戸籍への登録に強制力を持たせるための手段というわけ。その結果、結婚の効力を欲する者はいやおうなしに戸籍制度に屈伏し、国家の支配下に組み込まれるわけで、結婚をエサにした世界一の支配技術である。

③ 歪められた結婚

届出婚は結婚の古い聖性や新しい内実をすべて破壊します。と同時に届出にまつわる一定の規範を要求。これは結婚とは無縁な戸籍制度の要求といえる。結婚届書の提出が結婚のすべてになった日本。これは男女の関係をよってたかつて食い物にする古い儀式からの解放だ。愛情も生活の実態もどうでもいい。法的効力が相互に発生することを二人が自ら認めれば、政略結婚であろうと何だろうと、ベッドにでも寝そべりながら届書にサインしさえすればいい。それを妙に権威づけ、特殊な感情を込めることはかえって権力を貸すことだ。一方届書そのものの犯罪性。届書には証人二人を必要とするが、これは届出を権威づけるだけで、法的根拠はない。不要な要件を届出婚の要件が課しているのだ。結婚したいだけで、望まぬ筆頭者や

本籍を決めなければならぬ。一方が△姓▽を変えなければならぬ。こうしたことは結婚に必要なことではなく、国家が戸籍によって人民を支配するために必要なことなのだ。日本の結婚は戸籍制度に屈することを△要件▽にする。

④ 一夫一婦制を守るの嘘

結婚を戸籍で縛る大義名文に重婚の防止がある。だから△届出婚▽は戸籍の要求ではなく婚姻制度の要求だ、というのだ。だが、生活実態としての重婚を防止することは不可能。ただ△効力▽を二重に生むことを防ぐだけ。これも二カ所の役所に同時に届出れば重婚は△成立▽してしまうのだから完全ではない。

それどころか戸籍は△効力▽を形式に封じ込める結果、実態とは無縁に二重の關係の一方を法的無力者に仕立て、家族の崩壊なしに妾制度を温存する。かつて戸籍は妾制度を公然と認めており、今日の△認知▽はこの時代の遺制です。そして今も△認知▽はそのための役割を果している。重婚防止は単に△家制度▽の保護なのだ。

妻という字にや勝てやせぬ
戸籍制度は、各当事者の対等な民事訴訟の道をつさぎ、差別することで生活実態を圧殺する。△成立▽した重婚のように、各当事者が対等に訴訟を起せるなら妾制度（全員満足する重婚は残るだろうが）など、たちどころ

に消え失せる。

⑤ 届は女のための罪

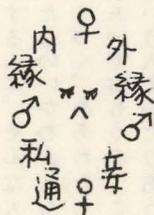
婚姻届は女のため、という人が多い。届がなければ棄てられ、扶養料ももらえず、泣き寝入り。届はそんな弱い女を保護するのだ、と。この声は届をした女は正式な妻、といった資格へのあこがれや、それはほめそやす社会的風潮とともに、無産者の△届出婚▽を支えている。しかし、先の声には二ツの重大な誤りがある。まず、女は扶養される者、という差別意識を前提とした論理であること。次に、届出なければ泣き寝入り、というそれ自体、実態を無視した制度的発想で、国家の支配制度を助長するものであること、だ。共同の生活において、一方が受けた不利益は、一般の損害賠償請求で回復すべき。相手がだれであろうとだ。「届がないのは棄てられること覚悟の共同だから責任關係は立証できない」といった判決が可能なのは、弁護士さえ届出婚主義に陥り、先のような発想を持っているからだ。届を拒否し、こうした賠償請求を当りまえとする社会を作るほうがどれほど女のためになるか知れない。さらに先の主張は扶養料取立て可能な人々、に当てはまるだけ。弁護士の生活を保償する階層の人々にしか縁がない。

⑥ 秘かに情を通ず
男と女の關係を自分の色メガネを通して切り分けるイヤラシサは、制度を

媒介してますます細かくなる。微に入り細に渡るといふのがこれ。列挙してみれば、男を中心に妻、婦、妾、婢というのはイニシエの通称。今は妻、内妻、情婦というのが一般の通称だ。

法律用語では、届をした夫婦を△婚姻關係▽、届があっても事実上こわれているものを△外縁關係▽。婚姻する意志はあっても届がないのを△内縁關係▽。そのうち、ほかに△外縁關係▽があるので届の出せないものを△重婚的内縁關係▽。近親等で△要件▽を欠き、届が出せないものを△違法内縁關係▽としている。また、家計をともにするなど、婚姻の実態はありながら、法的な婚姻をする意志のないものを△同棲關係▽。△婚姻關係▽を続けながら別の關係を維持しているものを△妾關係▽（男中心用語しかない）、その他の一時的關係を△私通關係▽と呼ぶ。△同棲關係▽には定説がなく、△内縁關係▽と△私通關係▽の中間、程度に考えられる。実態だけがすべての、△同棲▽を制度は握りようがないわけ。それで恐れるのだ。

——同名のパンフレットより転載



まじよ日記



11月×日 久しぶりに神戸の街を散歩しようとおもっていたところへ、いま神戸にいるの、と舟本さんからTEL。

彼女は、10年ぶりに会った友人がすっかり「主婦」におさまって感覚までちがってしまっていることに失望し、怒っていた。

F 「このぶんじゃあ、日本はなかなか変らないわねえ。リブはもっと外に働きかけなくちゃあ。むかしリブがありました、なんてことになるんじゃないかしら」

M 「肌身で感じた解放感忘れられるもんじやないから、リブは生きながらえるよ。でも少数派かもしれないね。主婦をなんとかしようというのはわたし、ちょっとしんどい。主婦として不満があっても根本的に自分を変えようとしないうら、ことばで言ってもむなしんよ。わたしはもう、泣いたらいいんだ、泣け泣けておもうの」

F 「それじゃあダメよ、運動としてやるにはよ。それはわかるけど、わたしは悲観的なものよ。いつでも手はさしのべていることにするけど」

F 「リブはもっと力をもたなくてはとおもう

の。7年たったでしょ。これからは運動をどう広げていくかを考えなくてはね」

M 「そうね。だけど日本は、アメリカでできたようなコンシャスネス・レイジングができてないとおもう。アメリカの女は女としての自己を知ることが変革につながったけど、日本の場合には知識どまり。ヨーロッパでもアメリカでもリブの雑誌が何十万と売れているのに、日本ではリブの女でさえ女のミニコミを150円出して買うことのためにらっている。『女・エロス』5千部、『女から女たちへ』5百部に苦勞してる。まだ道は遠いよ」

F 「コーヒー一杯分でミニコミが買えますって、あなたが言ったでしょ。借りて読むなんていう人がいるから、わたしも、ミニコミはぜったい買って読めよって売っているの。『あごら』に集る女たちの中でも同窓会に行くといって出てくる人がいるそのうだから、ほんとうにまだリブの道は遠いかもね」

M 「ふだんね、リブの女やいい男としか話をしないでしょ。で、たまにそうでない人と

話すよね、えっ／＼まだこんなこと考えてんの？ってびっくりするんよ。そんな人とどういうふうに話したらいいかわかんないわけ。そんなときつくづく、ああわたしはリブの温室育ちだなあっておもうの。これではいけない、そういう人とわたりあう術も身につけなくちゃあとおもってるのよ」

F 「ほんとにわたしたちは温室育ちよね。だから力をつけなくては。一月には女の大集会を東京で開くから、これからどうするか行動計画なんかも立てましようよ」

11月×日 『女の叛逆』を出している久野さんに会う。50ページもあるのに定価が180円であることが不思議だったので、どうしてそんなに安くできるのですか、とたずねる。「毎号10万円の赤字よ」「どうして値上げしないの？」「なかなかできないの。こちらから押しつけることになるでしょ。」「ウーン、そうかなあ。ちゃんとした値段にしてもいいとおもうけど」

おそらく久野さんは作り手として、金をもたない女たちに一人でも多く手渡したいとおもっているのだろう。彼女の気持はわかる。だが受け手として、わたしたちはそれでいいのだろうか。女が女のミニコミを支える、それも運動ではないだろうか。誰かの好意や犠牲にあまえているかぎり、女は運動を自分のものとすることができないのではないだろうか。他の人はどう考えてるのかな。

好奇心の強い女のページ

女性解放問題を考えるサークルのある大学といえは、東京女子大、お茶の水、早稲田などのほかに千葉大、広島大、宮城大、岡山大という国立大学とこのが、今まで五年間のあいだに、わたしのいるリブグループと接触した学校だったような気がする。

ところが、今年は成城大、学習院、成蹊大、一橋大という、こちらの思いもかけない大学から女性問題を大学祭であつきたいとって相談をもちかけられた。わたし個人にたいしてではなく身近のリブのグループに対してである。

そろそろバトンタッチしなくっちゃ!

一橋大では中山千夏さんを招いて、女のからだについて討論集会。学習院では小沢遼子吉武輝子両氏による「女らしさとは何か」を対談、そのあとヨネヤママコさんのパントマイム。成城大では「女・エロス」のメンバ

ー参加で「女の性」を一日目に、二日目は「今女たちは何をしているか」が岩月澄江さんと中原可夜さん（二人ともホーキ星のメンバー）の参加で規模は小さいがなごやかに行われた。学習院と成城大に参加したわたしの感想はこの五年間に、リブの女たちが、男女の役割分担に疑問をなげかけ、女らしさ男らしさを強制されてきたことに抵抗し、女が自立して

生きるとはどういうことを模索してきたが、もっと一般的に日常的に語りあえる女たちが、やっとふえてきたのだという証拠を見せられたという気がした。「女・エロス」創刊の頃にされたことが、世にも珍らしい女あつかいにしてもニューファミリーの奥さんの中にも同じ意識が生まれている。

馬鹿の一つ覚えみたいに「料理はできません」「掃除、洗濯きらいです」「セックスの話がしたいのです」とこの五年間言い続けてきたけれど、あと二、三年で四十才になるうとしていくのに自分ながら「阿呆とちやうか」

という気もしてきたので、こういう台詞は、もっと若い女にバトンタッチして、こんどはもう少し別の恐ろしいことをしゃべりたくな

った。十一才の娘が「家にいるだけの奥さんで、掃除と洗濯とお料理だけでしょう。馬鹿みたいだね。子どものいる前でも平気で人の悪口いっているんだよ」なんて本質を握んだことが発言できるようになったので、もうこれからは、先覚者の使命感みたいなものからはずれた、自分の心に正直なことをやってみたいのだ。それが何であるのかは、乞ご期待。

(S)

女の本

「アゲインスト・レイプ―なぜ女性はレイプされるか」 A・ミディア/K・トンブソン著 (双葉社 850円)

レイプ(強姦)とはじつさいおそわれることだけを意味しない。男の視線。夜道をひとり歩くことのこわさ。すでに心理的に女は犯されている。著者は、レイプは女に非があるという考えに、女自身がなりやすい下地が社会的につくられていることを指摘し、「女自身の権利と、女の誇りと、女の肉体と、女の時間のために闘う」ことを呼びかけている。

《女性はいまにも多くのことを、簡単に「そんなものよ」と受け入れている。しかし女性の生きている状況は耐えがたいものになっているのだ。人間としての女性の生存を日々侵食しているあらゆるものが、巧妙に、あるいは露骨に、女をレイプの犠牲者にしたてているのだ。》

《イスラエルの首相、ゴルダ・メイヤ女史は語っている。

「あるとき閣議の席上で、女たちが夜間に襲われた事件を処理することになった。閣僚の一人が「夜間の禁止令を出してはどうかと提案した。暗くなったら女は家のなかにいるようにせよというのである。そこで私は、『でも女を襲っているのは男でしょう。夜間外出

禁止令を出すなら、女ではなくて男を家にさせるようにしなさい」といった。▼
わたしたち自身の精神がいつのまにかとんとんレイプされてしまっていることを見なおし、女がどう変わるべきなのかを共に考えられる本。護身術も紹介されている。(M)

「砂漠にコスモスは咲かない」 ヨネヤマ ママコ著 (講談社 880円)
パントマイム「主婦のタンゴ」で女たちの間ですっかりおなじみのママコさんの半生記とエッセイ集。ユーモアがあり、デリケートで、批評眼がキラキラ光る。日米の文化論でもある。(M)

女の集会

●女が変われば政治が変わる

1978年1月28日(出) 午後1時〜7時
東京・山手教会(国電渋谷駅下車、公園通りバルコとなり)

討論「女と政治」・おんなのうた・ミュージカル「女の解放」(ドテカボ一座)・映画・グループ紹介・ヨガなどたくさん。

呼びかけ・政治を変えたい女たちの会
連絡先・横浜市港北区高田町2726の9
石井英子 tel 045 (593) 3177

女の店

●京都にも女の店があります

シャンバラという名の地下の店。誕生して4カ月だけど11月26日には「女の祭」を主催し、関西の女たちを集めてしまおうという活躍ぶり。毎月いろんな催しをやっています。

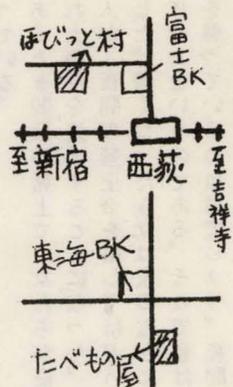
月曜定休。営業夕5時〜11時。食事もとってもおいしい。ミニコミ・女の本・女の情報
京都市中京区西ノ京円町30 円丸市場地下
「シャンバラ」tel 075 (821) 3579
京都駅から市バス(26)(57) 円町下車すぐ

●女と子どもたちで始めた「たべものや」

東京・西荻にオープン

西荻を拠点にして、女の問題を考え「ほびつと村」フリースクールで活動していた珠裸衣のメンバーが約一年の準備計画の後に、駅前商店街のド真ん中に食堂を11月3日にひらいた。人間の基本的要求である食べることを中心に、女が男や子ども老人たちとコミュニケーションのできる場所として「たべもの屋」は誕生した。メニューは玄米定食、七分づき定食、さんびら、ひじき、煮豆、そばポタージュ、カレー、スパゲティなど自然食の献立がいっぱい。定価も安め。

TEL 03 (399) 8794



△PS▽「ほびつと村」3Fにミニコミセンター「プラスード書店」が誕生。早速「女から女たちへ」も置いてもらいました。

あみくらみ

▼リブの女たちの写真を撮りつけてきた松本路子さんの写真集ができました。権書房2800円。レコード一枚分とおなじです。ぜひ買って下さい▼「ハイト・リポート」の感想(4百字位)をお寄せ下さい。ハガキでも結構です。しめ切2月10日▼「結婚と離婚のハンドブック」をつくりまします。体験に基づいたそのプラス・マイナスをリブの視点から書いて下さい▼3つのお願ひ、よろしく(M)

女から女たちへ	
No.25	¥150
1977. 12	
購読申込：東京都目黒区大橋2-22-9	
の1013 鈴木洋子	
投稿：尼崎市南武庫之荘6-7-23	
305 三木草子	

女から女たちへ

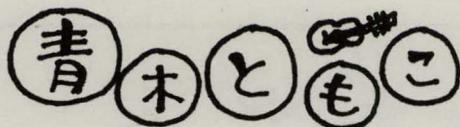
1978 夏 No.27

- ★ 青木ともこ・ソングブック P. 2
- ★ 自立 — 老後のために — P. 4
- ★ 知られざる戸籍についての小さなガイド ③ P. 5
- ★ MFS 運動の中で出合った女たち P. 8
- ★ 一憂の巻 P. 9
- ★ 女の本など P.10



青木ともこ

— 「のびやかな女たち」松本路子写真集より —



男の影に女あり

ジェン・ボス

C F C G7
 名をあげた 男の影に いつも女がいる
 C F C G7 C
 男につかえ 男をたすけ 男のために生きる
 F C
 そんな風に人生を生きてきた たくさんの女
 G7
 がいる
 C F C G7 C
 内助の功で男を支えた 男の影に女あり
 昔 私も一人の男を 私の人と呼んで
 彼の気をひくため くよくよ悩み
 毎晩 帰りを待ちわびて
 ああ ムダな時間 むなしかった愛
 誰にも おしはかれはしない
 暖かい夜のためになら 自分すら捨てられた

 男の愛は美しい 私に喜びを教えてくれた
 でもその愛が あなたを縛りつけるなら
 その輝きは まやかしだ
 誰もが 自分人生を生きて
 誰もが 自分の主人になる
 女はひどい犠牲を払った 男の影に立たされて

 蝶々の羽をむしりとったら もうとべないの
 はあたりまえ
 もし私の人生が とらわれの身なら
 死んでいるのも おなじ
 ステキな男が現われたとしても
 自分を捨てたくはない
 ひとりさみしく とびまわる方がいい
 男の影に立つのなら
 ひとり自由に とびまわる方がいい
 男の影に立つのなら

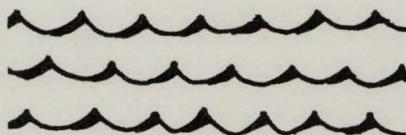


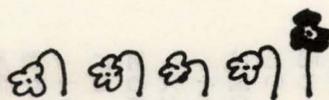
革命への手紙

ダイアン・ディプリマ

C F C F CG
 すきかってにできれば 人は 髪をのばす
 C F C F C
 すきかってにできれば 人は クツをぬぎす
 G
 てる
 C F C F C
 すきかってにできれば 人は 気軽にねむり
 F CG
 愛をむすび
 C F C F C C7
 毛布も クスリも 子供も みんないっしょ

 人は おそれたり なまけたりしない
 人は 種をまき わらい
 たがいに話す言葉は ひとりだち
 脳みそと耳にも 愛のしるしがある
 私たちは 海といっしょにもどってくる
 波のように 木の葉のように もどる
 野の草のように 数かぎりなく やさしく何
 度も
 私たちは 道をおぼえている
 赤ん坊たちは 宇宙の都市を はだしてヨチ
 ヨチ歩く
 すきかってにできれば 人は 髪をのばす
 すきかってにできれば 人は クツをぬぎす
 てる
 すきかってにできれば 人は……





お日さまは洗濯物を
 かわかしてくるためにだけ
 あなたの頭の上で輝き
 若い恋人たちはあなたの思い出を
 呼び起してくれるためにだけ 歩いていて
 いつまでも思い出に未練を残し
 待ってみても 何ももどってこない
 時間にきまりがあるわけでもないし
 思いたったときが はじまり
 いまが あなたの生れ変わる そのとき

G Am7 G Am7
 私を見るたび あなたの口について

G C D
 出てくることばは

G Am7 G Am7
 おまえはつまらない女だ

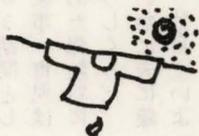
D
 なんのとりえもないね

私がおかをはじめようと
 小さな頭をもたげると
 あなたのハンマーが 打ち落とされて
 女の世界に 私を閉じこめる

何かをはじめると 女のくせに
 何もしないと つまらない女
 男の世界にあぐらをかいた
 あなたには なんとでもいえる

男の顔に満ちたりた笑いを
 うかばせるために 生きてきたみたい
 男につかえて 人生 そんをしたわ
 いま ハンマーに さよなら

いくらまわしてみても 洗濯機の底から
 生きがいは現われてこないし
 いくら洗ってみても みがいてみても
 お鍋に生きがいは 映らない
 先のことを思いめぐってみても
 思いが現実になるわけでもないし
 遅すぎることは何もない
 疑問を感じたときが はじまり
 いまが あなたの生れ変わる そのとき



青木ともこコンサート(関西)

7/4	京都	シャンバラ	7時	TEL 821-3579
7/5	奈良	女子寮	ホール 7時	
7/6	枚方	うーむ	7時	TEL 47-1903
7/7	豊中	フリーク	7時	TEL 06-855-3746
7/8	高石	羽衣短大	1時	

亭主というあの人は 夜 寝るためにだけ
 あなたのもとに 帰ってくる
 ふたりの心は紙切れの上の約束だけで
 まもられ 縛られている
 外に出るにも 思うようにならず
 エサをあたえられた カゴの中のカナリア
 あの人の生きがいをおずけているのなら
 自分自身にもどりたいときに
 いまが あなたの生れ変わる そのとき

あの人のおもったときはずいぶん
 会いたくないなあ
 会いたくないなあ
 すごくしたくないなあ
 ケンカしないでいられたらいいなあ
 ふたりつきりになれればいいなあ
 でもはじめは話すだけでも
 いいとおもっていたから
 みんなとおもってさわぐのも
 あいとおもっていたから...
 あの人のおもったとき
 わたしは はずみってばなし
 お酒とグルになって あの人
 わたしをつかまえてくるとき
 逃げ出せそうなくなる わたし
 でもいつもきまってる 一人だけにはなれない
 おなじ場面のくりかえし くりかえし...
 (あとは聴いてのお楽しみ...)

自立

2

結婚を、家^カを否定するあなたは、自分の老後を、どのように考えていますか。

年金制度は、働けなくなったときのための、所得保障制度。定年退職のため収入がなくなることが最も多いので、老齢年金が、年金制度の中心を占める。

厚生年金は、一般被用者（民間労働者）を対象として、その老齢年金は、加入期間が二十年以上ある人に、女五十五歳（男六十歳）から給付される。国民年金は、他の年金制度に入っていない二十歳から五十九歳までの人を対象にして、その老齢年金は、保険料加入期間二十五年以上の人に、女・男の区別なく、六十五歳から給付される。

一九六一年から、日本も皆年金制度になった、なんていうけれど、それは男の話。女には、この制度からおとされる落とし穴が、ちゃんと用意されている。

その落とし穴は、サラリーマンの妻（無職）は国民年金に加入しなくていい（してもいい）ということ。夫の給料で妻が扶養されるのと同じように、夫の被扶養者として、夫の年金で間接的に保障されるから、女の老後は、直接保障しなくてもいい、という考えだ。従属する配偶者に支払われる年金は、月六〇〇〇

円。

老後の 経済的自立 のために 白井千恵子

結婚生活が破綻し、離婚すると、月六〇〇〇円という間接保障すら、すべてなくなってしまう。主婦であった期間は、カラ期間として、期間だけは計算されるが、家事・育児は無償労働とみなされ、離婚後納めた保険料に応じて、年金が給付されるというしくみだ。このことから、妻の地位がいかに夫に隷属しているかが、わかるだろう。独身でいようが、結婚しようが、別れようが、心おきなくのびのびと生きるには、人に頼ることなく食っていきける金収入源をもつことが不可欠だ。自分で働くこと（主婦労働は意味しない）。そうすれば何らかの年金に加入していることになる。ただし、納めた年金額に応じて、年金は支払われるから、女の低賃金が、女の低年金給付へとつながっている。

万が一、サラリーマンの妻（無職）となっってしまったときには、国民年金に加入して、独立した自分の年金権を確立しておく。結婚生活により縛られないために。

といっても、今の年金制度では、十分な保障は期待できない。安心して老後を迎えるためには、年金制度そのものを変えていかななくてはならない。

その一、年金保険料は年金給付のためにだけ使うこと。現在のあまりに低い年金（七六年九月末平均支給金額は二十年加入で、女四九七二〇円、男七二九五九円）『婦人問題懇話会会報』二七号より）は、わたしたちが積立てているお金の利子によって給付され、元金は、実は、財政投融资として、政府や民間企業の資本に使われているからである。

その二、被保険者の保険料負担をなくし、事業主と国庫負担だけでまかなうこと。毎日毎日働いているわたしたちが、老後のために十分な貯えができないのは、わたしたちの責任ではなく、高物価、低賃金、社会施設の不備（住宅、医療など）によるためであるから。

その三、家単位の保障でなく、個人を対象とした保障にし、年金制度を統一すること。すべて国民は、「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」（憲法二五条）のだから、国民ひとりひとりを対象として、妻、公務員、民間労働者、パートタイマーなどの区別・差別のない保障をうける権利がある。

以上述べてきたように、年金制度においてもいろんな差別があるため、個人によって年金は異なってくる。自分の立場がどうなっているのか、各自で確認しておく。厚生年金は各地の社会保険事務所へ、国民年金は市（区、町）役所へ、足を運んで、納得のいくまで説明をきこう。

結婚を見張る制度

知られざる戸籍についての
小さなガイド ③

佐藤文明

⑫ 戸籍記載上の差別

外国で統柄といつた場合、息子か娘の二種しかないのが普通。ところが戸籍の父母との統柄では嫡出子だけに長男、二男(女)……と記すことを認め、嫡出子でない子にはただ男または女とだけ記される。これは家制度下の嫡男単独相統制の遺制で兄弟姉妹間の相統順位をさすもの。つまり、父母との統柄などではなく、兄弟間差別と相統権外に置かれた非嫡出子差別を表す。また、養子について、この欄は実態がどうであれ養子、養女の記載をやめず、この制度がいまだ、子のためのもでなくへ家へのための制度であることを明確に語っている。

また両親が結婚している場合、子のへ父母欄の母の氏は記載されないが、これはいまだ、へ氏が苗字ではなくへ家へに帰属するものであることを表すと同時に、妻の人格を夫に従属させるものだ。

⑬ 全体主義の足音

戸籍とは身分の公示を通じて人々を差別

し、差別を通して支配を確実にするものといえる。完全な支配を遂げるために、出生、死亡などに届出を義務づけている戸籍。届出によってへ成立する婚姻には当然その義務がなく、差別による強迫に屈しない者の存在が大きなネック。へ内縁関係へにある者を「検察官が強制的に登録してしまえ」という暴論が、「全国民の実生活を監視する力は検察にもない」と深刻に論議される恐ろしさに背筋の氷るのを感じる。それでも権力の強迫は充分効果を上げていて、戦前、プロレタリアには無用の長物ゆえ、彼等の増大がそのまま終生的無届婚(内縁関係)比率の増大を結果していたのに対し、圧倒的にプロレタリアが増大した今日、その比率はわずかに2%。権力に尾を振る人々が増え、正常な感覚と豊かな生命力を持った人々は届出をしない悪魔か狂人のごとくいわれる。ここには全体主義の足音が聞こえる。

		終生的内縁比率 %	
	平均	内プロレタリア	
	16	男	女
大正9	17	20	30
大正14	30	40	

⑭ 関連支配制度の話

戸籍支配の完成は権力の野望を果しなく拡げる。へ戸籍附票へが戸籍とへ住民票へを

結び、人々の移動を手中にし終ると、市民的諸権利の一切がへ住民基本台帳へによってのみ、付与されるようになる。国民すべてに与えられる筈の選挙権が、住民登録のない者から奪い去られたのはほんの一例。それが1967年のへ住民基本台帳法へだった。そしてこれは自治体のコンピュータ導入を準備する。情報は肥大化し、今や、税や福祉の資料も一元化。保健所や学校の資料さえ吞み込もうとしている。そして国民総背番号制の導入だ。背番号が戸籍を代行すると、警察、検察、自衛隊、消防庁などのコンピュータと回線をつぶだけで、ひとりひとりの生活の深層への権力の介入を可能にする。保安処分や子の教育に対する特殊指導など、プライバシー問題より遙かに恐ろしい政策を可能にする。戸籍はその際にも背骨の役を果しそう。

⑮ 戸籍に対する俗説

旧い戸籍の制度が今でも俗説として残り、それが旧体制を温存する役割を果している。戸籍が、今も旧体制の観念をそのまま引き延ばす構造を持っているのも確かだが、それ以上に俗説を積極的に利用し、より有効な支配を実現しようと企んでいるかのように見える。戸籍が汚れる「悪いこと」をすると戸籍に記録される、と思っている人がいる。しかし、犯歴簿と戸籍簿とは別。犯罪は戸籍には載らない。一方、出戻り「は戸籍を調べるとわかるが、これを犯罪同様「悪いこと」恥

アメリカ素通りの旅 田和明子♀

★ ★ MFS運動の中で出会った女たち ★

アメリカの Mobilization For SURVIVAL(生存のための動員)の運動と連帯する反核、反原発の三週間のツアーに加って、四月二十七日、日本を出発した。意思疎通の武器である言葉解せない私がアメリカへ行ってはたして何がみられるか、それほどの期待も心準備もなく、さそわれるままに参加したような旅だった。

だが最初の目的地コロラド州(ここにはロッキーフラッツ原爆工場がある)デンプーで行われた非暴力直接訓練に参加して、日本の政治集会のような悲愴感が少しもなく、まるで政治を日常生活の一部分のように明るく陽気に、楽しんでいられるようにすら見えるアメリカ人達と共にいるうちに、言葉のできない不自由さは決定的な問題としてあるにしても、共通の目標で集まり共に行動しているという連帯感が、まず私の最初の危惧を消してくれた。日本の代表がこの行動に参加していると紹介されると日本に関心のある人、日本語の少しわかる人達が話しかけてきてくれる。特に三里塚のことは多くの人からたづねられた。そして、六〇〇人の大会集に集まった人達の世代の若いこと、特に女の多いことにまず驚いた。

集会のスピーカーも半数が女性だった。MFSの集会では意識的に女のスピーカーを多くしているということは聞いていたが、動員されて集まるという集会ではない、自発的な草の根の運動にあれば多数の女性が参加していたのは感動的ではなかった。しかも、その多くはフェミニズムの運動に関わっているという。左翼の中ですらリブが偏見をもってみられている日本の運動との質的なちがいを痛感せずにはいられない。MFSの活動家の家に寝袋をとめてもらい、朝、ともに弁当を作って行動に出かけるという生活の中で、彼等の質素な食生活(ほとんどが菜食主義)簡素な活しぶりにふれるにつけて、環境問題や、未来のエネルギ問題を考えるとき、自分達のライフ・スタイルまで含めて問い直すというMFSの運動の本質が、既成の価値感を問い直すフェミニズムの運動と共通するのではないかというのが私の最初の印象だった。

次の訪問地、ニューヨークでのミーティングでも参加者の半数以上が女で、司会をしたのも若い女性だった。三才の子供をもつ彼女は夫と共にこの運動に参加しているが、今日は彼女の方が子供を見る番ですと自己紹介していた。

ニューメキシコでもアリゾナ、ラスベガス、サンフランシスコでも私達の受け入れをしてくれたメンバーに必ず女達がいた。いろんな集会での司会、その地方の運動の紹介をしたのもほとんどが若い女性だった。そして、フェニックスのミーティングで、シンガー・ソングライターの青年からMFSの運動がフェミニズムから強い影響を受けたこと、この運動に参加している男達も、女は弱い・男は強いとセットでおしつけられてきたものを問い直す男自身の解放を考えているということを知り、アメリカのリブ運動の力量、層の広さを痛感した。

十年前のベトナム反戦の頃は女の参加が非常に少なかったという。それが今、MFS運動にどうしてこれほどまで影響を与え得るようになったか、アメリカ



のリップの情報日本でも多く紹介されている。だがあの力量を目のあたりにみて、どういう方法がありえたのか、どこが日本とちがうのか(文化、既成の反体制運動をも含めて)を思わざるをえない。行く先々でのプレス関係者も半数が女性だった。このツアーにフェミニズムの立場から参加している女達のいることをメンバー紹介してもらったため、いろんなフェミニズム・グループとのミーティングも可能だった。

日本とは比較にならないリップの広がりがある反面、女の店を維持することの苦勞、子供をかかえて離婚した女の自立のむづかしさ、など女の状況のしんどさに日本と変りのない話も多くきいた。

そして彼女達の多くは中国やベトナムに非常に強い関心をもっていて、社会主義フェミニズムの方向を模索していると語っていた。私など社会主義革命が女を解放しなかった面ばかりに目を向けがちだったが、彼女達は逆に、革命が女を解放した面を積極的に評価していた。革命前の中国やベトナムとアメリカは同一に論じられないからこそ、弁証法的方法論を学ぶためにマルクスをやっているというフェミニストにも多く会った。

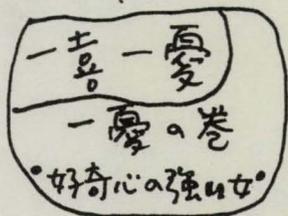
インディアンの居留地を訪れて、彼等を国内植民地化して収奪をしているアメリカ民主主義の欺まん性をみせつけられたり、人種差別、アメリカ的合理主義の無駄な面など、

短かい旅だったが行くことによって見えたもの、アメリカ人と共に行動するなかで理解したのも多くあった。

「好奇心の強い女」を自認しているせいかな普通の人(私がい人のこと)よりは、数倍も週刊誌の数を多く読み、テレビの番組も時間数を長く見ている(NHKはほとんど見ない)ものだから、そこに登場する女たちの発言や、ものの考え方に、つい気をとられて一喜一憂することが多い。

最近感じた一憂のほうから。日本短波放送のディスクジョッキー、大橋照子アナは落合恵子がやめたあとの唯一の、深夜放送のアイドル的存在だったらしい。毎朝出勤する彼女を待ちうけて、家をでてから駅まで、駅を下りると職場までのコースを中学、高校の男子がぞろぞろついて歩くという日課だったという。

なぜ彼女がそんなにもてるかという、悩める中高生の良き相談相手となつて、ラジオで囁き続けていたからだと思う。親や先生にも話せないことをお姉さん役の大橋アナになら打明けられる、というので。きっと受験勉強中の学生に、唯一のストレス解消の時間を与えることができたのだと思う。その「受験生の友」であった照子お姉さん

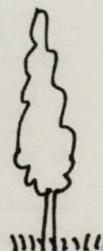


が東大生の銀行員とお見合いして、結婚することになったというニュースなのだ。このお姉さんは、きっと受験生に「東大に行きなさい」なんてことは、一言もしゃべらず、「落ちたって長い人生だもの、頑張ろうよ」式に激励していたはずなのだ。そうでないと、愛に飢えた若者のアイドルになれるはずがない。

ところが自分はさっさと東大卒のエリートと見合結婚した。相手の男は大橋アナの放送を一回も聞いたことがなくせに彼女との結婚を望んだ。まるで喜劇じゃないのよ。ひとりでもいい気になあって」と渡辺真知子式に、うら声をあげて歌いたくなくなってしまう。

「美しい女性を表彰するのがなぜ悪いの」(名大ミスコンテスト主催委)と同じ語調で「東大生と結婚して何故悪いの」というエリート女性の声が聞こえてきそうだ。

(次号につづく)



女の本

●「魔女の論理——エロスへの渴望」

駒尺喜美著 エポナ出版 920円

文学者の女性観をこれほど見事にあばいてくれる筆者は、いまのところ駒尺お姉さんしかない。漱石、荷風、吉屋信子、五木寛之の女性観は、日本人として上等の部らしいことがわかる。内容はエロスへの渴望、許されたる犯罪・強姦、男の世界、男だけの世界、女たちへのまなざし、その他。(S)

●「のびやかな女たち」松本路子写真集 話の特集社 1700円

日本と世界のリブたちの記録写真は、そのまま撮った人、松本路子さんの成長の記録でもあるという。「強くのびやかな女はうつくしい」という松本さんの目がとらえたい女たちがいっぱい。(M)

●「女の現在——育児から老後へ——」

伊藤雅子著 未来社 1200円

女たちはあまりにも早く老いていく、と著者は警告している。一步をふみだすべきときに女たちの口をついてでる「でも……」というためらいに、いいわけをゆるさないすうどい批判がやさしい口調のなかにこめられており、「主婦」と「主婦的状况」を見つめる手がかりになる本。(M)

女たちへ

●女のためのフリースペース

「すべーすJORA」誕生!

東京都新宿区早稲田町12の3 エスペラント会館1Fに6月末オープン。広さ約20坪の板張りの空間なので、貸スタジオ、貸会場として利用してほしい。平日一時間千円、一日中2万円(土・日2万5千円)7月中には表に喫茶室も開店予定。TEL 03(203)6022

●今秋、女の映画祭をやります

世界の女たちが作った映画を女たちのために女の手で上映しようと呼びかけています。あなたも手伝って下さい。連絡は

東京/ホーキ星TEL 03(341)9364
京都/シャンバラTEL 075(821)3579

●女の店「うらむ」営業時間変更します

月曜〜金曜 夕5時〜10時(土曜休み)
日・祝 3時〜10時 TEL 枚方(47)1903

●ミニコミ「あんなあへ」創刊!

京都の女の店「シャンバラ」が編集発行。初期にあったリブの熱気がここに生きています。近く3号発行。隔月刊 100円〜60円

ア
ば
っ
く
み
ら
あ
も

▼青木ともこさんのうたはもっと紹介したかったのですが、ページの都合でできませんでした。コンサートにはぜひ出かけてください。▼「名なしつうしん」を出しているてらだまりこさんも関西でうたいはじめています。こんな女たちのレコードを出したいなあとおもうのですが、いいチエありませんか▼名古屋大学でミスコンテストを発案した男たちに教えなければ。「女はすべてうつくしい」▼寺崎あきこさんからは東南アジアの旅先から、岩月澄江さんからはアメリカの「女の家」からのたよりが届いて、さわやかな風がわたしの心を吹きぬけました。日本の中で女であることの抑圧的状况に窒息しそうになるとき、こんな風に旅をすることがわたしには必要になります。すこし息をふき返したところで(M)

女から女たちへ

No. 27 ¥ 150. 千50
1978. 6

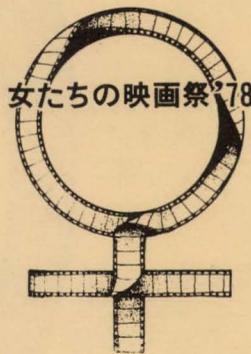
申込：東京都目黒区大橋
2-22-9の1013
鈴木 洋子
投稿：京都市右京区梅津
大繩場町6-6、
6-405 三木 草子
郵便振替 大阪 48156
三木 草子

女から女たちへ

1978 秋 No.28

* 東京 '78女の映画祭	1
* 京都の女の店「シャンバラ」	2
* 行動の自立について	3
* 女がみた三里塚	4
* 魔女の子と生きる闘い	6
* 知られざる戸籍についての小さなガイド④	8
* ニューフェミニスト宣言	9
* 映画「結婚しない女」をみて	10
* レコード／絵本	12

私たちは「女がつくった映画」を見たいと思いました。男たちがつくり出した、さまざまな女の理想像を見せられるのもうたたくさんだったから。女の姿を男の夢やロマンのフィリターなしで、きびしさと、熱い共感と、やさしさで描くのは女の



仕事。
その手始めに、「女のつくった映画」を集め、できるだけたくさん女の女たちと一しょにおおいに笑い、共感し、楽しみたいと思いました。それがこの「女たちの映画祭」です。

主催／女たちの映画祭実行委員会

連絡先 03 (375) 4813

とき・ところ／11月10(金)・11(土)・12(日)
四谷公会堂(地下鉄・御苑前すぐ) 託児有
前売券／10・11日各800円 12日千500円

10 主婦の動く日／何かが起る

●ほほえむブデー夫人(仏) 1923年
冢父長夫に悩まされる女の感情を描く。

●女ならやってみな(デンマーク) 1975年
女と男の役割の転換をユーモアをもって描き、役割分業を批判。爆笑、必見。

●猫の描き方 (米) ●オレンジ (米)

11 女はこんなにタフにやさしく生きられる

●絶対あきらめなざるな(米) 1975年
90才代の女性写真家が自己の人生を語る。

●アントニア(米) 1974年 史上初のオーケストラ指揮者アントニア・ブリコを弟子の歌手ジュディ・コリンズが描いた作品。

●ホーム・ムーヴィ(米) ●なりたいたいものなんて(上映は10・11日ともに、1時・3時45分・6時30分の3回上映です)

12 ●短編特集(午前10時〜12時) 10・11日
上映分も含めて、たくさん上映します。

●同じ映画も女がつくれば:(1〜3時30分)
お吟さま田中絹代監督 1962年

●アンコールアワーズ(3時45分〜7時)
女ならやってみな!／短編再映／日本の女

「シャンバラ」京都市中京区西ノ京町円丸市場地下画 075 (821) 3579



シャンバラは 2月でやめることになりました。

と、いつと、...「えん？ なんで？ どうして？」と
たいていの女が、驚きます。「そんなにものがある
の？ 女がこなの？」と、たずねられ、「はい、
そーですよ。」と答えるのが、あたりまえになっ
てしまった シャンバラの 今日今頃です。

「女と話すことって、楽しいネ」という気持ちがわき
シャンバラを、スリだし、それまで、自分が あまり
に女と出会っていないコをおもいらさねました。
そして、今、維持することさえむずかしい女に
よる、女のためのスペース「シャンバラ」に、
女の現在の状況をみてみます。

シャンバラを 実際にささえている七名の女が
かかえこんでいる問題(仕事のこと、お金のこと、
これからのこと)は、全ての女に共通する問題
でしょう。そして、その問題が 解決しない限り
今の女をとり囲む状況は、かわらぬでしょう。
私にとって、シャンバラをやめるコトは、おしま
い
なのではなく、より新しい「女の運動」へと
広がる道の 第1歩なのです。
かあり。

シャンバラより
せたちへ
愛をこめて

あーい
女たち
やーい

自立 3

誰もが人に良く思われたいというイロケがある。どういう子どもに育てたいか、と母親に聞くと「皆に愛される子どもに」という答えが圧倒的だ。

私も未だにこのイロケは捨て難い。一昔前まではイロケがあり過ぎて「滅私奉公」の毎日だった。可愛い妻と思われたい、立派な母親と思われたい、幸せな奥さんと思われたい、あらゆる役柄を演じつつ心の泉は枯れていた。

P T Aの世界が開かれると、今度は賢い人と思われたいイロケが顔を出し、ふるえる心臓を励まして発言した。結果は「生意気な女のレッテルを頂戴しただけの無残な敗北だった。さあ、後へは引けない。高卒以来無縁の勉強を始める。P T Aとは、教育とは……論理的にものを言えるようになればなるほど、情的な集団では孤立した。アカだ、バカだと笑われつつものいう中で、私の心にかつて頭上を通過しただけの民主主義がよみ返った。

ラブレターを書いて以来の手に鉄筆を握り、通信や文集に教育を告発し、紙不足を理由に学校からマッタがかかると、大手製紙会社の社長室に坐りこんで紙を出させた。走り出した止まらない自分におのき、教師集団や親たちの嫌がらせに開き直る自分におのいた。何とでも言え、私は私だ——イロケをか

なぐり捨てたとき、私の自我は確立した。

たった一人の闘いは原点であっても、それに終始するならば狼の遠吠えに過ぎない。ましてや、私の如きストレイシープの叫びでは「わが党唯一の党员」を宣言しても、苔むした日本タテ社会はビクともしない。地域を飛び出した私は「草の実会」で自立したタダの市民に出逢い、彼女らの応援あって、逆に地域へ教科書裁判地区連を結成できたのである。

行動の自立 ・門野 晴子・

そして国際婦人年。

41団体主催の「日本大会」に参加し学習を重ねる中で、私の長いあがきは「作られた女」からの脱皮のそれであったことに気付く。愛されることよりも愛することの充足感を覚えた私は、慣習や権力からの魂のフリーを得て、胸を張って歩く。フェミニズムの世界に向かって「私であり続けること」と「私たち」との共闘は、おり合ひもつれ合って長い一直線をきざむ。

さて、行動の自立とは何だろう。フロムの「自由からの逃走」に見る如く、現代人は自由を捨て群れたがる。ことに日本人は、ムラ社会的コアパーソナリティーでメシより好きな

「和」を掲げ、もたれ合い馴れ合い、同時に排他主義でヨソ者を排除するかとびかかる。

P T Aや暴力団ばかりではない。残念ながら市民運動やリブグループにも集団のからもし出す独特の雰囲気がある。「とても入っていないわ」とUターンするヒトも多いのである。

しかし、一人では生きていけないのも事実、どう他と交わりながら真の市民社会を築いていくべきかが問われるが、自分の言動に自分で責任の持てる自立した個が先決であろう。

そして馴れ合いをやめて、個と個がハナシアイでもハタシアイでも徹底してやることだ。

「和して同ぜず」行動の自立はこれに尽きないだろう。切磋琢磨を怠った集団は、どんな立派な旗を掲げていても重く淀んで腐敗する。ある反戦二十数年の女たちは、今や中流階級を自認するまでにダラクした。学習も運動もしたが、個人的には思いやりと称し、やり合うことを避けてきた結果である。

さまざま運動がある。今日個が分断されている如く、運動体も分断してしまっている。喜ぶのはドナタサマか？ 接点を見出して手をつなくべきときだろう。しかし、集団もまた自立していなければならぬ。「和して同ぜず」である。大きな団体の声に小さな声が消されることがあってはならないのだ。夜明けの扉は、大人たりうる人民の手によって、内側から開かれるときがきつとこよう。

女がみた三里塚

映画をみて

三里塚・辺田部落の闘争の日常を綴ったドキュメンタリーフィルムが九月三日大阪で上映されたので見に行つた。しかし闘う農民と何が何でも連帯するのだ、それによって反体制の化身になれるかのような無邪気で強い妄信に取りつかれたからではない。好奇心、懷疑、期待などのごったがえした冷めた眼差しを向けていた。都会育ちの者が

その良さも悪さも身に染みて、それ故に遠くにある農村での闘いや生活が実際以上に魅力的で革命の権化のようにすら見えてりすると裏腹に、遅れて村から都会へやって来た百姓育ちの私は、さすがに青い稲の波打ち際の場面にも美しく懐しいとさえ見えるが、物知りじいさんが、朴訥で善良そうな真顔で、あの家は本家だの分家だの、どこそこの家は、かって村八分になったことがあるとか昔のことをあげつらって、辺田部落を説明している最初の場面を目にしての時、帰ってしまった女がいた。() やっぱり逃げ出したくなる土地柄なのだと思つた。木の根部落は戦後入植された所らしいが、き

何処にいるのか？ 三里塚の若い女たち 枝村たつ江

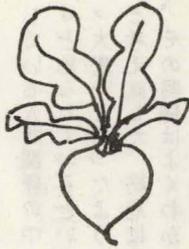
つと村のもつ伝統の古さも違うのだろう。権力との闘いと言えども、その村々の日常を構成している歴史に深く根差した家制度、土地の相続制度、因習、その土地が特にもつ伝統的な文化の諸々から無縁であろうはずがない。革命の一般概念から行動の型や方向を選択して闘うのではない。今さら驚くにあたらないあの他所の親戚よりは冠婚葬祭何をするにも向こう三軒両隣りを重じる土地を仲立ちにした共同体的な風習。祖先ゆずりの田畑を売買するようなときは、なおさら物笑いの種にならないよう本家の意向をうかがい、重立った上層農民の了承を得……、だろうと私の育つた

村を思い出しながら推測しつつ見ていた。平時には窒息するようなるさい世間の拘束力、それがあればこそ、五人組や村八分が逆に一揆の団結の基礎になったのと遠からずのところで、現今の権力に対する革命的なエネルギーや、連帯の強さもあつたのだろうか。おもしろいことに、今まで形ばかりで意味を失っていた村の伝統的な退屈そうな儀式が、新しい意味を付与され生き返り闘いの団結と連帯をかためる役を果し、娯楽に花をさかせる息抜

きともなっていると。名称は忘れたが、その一つに子供を産んだ「おっかあ」連中が集り、何やら乗せた盆を照れ臭そうに笑いながらかつ大まじめに恭しく形通りさしあげ、自分の産んだ子供の座っている囲りを立ち歩いて、それが終わると榎でおはらいをしている場面が映った。辺田部落では、他所から嫁に来、家に座を占め、のみならず祖先の一人として将来村の共同墓地へ埋めてもらう為には、単なる息子ではなく「総領」と呼ばれる田畑と家を相続することを当然のごとく約束された長男を産み無事に育て、その証としてこの祝い事をとり行う必要があるらしい。こうして資格を得た「おっかあ」は、大きな顔なのであろう。してみると、私のような他家へ嫁ぐことを当然とされ、幸か不幸か次期土地所有者、家の相続にあずからない若い女いかず後家、出戻り、石女は、どうも辺田部落の闘いには、お呼びの声もかからないらしい。私は、不安な面持ちになる。映画の触れ込みにあった「夫や息子を権力に奪われたおっかあの逞しい闘い」と言えども、その強さ逞しさは、結局のところ、家制度の枠内であり、次期土地所有者である「総領」と呼ばれる男を産んで資格をもつ女の強さがんばりではないのか？ ではないのか？ 私の目は疑り深い。涙ぐましくも友情に満ちた朴訥な青年達の生活からじみでた闘いの会合。しかしそのすばらしい闘いに村の若い女の顔ぶれは無かった。土

地に根ざした彼女らには生活が無いのか。さもあるう。土地所有、村政、青年団、祭り事から疎外されていた私の過去の農村生活の痛手がむしかえされ、ああ、やっぱり。何事にも男の中へ割りこんで参加する気力や力強さも失うほどの土地柄で、どうせ、「おっかあ」の尻にかくされつつ裏方のおさんどんなのかと思いやられる。それから三里塚には若い未婚や出戻りいかず後家の女が居ないのだろう。

いずれにせよ、できる限りいかに遅しく生き得たとしても、男の家と土地所有を目差す闘いの内では、女は所詮頭打ち、補助的存在なのだと思つた。何をこの一大事に及んで、女々しいゴタを並べているのか、その暇があったら、もっと高い政治的見識をもって、三里塚へ行ってみろ々と言われる御仁もあるう。しかし、おそらく百姓が、自分の荒れて草ぼうぼうの田地を放つたらかきにしてまで、他人の田畑を耕しに行かないのと同じで、農村から都会へやって来た私は、都会で何とか生きてみようとしているのであり、その経済的な足場も危い時に三里塚まで出向いて行く余裕がないと言つた所なのだ。無関心なのではない。



現地へ行つて

五月に辺田部落に援農に行つた時のこと。
「じゅうぜむのおっかあ」との大話しは、初めて触れた黒々とした土地の快感と共に、ガツンと一発くらつたような新鮮なショックを私に残した。

その時のおっかあの明快な論理。都市の生活の範囲でおんな解放を考えている私には、とてもたちうちできず、「うん、うん、わかる。だけど……。」の次が言えなくて、もう一度言えるようになってから来るぞ、と思つたものだ。それと三里塚でおんな解放が何とも性急な形で出されていて、おっかあ達に反発くらつているんじゃないかというのが、とても気がかりな事として残つた。

九月十七日は、前に行つたときには、飛んでいなかった飛行機が、飛び出して百日になる日。その百日間闘争の最後の日に、あの人達が闘つている闘いに何か少しでも役に立ちたいと思つて出かけた。結局は役に立とうなんてことはできなかったけれど、いろんな人と話をし、又少し豊かになつた自分をかかえ、そして闘いはまだまだ強くなつたという力強さを感じて帰つてきた。
しかし、土地を守り家を守ることから出発

三里塚で感じたこと 渡辺文恵

した闘いは、未だに強くその意識によって支えられているようだ。その中で女の状態はどうなるんだろう。私は支援から農家の嫁になつた人達がどう考え、それは年長の人達にどう受け取られているのか聞きたかつた。けど、嫁には、何か特別のこともない限り、家をあげる時間はない。若い女が集まつて女の問題について話す機会さえ作るのには難しい。結局話ではできなくて、その人達の生活や、考えはわからない。しかしかつて嫁であり、子供を連れて離婚することの難しさを経験した私は、離婚もままならぬ状態だけでも吐息がでそう。まして籍を問題にするなんて、そらぞらしい議論になるぐらいデンと家というものには存在しているようだ。

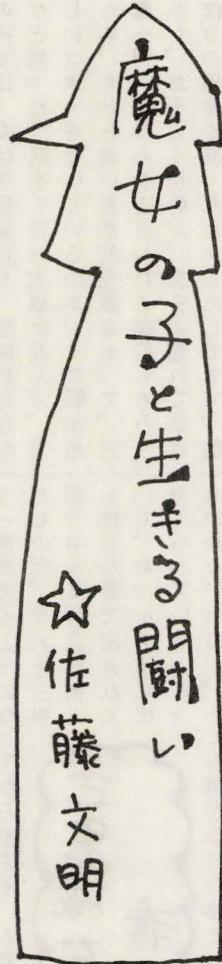
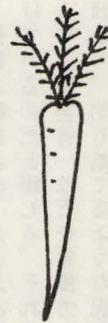
それでも私は三里塚の闘いが訴えているものに共通な思いを感じる。大ざっぱに言えば人と大地との、農村と都市との、人と人との共存を訴えかけているのだと感ずる。それは女や子供や老人や「障害者」などを労働力としての価値をはかり、切り捨てるような思想とは相反するものだろう。
と、勝手に私が思い入れてみても、女と男の位置関係にまで疑問を持つたり、変化させようとしたりすることは、なかなか現れないだろう。ただ良くも悪くも、色んな形で女性解放を訴え始めている人達がいて、それが、

一緒に闘いをしてる人間関係の中で、いろいろな形で受けとめられているということは、最初に、「ワッ大変」と思ったようなものでもないらしいと考え直した。結局は何日かいたぐらいでは、その関係はよくわからないという所だ。女にとっての状態は大変らしいけど、一緒に闘う仲間という、話していけるパイプがあることは、うらやましい。

しかし、今、現在を生き生きと生きたいと願い、家や土地や持ち物を捨てることで、そんな人間関係を手に入れようとしている私には、何と言っていいかわからない。頑張っても、我まんして、とも。ただ、切り捨てて身軽になっていく方法だけでは得られないものも、どっぷりとその中に身を置いてやっていく中からつかみ取れるのかもしれない。

最後に、泊めてもらった坂志岡団結小屋の印象を少し。女の問題を少くともまじめに考えようとする男たちがいるだけで、「活動家」の男にアレルギー気味な私には、嬉しい発見だった。それと、そう違わない感じであれこれ考えている女達にあって、ここにも仲間がいたと楽しくなった。

……しかし、「じゅうぜむのおつかあ」に言いかえせるような力は、今のところ、ないなア。



「なぜ結婚しないの」と問う人が多い。正直首を傾げてしまう。「なんですの」生活の連続を継ぎ切つてあるスタイルを選ぶわけだから、結婚のほうはずつと謎めいている。素朴な疑問。とはいえ、そこには制度という強制力が働いているんだということ。遅かれ早かれ誰にも見えてくる。まず同棲によって、次に出産によって、ボクラは様々な形の強制力に直面する。結婚しろ、役所に届けろ、おかしな世界から逃げまわることもできる。「変り者」と呼ばれて。しかし、おかしいの

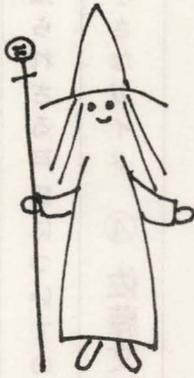
は世界のほうだ。とすれば逃げるんじゃないく改めてやれ。世界のおかしさを告発してやれ。七四年十月。子を産む決意を固めたボクラは闘いを選んだ。「私生子」として社会的に差別されるかもしれない子。しかし、考えてみれば「私生子」こそ輝く明日を創る自由の使者かもしれない。父権社会の根底をひっくり返し、ボクラが知らない世界を窺ふかもしれない。差別は男社会の怖れの現われ。「私生子」を魔女の子として怖れ、母を脅迫。男の支配下にある結婚へと、家庭へと縛りつけ

る異かもしれない。告発されるべきはこの異なのだ。

七五年四月、子が産まれた。出生届書の「嫡出でない子」欄に記入を拒否したボクラ。「書け」という戸籍係ともめあつて四ヶ月。ついに未記入のまま受理させた。「私も差別だと思いません」そういう係官もいた。が、問題は届書にだけあるのではない。住民票の続柄、戸籍簿の続柄。どちらでも「私生子」は差別されて記載される。

八月十四日、ボクラはまず、住民票上の差別をなくすべく行政訴訟を開始した。「婚姻外の子を記載上、差別するのは憲法に反する」というのが渋谷区に提出した異議申立ての要旨だ。翌年一月、同区は申立てを棄却。記載が差別であることには触れず、区別して記載する目的は何かにも答えず開き直つた。

①憲法は法律婚主義をとっているから、婚



姻を規律するのは当然。②民法がこれをうけ、子の扱いを区別するのも当然。③戸籍は当然これを区別して表示する。④住民票が戸籍の区別に従うのも不思議はない。よって、差別は憲法に反しない、というのだ。

その上、共同申立て人である私の訴えを、子と何の法的関係もない無資格者だという理由で却下した。棄却の「決定」は母に対してだけ出されている。

ボクラの闘いはこの時、住民票の差別に対してだけでなく、子育ての社会的責任を法的関係Ⅱ母に限定し、他の協力者を切り捨てると同時に、保育環境の整備という重責をかなぐり捨てた区長自身の保育観に対しても向けられた。ボクはわが子だけを大切に、と考えたくはない。共同保育に加わり、多くの子の行末えをより豊かにしたいと活動していた。だから、却下の本質がよく見える。却下はボクと子を切り離すだけでなく、共同保育者と

そこに生きる子供たちとを切り離すことを意味する。無認可の保育所で、ボクと子供らとは何の法的関係もない。だが、子にかかる差別を告発できぬまま、いい「子育て」などやるはずもない。

七六年三月、ボクラは棄却と却下の「決定」を不服とし、東京都に審査請求を起こした。

④住民票は戸籍とは独立、地方自治法に基いた制度である。③戸籍は民法上の区別を差別して表示する必要がある。②法律婚主義を貫いても、子の扱いを区別する必要はない。①憲法は法律婚主義をとっていない。よって「決定」は憲法を歪曲し、民法を身分制度化し、戸籍に差別表示を許して、生活に密着した住民票の中に持ち込んでいる。差別を定めているのは憲法である、というマヤカシの主張は認められない。また、却下は養育環境の整備を努めとする自治体の長としての責任を放棄したものであると同時に、審査請求人の行政不服審査権を奪うものである。これが請求の主旨だ。

これに対して同区は二度(76・8・4、77・11・11)弁明。ボクラもそれぞれに反論(76・9・9、77・12・12)した。詳しいやりとりもぜひ知って欲しいが、要点は戦後の「逆流」が「冢」の復活を企んでいるのかどうか。戦後の法改正が真に憲法に合ったものだったのかどうかの二点を巡ってたたかわれている。結果、行政権の戦後犯罪(憲法違反史)がく

つきり見えてきた。やりとりは圧倒的に押気味。すべての人に意味重大な訴訟になったと思っている。

「当審査は過去の処分を巡って争われているものではない。処分は現に、今、日々我々の日常を圧迫している。しかもその毎日、二度と回復しえぬものである。それゆえ緊急を要する審査なのである」(77・12・12都知事宛「要望書」)

だが、審査はいたずらに引延ばされている。区からも都からも、その後、音沙汰がない。断を下して手を汚したくないと、ひたすら革新都政の崩壊を待っているかのようだ。

最初ボクラは勝っても負けても、子が自意識を確立するまでに決着をつけようと考えていた。子が選んだ訴訟ではないのだからと。だが、遅れついでに希望も出てきた。子が自分で選べる齢になってからも、この闘いは続けない。少くともそれまで、ボクラは屈さない。支援の声を背に長期戦を構える。都が棄却したら次は国。そして住民票のほか、戸籍上の差別も残っている。「私生子」差別の完全撤廃には、戸籍の廃止。民法の改正まで射程に入れなければならない。と同時に、ボクが実際に子供らと生きあっていくことだ。冢族制度の外で、豊かな人間関係を築いていくことだ。そう思っている。

* * *

結婚と出産を見張る制度

知られざる戸籍についての

小さなガイド ④ 佐藤文明

届出を巡る抗争

16 自覚した人々の闘い

文明開化の波の中で、冢どうしの結婚を否定。フランス的な個人の自由、両性の平等を目指した新しい結婚の動きがあった。福沢諭吉、森有礼、植木枝盛らがその人だ。彼らは結婚を男女相互の個人の問題としてとらえ、愛の保償として婚姻契約を結ぶ、という一種の民事婚を作り出した。その後出された民法は彼らの闘いを潰し、個人は家に帰属、女は男に支配される。

これに抗し、民法Ⅱ戸籍法を無視して生き残った人が、大正デモクラシー下の大杉栄、伊藤野枝、平塚らいてう、らだ。彼らの主張は「男女の性を国家が縛るのは許せない」「女を差別する法に屈することはできない」の二点。が、後者の主張しか持てなかった人達は、戦後民主主義の神話に幻惑され、戸籍制度の軍門に下ります。非婚という共産党の内規も崩れます。戸籍は今も女を差別し、なによりも

国家による性の管理と、それを通じた支配の構図は不変だというのに。現在の婚姻法は、ブルジョワ民主主義の枠を一步も出ない、かの森有礼が想定した婚姻制度（『明六雑誌』8（27号連載）よりも遙かに反動的だというのに。戦後民主主義は闘い取られなかった。

私は現行の結婚制度に不満足な以上、そんな制度に従い、そんな法律によつて是認してもらふような結婚はしたくないのです。私は夫だの妻だのという名だけでもたまらないほどの反感をもっております……私はHが自分の夫だなどというようなことはあまりに興ざめたことで、考えるのも好みません……子供のことです……造らない考えです……もつともお母さんがおっしゃるような意味で形式的に結婚しない男女の間に子供の出来るということはただ不都合なことである、恥ずべきことであるというような考えをもつものでないことだけは申添えておきます……A平塚らいてう——独立するについて両親に「青鞥」1914・2月号所収V

17 戦後の混乱と戸籍

維新直後、戸籍が天皇制支配の走狗であることを直感した人々の手で、それは各地で何度も焼打ちに合った。敗戦はこの制度が直

面した二度目の危機。政府は空襲で焼かれた戸籍の再製をGHQの指令もまたずに開始した。しかし、権力にとつてかくも重大な戸籍の権威は地に墜ち、戸籍が売買されたり、戸籍を利用して人身売買される事件が激発した。また、旧占領地人民の解放が戸籍に基いて行われたため、一方で在日朝鮮人の、一方で戦争花嫁の諸権利が奪われた。宮家が臣籍降下し、皇室籍を失うと、旧華族の名を欲しがる戦後成金のもとに嫁が売られ、新しい華麗なる一族が形成されたりもする。A級戦犯Ⅱ戸籍の廃止の声が上がったのもそんな中。しかし、東西冷戦はGHQに天皇同様、戸籍の重さを認識させる。GHQは沖繩はもちろん戸籍を押しつけられた韓国台湾にもこれを維持させ、独裁政権の支配技術として、今も役立てられている。

18 子を入質にする制度

元来、一夫一婦制を巡って、夫方妻方相方が相続上の損失を生まないよう作り出された、冢と冢の政略結婚の落し子。これは同時に一方で私生子差別を、一方で冢の財の合体を通して資本の急速な原蓄積を、階級分解をもたらした。それでもこの差別が日本ほど露骨な国もなく、大宝令以来、日陰者にされてきた。今、民法九〇〇条は嫡出でない子の相続権を不当に差別して伝統を引き継ぎ、ソ連では重罰に処せられる出生の秘密の曝露を戸籍が、つまり政府が音頭

をとってやっている。「私生子優遇と婚姻尊重とは親族法における永久のディレンマである」と青山道夫氏がいみじくも指摘するように、この問題の最終的解決は実態的人間関係を制度が取締ることをやめない限りありえない。つまり、私有財産制と一夫一婦制という、子を切り分ける二重の制度をなくさない限り、日本政府はといえば、この矛盾を逆手にとり、私生子を弾圧。子を人質に強迫すること

で帳尻を合わせます。ある学者など、差別を作り出した国ではなく、産んだ親に対して、私生子たるがゆえ被った損害の賠償をさせるべき、と主張します。子を人質にとられていればこそ結婚する、そんな人は実に多いのだ。

19 家族手当を払う国

一般に届出婚が浸透した原因は実質的利

盗にある、といわれる。それを列記すれば、相続、扶養、子の嫡出性、近親者としての慰謝料請求(以上民法)、税の配偶者控除、扶養手当、健康保険加入、家族手当、等々、細かなものは果がない。かくも多いのはすべて日本社会の法体制の家族、親族観念が社会秩序の中核となっているから。「近くの他人よりも遠くの親セキ」こそ日本なのだ。親族の範囲を民法で定めている国は世界広しといえども日本だけ。家族手当も同様で外資系の企業には考えられないことなのだ。家族のためといえは甘い資本家達にとり入って、基本給の質上げを闕えぬエセ労組ダラ幹が、体面維

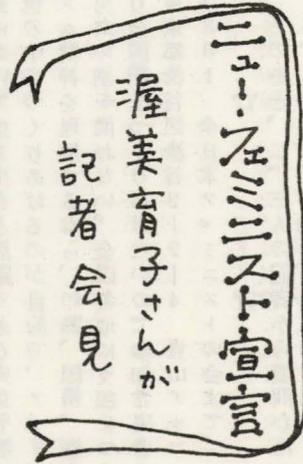
持のため有難く頂いたお涙金。家族制度の維持が体制の安定に寄与することを知り抜いている資本家にとって、手当というヒモつき賃金は安い買物。戸籍に届する条件で泣金を手にした日本労働運動の反動性は驚くべきものだ。その上、組合が結婚祝金を払ったりして、この国は上からも下からも家族制度を支えるファッショ国家なのか。恐怖を禁じえない。

* 高島屋	配偶者に150	18才以下の子に130他100	いづれか1人に支給
* 明治製菓	(配) 150	(子) 2 / 4人	各30
* 松下電器	(配) 120	(他) 150のみ	
* 旭化成	(配) 120	(子) 2人 70、3人 85	
* 日本カーボン	(配) 115	(子) 2人 135、3人 155	

(76年5月1日現在、単位百円)

他はおして知るべし。これで買えるのは妻子を養っている、といった一家の主としての優越感だけだ。

← 同名のパンフより転載(づ)く
 編集部よりV前号の「戸籍制度」表は、パンフの表ではなく、あらためて書いていたものだ。



九月二日午後二時、東京赤坂プリンスホテル二階会議室で「フェミニスト」編集長渥美育子さんが四十名ばかりのマスコミ関係者を招待して記者会見を行なった。会見の内容は「ニュー・フェミニズム宣言」を発表するという。女性ミニコミ誌に対しては、直接の招待がなかったのだが、「女・エロス」「女から女たちへ」を代表したつもりでわたしはもぐりこんだ。会場でやはりもぐりこみの婦人民主新聞記者Tさんに会った。

記者会見の内容につき要約しよう。
 「一九六〇年代がウイメンズリベレイションの時代だとしたら七〇年はニューフェミニズムの時代だと思います。『フェミニスト』を創刊して一年になりますが、フェミニストという言葉は、日本では女性にやさしくする男という風に解釈され誤解が多いのです。わたしはフェミニズムの新しい定義として「女性による人間解放主義」ということを唱えた

映画「結婚しない女」をみて



結婚しないのは自由への一歩

●私がこの映画をみに行ったのは、週末だったけど、満員で、両側の壁にもズラリと立見客が並ぶ程の盛況だった。ほとんどがお金のかかった「いい」格好をしたOLで、私のようなGパン姿は他には見当らなかった。(某週刊誌でも「結婚しない女」をみる「結婚したい」女たちなどと皮肉られていたけど、彼女たちが何故この映画をみに来たのか、きいてみたかったなあ。)

●ある女の作家がTVで、この映画の題名をきいた時、結婚なんて、とつっぱった女のお話かと思っただけで、最初余りみる気がしなかったんだけどと言っているのをきいて、私はへえっという感じだった。そうか、世間様はそう思っているのか。私には「結婚しない」ということから、のびのびしているとか、自分を大切にするとかって肯定的なイメージしか浮ばない。でも我が住む国は、三十すぎで、結婚していない女は、何パーセントか知らないけど、文字どおりのマイノリティ・グループなものね。未婚、既婚、離婚があっても、不婚という言葉はないのだし。ちなみに西ドイツでは「結婚から脱け出た女」というような意

味のタイトルになっていて、これは正解じゃないかしら、この映画のタイトルとして。

●エリカは折角みつけた「いい男」ソールを捨て、自立の道を選ぶ。迷いに迷った末に。でもソールの言っていることに耳を傾けてごらんよ。エリカならずとも、こんな男と四六時中いたらやり切れないと思うのは当然じゃなからうか。ぼくはあなたが必要だ、あなたにとってもぼくと一緒にいるのが一番いいのだと信じ切っているんだから。こういう風に見カッコよくて、物わかりのよさそうな男ってクセ者なんだよね。一皮むけば、丸で旧態依然の男中心な考え方しかできないんだから。●でも手離してエリカに賛成している訳ではないんだよ、私は。だって、エリカが再婚しないで「自立」のみちを選んだそのエネルギーは、やっぱり男に支えられているんだもの。彼女の飲み友だち、エレインやスー、ジャネットのドジな話の方が興味あるな、私には。白馬の騎士が現われないでも、生き生きと、のびのびと、幸福に生きていく女たちの映画の方が私はみたい。でもこういう映画が出て来たってことはやっぱりいいことだよ。こういう映画から結婚しない女Ⅱつっぱった女なんてイメージが消えて行くことになればよいと思うしね。

(寺崎あきこ)

い。女性が人間として日常生活のあらゆる面で平等に自由に生きていくという、ごくあたりまえのことが自然にまよばんなく実現されていくことをわたしたちは意図します。

ヘルメットをかぶって戦闘的にやるのではなく、また権利の主張だけ、意識変革のみというのではなく女性が、学問、政治、労働、芸術、くらしなどあらゆる面で創造的に生きることを目指します。フェミニズムは管理社会のなかで押しつぶされた男性の解放にも通じます。

リップ活動で要求してきたことは、今では、政府の作った婦人白書にすらとりあげられています。フェミニズムは都市の女たちのものだけでなく広く全国の女たちが参加し、行動できるような全国組織をつくって実践します」というような宣言に続いて、全日本フェミニストの会を結成する呼びかけも行なわれた。自立する女性をめざし、女性があらゆる分野において生き生きと活躍できる男女平等の世の中をつくりあげるのが目的で、フェミニズム精神を理解するなら、年齢、国籍、職業、男女の別を問わない。全国各地に支部をつくり全国網をつくりあげたいので参加希望者は東京都渋谷区渋谷2-2-4 青山アルコーブ301 全日本フェミニストの会まで。

☆

このあと、二、三人の記者から質問があったが、マスコミで当日の会見を報道してくれ

☆

別れが怖わくても……

いつも側に居た人が急に居なくなってしまう。こんなに淋しい気持はないと思う。彼女は「誰もがカッブルのように見えて、私だけ一人のようで……」とこの淋しい気持を表現している。娘がボーイフレンドとキスをしていると、娘まで去った様な気がして、ヒステリーを起す。しかし、離婚だけが、そんなに不安で、孤独で、惨めな立場を作るものではない。同棲、いや、誰かとき合う事でも、そういう気持を味う事がある。特に、突然の一方的な捨てられ方をしたら、恐怖心を抱いてしまうものである。彼女の場合、結婚しない事で、その恐怖から逃れようとするが、結婚しなければ、安心感が得られるというものではない。私が思うに、結婚に、愛に破れ、恐怖心を抱いたとしても、男と女、愛し合うという事実から逃れることはできない。見栄をはって悩むより、恐れながらも飛び込むしかないのである。しかし、どつぷりと愛につからずに、常にどこか醒めた部分、心を向けられる何かを用意しておく必要があると思う。彼女も、ラストで、一人では持ちきれないような大きな絵を、捨てないで、よろけながら持ち帰ったように、私も、いろいろな物にぶつかりながらも、恐怖を抱きながらも、歩き進んでいくしかないのだ、と思う。

(田辺久美)

ああ、この男もまた

見てください。最後のあの画家の男性主義観。女に親切で、金があり、愛していると口説き、子どもと田舎の自然の中で暮す男。そして、抽象画を画く現代的で一見、やさしい男。それが僕についてきてくれ、僕の仕事はやめられないのだ、君なら僕の子どもと暮せる……などと。

女たちはもうこんな男の台詞にまどわせられないのです。そして、封建性丸だしの男よりも、一層始末におえない男だと思っております。だから、女主人公は別れたのですね。

それなのに、男たちのマスコミの映画評では、この点について触れている人はいなくなりましたね。あの画家についていかなかった女の方に問題があるみたいなお口吻でした。女主人公にしてみたら、ようやくここから自由な女(原題)になるところなのに。それまではむしろ試行錯誤だったわけで、画家は彼女の道程の中ではほんのひとりの捨石になるのかもしれない。それにしても、人間に対する世の中の評価は、女にからく、男に甘いのだと、あらためて感じさせられた映画でした。

(舟本恵美)



るならどなたでも、という雰囲気なので招かれた側も、フェミニスト宣言を「ああ、そうですね、内容はリップですわね」というかんじ。果たして、どれだけ理解し、共感したのかはわからない。ウーマンリップは去年の夏で終ったと渥美さんがいうので少しさぐりを入れると、どうも彼女の頭にあるウーマンリップはピクヘルのことらしい。フェミニズムの定義を正しくしたいという人がウーマンリップの定義をあまりにも一方的に受けとめているのがおかしかった。

女性が創造的に、自立的に生きることが、明治の終り、大正の頃からすでに一部の女性から提唱があったのに六十年を経た今日でもよいとわかっていながら実現されていない。一九七八年九月に一人の女性がニューフェミニズム宣言という画期的なことをいっても、世の中は急旋回しない。マスコミも無視してしまふ。こういう恐ろしいような生き難さを渥美さんのきらうリップの女たちは、この六年間支離めつれつになりながら闘ってきたのだ。宣言の中味は立派だし、フェミニストの会の主旨も日本人のほとんどの人は男女を問わず賛成するだろう。

それなのに、ナゼ一人一人の女たちは孤立し生き難いのか。よいとわかっていることがなぜ実行されないのか、を皆と考えていきたいと思う。(東京S記)

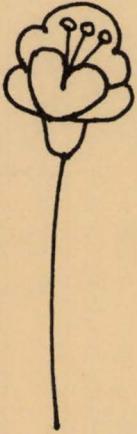
まじよのコーナー

中山ラビ新レコード「はだ絵」

ラビさんの6枚目のアルバムです。

夏にライブハウスで彼女のうたを聴きながら、はっと気がつき、このアルバムでもその思いはおなじなんだけど、ずっとずっとはじめから彼女は、はげしくしつように男の愛を逃げるごとく追うごとくもとめているんだなあってこと。つかんでもつかんでもつかみきれず、追っかけても追っかけてもそれは自分が逃げている姿であったりする。男との愛は、なぜかいつもすぎ去った日の黄ばんだ写真になってゆくのに、ほんとうにほしいものはそれではえられないかもしれないのに、彼女は意地をはっているような頑固さで他のものにも目をやらず、すぎ去った日を見つめている。それはもう彼女の肌に乗ったりはりついたり「はだ絵」になってしまっている。ときどきそんな自分がおかしくしておどけてみせるが、その奥にキュッと口をむすんだ彼女の顔がうかんでくる。

キティレコード MFK 1038 ¥2500



絵本「けんたのにんぎょう」

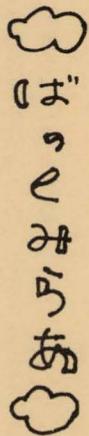
男の子は女の子にくらべて、こんなに小さい頃から暴力を身につけているんだなあ、と、ギクリとさせられる。その男の子が女の子をおしてはじめて人形への思いやりの心を知るといふ、性差別の問題にとりくんだ、2人の女がつくった絵本。3歳5才向うめださとい文 いまきみち画 童心社 880円



女のヌードは原子力の日とは関係ない!

原子力の日(10・26)のポスターは女の上半身の大ヌード写真にエネルギー・アレギーとある。冗談じゃない。政府が先頭をきつてなんの関連もない女の裸を宣伝の手段に使うその鈍感さは、この国の男の意識レベルをよくあらわしている。

大阪では原発に反対する女たちが抗議し、その結果、大阪府はポスターを掲示しない方針にきめた。ポスターの抗議先は東京都千代田区霞ヶ関2の2の1 科学技術庁内 科学技術庁長官 熊谷太三郎宛



▼9月のある日、「女・エロス」によるただの女の依頼原稿にぎりつぶしに抗議する集会の案内が届いた。経過説明も差出人がどういう人なのかも書いてない。あとになってわかったことだが、「女・エロス」がMさんの原稿の不明瞭な点を明らかにしてほしいと要望を出したところ、思想の本質にふれるからと拒否されたので掲載しなかった、それをMさんは編集権の乱用だと抗議、あの集会になつたようだ▼原稿が依頼されたものであれ投稿したものであれ、書き手の言いたいことが変わらぬように、依頼であれ投稿であれ編集者の見る目も変わらない、ということだけはたしかなことだ。書き手と編集者はもっと生産的な関係になれるはずなのに、と残念▼こちらの住所が東京・大阪ともに変わりました。よろしく。

女から女たちへ

No. 28. 1978. 11

¥150 760

購読申込：千葉市

磯辺60-1 磯辺第一団地

4-302 鈴木洋子

投稿：京都市右京区梅津

大縄場町6-6の6-405

三木草子

女から女たちへ

1979 春 No.29

- * 経済的自立について..... 2
- * 外に出て世界を変えよう — レズビアンへ..... 3
- * 想いを力へ — 名古屋婦人会館訪問記 — 6
- * 知られざる戸籍についての小さなガイド⑤..... 8
- * 労基法改悪反対関西集会の報告..... 10
- * 映画「歌う女・歌わない女」をみて..... 11
- * 映画「結婚しない女」を原作と比較して..... 12
- * 1. 20「男女雇用平等法」集会報告..... 13
- * 映画「女ならやってみな／＼」買います..... 14



映画「歌う女・歌わない女」より

自立 4

人は何にこだわって生きているのかと気になっている。私の場合でいえば、父親に養なわれているということが苦痛でしかなかった。十代のはじめ頃から、その頃の言い方でいえば、自活しようと決めていた。

女が結婚をしてから働き続けても、男は女を養なってやっていると意識を持ち続けているのだということを見ていると、経済的に従属するとは人間として、みじめだと思ってしまうようになっていた。また、たとえ、結婚相手を手を女が自分で選んだとしても、父親という男の家から夫という男の家へ移るだけのように思えて、結婚をするとは考えられなかった。

ひとりで生きていくなれば当然、何らかの資格や技術を身につけることを考えていたが、私だけの問題が解決するだけなのでやめたのだが、ひとつには、他人をけおとすことを強いる学校教育を受けてきたことへの反省もあった。

二十才までに二度も健康を損ねて、まったく自信をなくしていたが、社会に出てから、ようやく、女がひとりでは生き難い社会になっているのだと気づくようになり、女が男の下で補助的な仕事しか与えられないことも、

女と仕事

経済的自立

三木 綾子

私にとって仕事とは何だろうと深刻に考えるきっかけになる。

なにかもが八方ふさがりになっていた頃、父と弟の三人家族で、私が主婦がわりをしていたのだが、自己を切り売りしていることのつらさが身にしみただけに、家事労働がお金(賃金)にかえられないことに、かえって自己満足をしていることもあった。しかし、それは企業にとって都合のよいことで結婚とは何と幾重にも利用され尽くしているのかと、腹をたててばかりいた。

女に出会いたいと心底思うようになるには随分と時間がかかった。それは、私が女に対する信頼を一度失くしたことがあったこともあるが、女が分断されている状況がみえにくい分だけ、気づいてからは必死で、参院選の女性候補者の選挙運動の誘いに、すぐに応じたのも、そんな時だった。初めて女たちと何かを一緒にやることの楽しさを味わい、そのなかで知りあった女たちと、一膳めし屋「もりもり」をするようになったのは、幸運も重なったが、なによりも三十代の女ばかりであったことが強みだった。女の連帯などと、こと新しく話す必要もない位だったから。

精神的自立も性的自立も、経済的に自立ができていてこそと、わかりかけてきた時、女

は三十になれば職のないありさま。あったとしてもパートの使い捨て。なければ自分たちで職場をつくりだそうというわけで、「もりもり」はすべて友人からの借金で開店にこぎつけた。

開店二ヶ月後に私はやっと念願の家を出ることになったが、毎月の返済もあり、経済的自立にはまだ難しいので女友達と一緒に部屋を借りている。その彼女や「もりもり」を陰で支えてくれている多くの友達のことを思うと、このうれしさを力に替えたいとつくづく思うこの頃、家において養なわれていることの後めたさにつきまとわれていたことが、嘘のような思いがして、ちょうど私にとって、長い陣痛期だったのかもしれない。けれども、女が養なわれていることに無神経であることは、これからも問題にしていかなければならないが、最初に書いた、何にこだわって生きているのかは、いいかえれば、何を大事にして生きているのかということであり、リブとは感性を大事にして生きることだと、いま言える。

感性を愚鈍にさせない為にも、余分なものを削ぎとった簡素な暮らし向きを心がけてゆきたいし、他のアジアの女たちの生活を収奪して、やっと成り立っている日本の女の経済的自立だということを肝に銘じたい。



外に出て世界を変えよう! ♀♀

—— オリビア・レコードの女たちのために ——

ギニ・バーソン & ロビン・フルックス

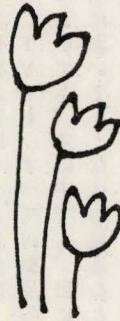
レズビアンとはなにか。レズビアンとは女を愛する女、自分の感情のささえを女にたよる女、自分の成長を女に期待する女、自己のアイデンティティを女であることに見いだす女、のことである。レズビアンとは、ますます自分からすすんで、ますます誇りをもって自分自身の力強さを知り、それを示し、自分で自分自身の定義をおこない、そして社会のもっとも神聖なるタブー——「汝は男なしで生きてそれを好んではならない」——にあえて挑戦する女のことである。レズビアンとは、意識的であれ無意識的であれ、社会が女に定めたいろいろな制限をふみ越えていくことをえらんだ女のことである。彼女は自分の必要を満足させ、自分がそ

っくりそのままの人間であると感じさせてくれるような人生を創りだすのである。社会がレズビアンにあたえている汚名ゆえに、レズビアンは生きのびるために、ちがった道を見つけたさねばならなかった。ある人たちは男との結婚のワナにはまったままではあるが、こっそりとレズビアンの友だちや恋人に会う方法を見つけたしている。ある人たちは秘密にしている、恋人にだけ、仲間にだけ姿を現わす。公然と姿を現わすことの危険は大きい。しかし喜びはもっと大きい。レズビアンの抑圧とはなにか。レズビアンの抑圧とは、異性愛の役割モデル以外は——映画の中でも、TVでも、すべての製品のすべての広告においても、本の中でも、目に見えるいたる所において——なにも見ることなしに成長することである。レズビアンの抑圧とは、人がわたしたちに提示してみせる、だれも自分と同一視できないような、いやらしいステレオタイプの人間以外には、女について自分のように感じている女は、この世の中で自分ひとりなんだと考えることである。レズビアンの抑圧とは、あなたがたんに夫の収入の補助をしているにすぎないとおもわれているために、あなたの労働にたいして男より低い賃金を支払われることである。レズビアンの抑圧とは、あなたが十分に「女らしく」とでないという理由で仕事に雇ってもらえないことである。レズビアンの抑圧とは、どれだけ

あなたがよい母親であろうと、レズビアンでない人の方があなたよりよいという理由で、あなたのごどもを前夫やあなたの両親や「ホーム」にひきとられてしまうということである。レズビアンの抑圧とは、あなたが一線をふみ越えるときに、あなたを抑圧したいとおもっているその人たちによって認められる以外は、自分の存在を認めてもらうことさえない、ということである。「タイム」誌が同性愛について書くとき、彼らは男について書いているのである。アニタ・ブライアントが同性愛にたいして暴言をはくとき、彼女は男にたいして暴言をはいているのである。なぜレズビアンは、ただ罰をうけるためにだけ認めてもらえないというほど、社会にとって脅威なのか。わたしたちのくらしている世界は、ある人たちが他の人たちよりもっと多くのもの——権力や金や特権や自由や機会や選択——をもっているという階級制度の上になりたっている。一般に、アメリカ人は他の国々の人びとよりも階段の上の方にいる。アメリカ国内においては、白人の方が有色人種よりもっと多くを持っており、男は女よりも多くを持っており、異性愛者は同性愛者よりも多くを持っており、もちろん、「持てる者」は、それをそのまま維持したいとおもっている——それは彼らにとつてたいへん居心地のよいことだからだ。しかし「持てる者」はそれほどバカではない。彼らは「持たざる

者」を満足させておかなければならないことを知っている。さもないと持たざる者は怒って、めんどろなことをひき起すかもしれない。それで彼らはわたしたちにパンくずをくれるというわけだ。アメリカ政府はラテン・アメリカからその資源を盗み、そしてアメリカ製の商品を買うために使うべき金を「あたえてくれる」のである。アメリカ原住民は自分たちの土地を奪われて、その後で保留地を「あたえ」られる。労働者は労働力を奪われて、その後でよりましな賃金を得ることができて、も自分たちの労働の管理はできない組合を「あたえて」もらう。男たちは勝手気ままに女を強姦し、そしてわたしたはその苦しみをやわらげるために女性の警官を「あたえられる」のである。男たちはわたしたちに中絶する権利を「あたえてくれる」が、それもあるきまった条件のもとでだけ、自分でお金を払うことができるときにだけ、である。レズビアンは仲間たちと出会ったりいっしょにすごすためにバーに入ることを許されているが、しかし中に入るためには18才または21才以上でなければならず、すずんで酒を飲まなければならず、そしてじろじろ見にやってくる男たち、外で待ち伏せて困らせ、強姦する男たちがいましなければならぬのだ。

レズビアンはこの社会をおびやかしている、なぜならわたしたちは男をおびやかしているからだ。権力をもっている人たちは自分たちの支配できないようなものごとをおされる。男に従順なパートナーになることを拒否する女、男がきめた「女らしい」やり方で行動することを拒否する女、自分自身の力強さを持ち、扶養してくれる「やさしい」男に依存しない女、他の女たちと体験や感情を共有していることに気づいている女、他の女たちを結びつけているきずなを自分ももっていると感じる女——そのような女は、ふつう女に期待されているようには、男の支配や男の権力の乱用にがまんがならないだろう。そのような女は自分の力強さを肯定し、自分自身の解放を肯定するだろう。そして、この社会においては、それはよろしくないことなのだ。



レズビアンが忘れてならないことは、この社会で「あたえられた」すべてのものは、いともかんたんにとり上げられるということだ。デイド郡で起ったこと（1977年6月に反差別法が廃止された）は、まったくよい例だ。住宅や雇用における差別にたいする保護条例を獲得することは、毎日の生活にとって重要なことであるが、それはわたしたちの問題の根本的な解答ではない。レズビアンの抑圧はアンタ・ブライアントと「こどもたちを救え」運動にはじまったのではないし、またそこで終るものでもないだろう。アンタ・ブライアントは、家庭や社会における女性の役割について因襲的な抑圧的な見方——女は男に仕えるためにこの世に置かれていて——を固守している組織化された男の宗教のための完璧な女性戦線である。

レズビアンはまた、デモ行進や集会に参加することも効果がかぎられているということを知り、忘れてはならない。そういうことは、わたしたちやその他の人びとにわたしたちの人数を示す手はじめになり、わたしたちの怒りと趣旨の重大さをもっと明白にさせるが、それは反作用として起る短期間の方策なのだ。最終的にはそういうことは、社会の基本構造やその中にいるわたしたちの地位を改革することにはならないだろう。

「こどもたちを救え」運動はひとつの肯定的な効果をもっていた。それは多くのレズビアンたちの間に、外に出たい、力強い声明を出し、レズビアンの未来のために、そしてじっさいすべての女たちの未来のために、なか建設的なことをしたい、という欲求を自覚めさせたということだ。ますますわたしたちは、わたしたちの抑圧の根拠となっていて孤立を打ち破りつつある。あなたの信じていることのために闘うには、他の何百何千という人たちがあなたと共に闘っているのだということを知っていた方が、どれほど闘いやすい

ただろう。わたしたちはおたがいに自分たちのことを知らせつづけていかなければならない。そしてつぎに、わたしたちの生活をよりよくするようおたがいに協力しあう方法を見つけてさなければならぬ。わたしたちはレズビアンたちがともに集う場所——わたしたち自身のものであるほんとうの女のスペース——をもっとたくさんつくりださなければならぬ。わたしたちは、レズビアンとしての、女としての、わたしたちの体験の共通性を理解しはじめたばかりの仲間の女たちのために、意識向上のグループをつくらなければならぬ。わたしたちは自分のこどもを奪われそうになっている母親であるレズビアンのために、支援グループを組織しなければならぬ。わたしたちはわたしたちに仕事と経済的な保障をあたえてくれる事業を設立しなければならぬ。わたしたちは強姦者に対処するレズビアン・パトロールを必要としている。わたしたちはあたらしい共同体の基礎を形づくるのに役立てるために、女たちを結びつけるような文化的イベントを必要としている。わたしたちは建設的な変革をうみだしているレズビアンのグループや活動に投資してもらうために、時間やお金やエネルギーや技



術をもっている女たちを必要としている。わたしたちはあたらしい世界——わたしたちが自分のからだを、自分の仕事を、自分のセクシュアリティを、伝達組織（コミュニケーション・ネットワーク）を、自分たちの文化を、自分たちの生活空間を、自分たちのリクレーションを、自分たちのメディアを、自分たちの生存そのものを、コントロールできるような世界——を必要としている。するべき仕事はとてつもなく大きい。

しかしわたしたちが着手したことをみてみよう。第2次女性解放運動がはじまって以来の年月に、わたしたちは、わたしたち自身の出版社、わたしたち自身のレコード会社、わたしたち自身の保健センター、互助会、雑誌、新聞、わたしたち自身の音楽プロダクション、レイブ・センター、不動産業、わたしたち自身の女とレズビアンセンター、わたしたち自身の映画と映画会社、わたしたち自身のレストラン、ラジオ番組、食品共同組合、意識向上グループ、支援団体、本屋、印刷屋など、いろいろつくりだしてきた。わたしたちのつけた印は、たしかに、いたる所に残されているわけではない。しかし、わたしたちはいたる所にいる。そして毎日ますますたくさん仲間がふえてきている。

た。ある時期にはこういうことも必要だが、わたしたちは、わたしたちが誰であり、わたしたちが何を望んでいるかに傷をつけるようなやり方でそうしてはならない。わたしたちがレズビアンであることは、わたしたちの本質的な部分であり、わたしたちはレズビアンでない人たちの支持を得るために、けっしてそのことを否定したり過小評価したりするべきではない。そのような譲歩をすれば、どのような「同性愛の権利」もじっさいには意味のないものにしてしまうだろう、というのは合法的であることが、抑圧的で反女性的な社会の現実というものを変えるわけではないからである。誰一人として、自分の権利を「あたえて」もらわねばならないことのないように、わたしたちは社会全体をたてなおさなければならぬ。以前にもまして、すべてのレズビアンがレズビアンのグループだけで活動することが必要である。そうすれば自分たちのグループ内の人によって踏みつけにされることで悩むかわりに、自分たちのエネルギーと重点を自分たちのもっとも重要な問題に集中させることができるからである。

レズビアンにとっていまは、大いなる挑戦と大いなる可能性の時である。わたしたちはわたしたちの間にある違いが、わたしたちの真の敵——わたしたちに権力をふるい、わたしたちを生きがたくさせている人びと——との間にある違いとくらべたら、ごく小さなも

のであることを忘れてはならない。わたしたちは、いまわたしたちがくらしている状況よりもっと悪い状況を、歴史の中で生きぬいてきた。わたしたちは、レズビアンが以前にはもっていなかったものを現在もっている——わたしたちは、前面に出て、公然とわたしたちの力強さを示している仲間を、わたしたちの愛を、自分自身の誇りを、そして女を愛する女であることの喜びを、もっている。わたしたち自身をいつも祝福しましょう、そしてひとつひとつの祝福をわたしたちの解放にむけてのあたらしい一歩としましょう。

(オリビア・レコード Lesbian Concertrateの歌詞カードより)(訳・三木草子)

へ解 説
 ＊アニタ・ブライアントと「こどもたちを救え」運動 フロリダのデイト郡で起ったこの運動は、こどもたちを腐敗させるとい理由でホモを教職から追い出す目的で、反差別法(その人の性的傾向を理由に就職や住宅供給の差別をしてはならないというもの)を廃止しようとする運動で、フロリダのオレンジ・ジュースのCMに出ていたアニタ・ブライアントがそのリーダーであった。この運動の結果、反差別法条例は廃止されてしまった。77年のことである。なお、アニタは78年に中学生と高校生から「世界でもっとも損害をあたえた女性」として選出された。(男性はヒト



ラー)
 ＊オリビア・レコード アメリカの女のレコード会社。くわしくは次号に紹介します。

想いを力へ——名古屋市婦人会館訪問記——

木村早希

名古屋市の婦人問題担当室長が非常に行動的でバイタリティあふれる人で、できたばかりの婦人会館はたいへんりっぱなものである、という話を小耳にはさんだのは去年の暮れの12月26日。京都市の婦人行政の貧弱さに驚きあきれ果てていた私には、女と行政官と「婦人会館」との結びつきがイメージでできなくて、見たい・聞きたい・知りたいという思いにかられ、翌日名古屋市役所に電話をした。話し

終えてから、とにかく行きたい見たいという思いはふくらむばかりで、1月の土曜に行こうと決心し、翌28日再び電話を入れた。1月13日11時に時間をとってもらうことに決定。 「名古屋市婦人会館見学ツアー」と銘うち、結局、私も含めて4人が名古屋へ向かったのであった。約束の時間に一時間以上も遅れて着いたのはいやな顔ひとつさえず迎えられ、真新しい

婦人会館の3階の一室で、中山婦人問題担当室長から、婦人会館が完成するまでの経過や市の婦人行政の現状や方向性等について2時間ほどお話をうかがった。そのあと、浅野副館長の案内で館内の一室一室を見て回り、設備のすばらしさととりわけ使用料の安さについて嘆息の連続だった。
 名古屋市には、勤労婦人センター、愛知県立婦人労働サービスセンターがあり、婦人会館は、主婦を主な対象とした婦人の「学習と教育の拠点」と位置づけられている。
 婦人会館を見学して、私の頭に残ったことがふたつある。
 ひとつは、「社会教育」のとらえ直しであ

った。「社会教育」に対しては漠然としたイメージしかなく、成人が趣味的な学習をする、あるいは国によるおしつけ的な再教育ということかな、くらいにしか思っていなかった。

しかし、「婦人対象の学級講座は趣味・実技的なものがほとんどで教育の範疇に入るものばかりではないが、現在の婦人の要望をある程度満たし、婦人の生活範囲を広げるうえで役割を果たしている」という観点にたち、自主グループの育成に力を入れている。また会館主催の講座は「婦人の日常生活に直接役立つ生活技術科目・文化的教養を高める教養科目、生活の諸問題を構造的に把握し視野を広げる専門科目を配置し、婦人の学習をより豊かなものにしていくことをめざして行う」とされている。

女の解放の第一歩は、女自身が結婚以外、家庭以外の世界があることを目で見て感じることである。この点において一度家庭に入った女を、その時々々の要求を満たしつつ外へ引き出すことは大きな意味をもっている。外へ出るためには、子供や老人をどうするかという困難に直面する。そこで摩擦がおこり衝突がおこる。その時、それまで目に見えなかった自分の家内奴隷としての位置が浮かび上がってくるのではないだろうか。

現在の行政の特性として、国の管理機構に組み込んでいこうとする側面は絶対に見逃してはならない。そこをおさえたいうで、女に

とつての「社会教育」をとらえ返し、使える部分は有効に活用していくことは、女の運動にマイナスになることはない、というおもしろが残った。

もうひとつは、「ボランティア」について。国の福祉行政の貧困を補う無償の奉仕労働であり、体制を補完するものでしかない、と思ってきた。しかし、婦人会館の託児室のボランティア・電話相談のボランティア等を見て考えこんでしまった。たしかにそういう側面もあるが、女の解放を段階的にみていったら頭から否定できないのではないか。私たちに今一番必要なのは、女が集まれる場の保障である。名古屋市の場合、予算では専任の保母が一人しかつかかかなかった。一人だと3人の子供しかみれず、これでは託児室は機能しない。

女の集まる場、人の集まる場には必ず託児室を用意することを要求していくことを第一に考え、託児室の有効性と必要性を実証していくことを第2に考えるなら、まず託児室を用意させる、そして使っていく。そのためのボランティアなら、むしろ女たちにとって有利に使っていくのではないか。今は、まず女の集まる場が欲しい、というおもしろい濃くした。

京都市には、公民館・図書館・児童館等がないといふことはきく人を驚かせるが、子連れの女はもちろん、市民が気軽に集まって勉強したり話をしたりする場がほとんどなく、

あるのは交通の便が悪く高い使用料をとられる。現在私たちは、毎回5〜6千円を使用料として払っている。しかしそこさえも子連れの集まりは断られるので、頭をかかえ、不便を強いられるのが現状である。

私は、既成の婦人団体以外の女の声の行政への窓口であり、一緒に行動しながら女の問題を考えている個人とグループの連合体「おんな解放連絡会・京都」に加わっている。ここでは今、私たちの「婦人会館」がほしいという声が圧倒的である。

女の問題を考えた時、自分が一人の人間としていかに生きるのかという、個人の意識の問題・意識変革という面と同時に、女が犠牲にならざるにわ寄せせずにどう解決していくか、という物質的な問題がある。この女が肩がわりしてきた機能を代行し保障していくのが、行政の任務であり義務である。生の女の声を受け入れるよう行政面での変革を要求していくのは、女たちの当然の権利である。自分を変えただけではどうにもならない部分を、もうだいぶみてきた。

女たちの熱い思いがある。ことばにしたくらいでは足りぬ思いがある。それを力にし、モノに変え、己れがとびたつ土台にしていこう。

思いを力へ //

結婚と出産を見張る制度

知られざる戸籍についての

小さなガイド ⑤ 佐藤文明

20 届出結婚行進曲

日本の社会立法の多きは戦前から内縁を婚姻に準ずるものとし、法的婚姻同様の保護を与えている。プロレタリアが届出婚に絡め捕られず、事実婚を實踐していたこと。日本の旧習たる家同士の儀式婚が届出婚と矛盾し式を挙げれば婚姻は成立する、という意識が強に残っていたこと。これが準備を保護せざるを得なかった原因だ。戦前、儀式婚主義の陣営から批判されていた届出婚は、戦後、事実婚主義の陣営からたたかれることとなる。政府さえ「事実婚こそ憲法の理念に一致」の主張に有効な反論を持たず、「将来の課題」として逃げていた。が、届出婚に服従する者がふえてくるとこれに自信を持ち、教育によって届出をすすめる、内縁をなくすことが先決として事実婚論議を一蹴する。ところが1967年11月、松山沖航空機墜落事故で、式を挙げたばかりの新婚12組が死亡。全組が婚姻届をしていなかったことで、損害賠償を巡って届出婚の限界が曝露されてしまった。式と

届出の間の時間的ズレ。この間に問題が起ると、これは準備で処理される。二人は法的に未婚者として死亡する。届出婚の崩壊を恐れ、た法務省は年明けとともに、先の時間的ズレを最小にする大PR作戦を開始。第一弾のパンフレットが「結婚行進曲とともに」、43年度が「新家庭は婚姻届で明るいスタート」、44年度「婚姻届すませて明るい新家庭」だった。しかし、それでも届出婚の矛盾は解決しない。コッケイさばかりが拡大する。

21 急成長する反動

家制度再建の動きが始まったのは1948年頃。共産主義への脅威を誘引とし、日本の伝統の回復、行き過ぎ憲法の引き戻しを論点として進められた。が、「家」を前面に出すことが不利とみるや「親子の助けあい」「家族の和親結合」という道徳的論点に切り替えた。一方、戸籍の氏に「家名」としての実質を与えることを進め、住民票のテイサイを旧戸籍同様にするこゝで、家制度の新たな守護神とした。戸主は世帯主と名を変え、家制度は家族制度と名を変えて、家族の神聖化が企てられる(1960年、67年の通達改正)。また、大戦中、兵士を国家が狩り集める必要上家族制度の強化を図ったソ連も、事実婚を放棄(1936年)、社会主義的家族道徳なるものをデッチ上げた(1944年)。その結果、日本の左派陣営も事実婚の主張をやめ、次第に家族道徳復活論者になっていく。

1976年1月の「赤旗」論文は同棲を批判し、男女の性を届出婚に封じ込めることで、この右旋回を決定的なものにした。現在、議会主義政党の中で、家族制度と闘う者は誰一人いない。

「首相は社会秩序の一つのよりどころとして『家』を重視……日本の家族制度が美しい国民性の源泉になり、国家意識の出発点ともなるべきであるとし……」(1951年9月10日・朝日新聞)これと同じ主張は1916年露独革命に脅えた政府によって出され、現刑法改悪案に盛り込まれている。自由党憲法改正要綱案は1954月に盛る。

22 同棲という新しい波

政府必至の攻撃にもかかわらず1970年代に入ると届を出さぬ男女関係が273%増えてきた。世にいう「同棲時代」だ。新事態に慌てた政府は、まず、その実態を調査するため1975年国勢調査の際これまで戸籍の届に基いて記入していた「配偶者の有無」欄を戸籍の届とは無関係に記入させることとした。しかし、この試みは国勢調査そのものがプライバシーの侵害として拒否され失敗した。こうした一連の動きは権力に立向う若者の意気を示すものだった。届出婚崩壊を何より恐れる政府はこの間、

タイコ持ちを動員。「結婚は愛の表現」をやるめ「二人の社会的責任」とする一方、「婚前交渉を配偶者決定の手段」として黙過。子婚Ⅱ届の一線を堅持、強化する。したがって、その後、急増した「未婚の母」は、子をテコにして支配秩序に組み込もうとする権力の思惑に真向から挑戦するものであった。単なる利益や道義以上に、戸籍こそ子の将来を脅かすものだったからだ。

この新時代の担手たちの素晴らしい闘いも、戸籍の権力が確立していない30年前から見れば微々たる勢力。しかも限られた条件下でしか闘えない下では、それを押して届出を拒む者たちにとって、世界は次第に息苦しいものになってきた。

23 非婚主義と母子

戦後の民法改正が、父権主義を否定。

が、個人の尊厳へと向わず、父母権主義（タテマエ上男女は平等）へと向ったことで、子は再び差別された。すなわち、父の法的意味による差別から、父母の法的位置による差別へと内味を変えて。つまり婚姻の在非が重視され、これを核に新たな家制度が樹立するのである。父の在非が重大だった旧民法下のイデオロギーとは違うため、庶子の地位の転落は多分に大きい。家督が姿を消したこともこれに拍車をかけ、養子や片親を失った嫡出子なども被差別者となり、扶養能力、相続財産を持たぬ父からの認知は差別観念のレベルで

も有名無実化した。こうした中では非婚は嫌

	父母婚姻	父 認 知	自 然 子
戦前	嫡 出 子	庶 子	私 生 子
戦後	嫡 出 子	認知をうけ た 非 嫡	認知をうけ ない 子

※同時に養子の地位も転落

主線は差別面

り高い「未婚の母」は、進行する反動の流れの中で追い込まれる。婚姻制度のこの差別性、犯罪性に抗するため、非婚を選ぶ。そのことが婚姻制度が予定するもうひとつの器、つまり非婚Ⅱ未婚に封じ込まれてしまう。そして、これを見張るのが戸籍制度である。非婚は戸籍の制度と直接闘えないがために婚姻の拒絶は戸籍の拒絶への発展を求める。

— 同名のパンフより転載（つづく）



籍について考えたい人へ

◆「ニコミ月刊紙「交流」に佐藤文明さんが、「戸籍制度の解体をめざすために」にひきつづき、新シリーズ「私生児差別と闘うために」を連載中です。ぜひ読んでください。

「交流」1部百円 10カ月分 千円

東京都中野区江古田4の17の14 増野方

◆「女・エロス」12号（3月下旬発行予定）

は籍についての特集を組んでいます。大阪のグループが担当しましたので、大阪で合評会を開きます。出会いのチャンスです。参加を待っています。

「女・エロス」12号合評会

4月29日（休日）1時より9時

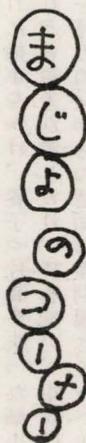
大阪市立労働会館（国鉄環状線または地下

鉄「森の宮」駅下車すぐ）

◆「女から女たちへ」は籍についてずっととり上げてきていますが、23号以前のはほとんど在庫がなくなりました。バックナンバーのお問い合わせは、京都の編集部までどうぞ。

「女はそれを許さない！」
労基法改悪反対関西集会

3月4日（日）1時～3時 集会後デモ予定
京都国会議室（市バス美術館前or京都
会館前） 託児あり



これからも女よ声をあげよう

— 労基法改悪反対関西集会 —

3月4日、「女は許さない」— 労基法改悪反対関西集会には150人の女たちと20人の子どもたちと若干の男たちが集った。現場からの報告、歌、コント、討論のプログラムが2時間つづき、それからデモ。にわか雪のふる中を会場の京都公会館から四条河原町一円山公園へ。日曜日の午後とあって、四条河原町あたりはおおぜいの人出。女ばかりのデモは人目をひき、大阪弁のシュプレヒコールに興味をそそられ、思わず足をとめる人たち。

わたしらは許せへんで、労基法改悪反対！

「女も男も深夜業はいやや！」

「生休は女の権利や！」

優生保護法改悪反対のデモ以来、何年ぶりの女のデモに、参加者もひさしぶりに「やっつアノ」って気持。

これを第一回の反対集会として、関西では継続討論していくことになっている。最低の労働基準をきめた労基法が、改善されるどころか改悪されるのだから、これはぜひ女の力でくいとめたいとおもうのです。政府はあたかもこれが男女平等法に必要な「改正」であるかのようにいっていますが、いわゆる女子

「保護」規定は、男女平等と矛盾するものではないし、まったく別なものなので、理論のすりかえにだまされないようにしたいとおもいます。京都・大阪近辺でいっしょにやりたい方、「女から女たちへ」編集部までご連絡ください。

当日、てらだまりこさんといっしょにうたったうたを紹介しておきます。

(くりかえし)

女よ声をあげよう 女よ声をあげよう

女よ声をあげよう ともにたたかおう

お腹が痛くても休めない

生休あっても休めない 人手がたりずに

休めない 労基法改悪反対

女差別はごめんです 女差別はいりません

女差別はゆるさない ともにたたかおう

男たちよもっと休め 男たちよもっと休め

男たちよそんなに働くな 働き蜂にさよなら

名古屋婦人会館のユニークさ

木村早希さんのレポート(16)にもある名古屋婦人会館には、いわゆる「おけいごと

」の講座のほかに、婦人教育活動基礎講座と

いうのがあり、「アンケートのとり方」「機

関紙のつくり方」「集団づくりの実際」

「ミリ映写技術講習」の4講座がもうけられて

います。そして印刷室や映写室もあって利用

できるのです。会議室の使用料は300円、

800円で「小学校や中学校とおなじ教育施

設」だからこんなに安いのだそうです。

この婦人会館は、「どんな小さな女のグル

ープも無視しないで参加をよびかけ、いっし

よになって会館づくりをしてきた」というい

きさつをもつだけに、他の自治体にもられない

ユニークさをそなえているのでしょうか。

女の問題が、行政側や政党や団体の「業績」のために考えられるのではなく、ほんとうに女の解放のために考えられるのであるならば、女たちをもっと広く手を組むことができるのと、名古屋の例を聞いてあらためておもうたのです。(M)

小説募集!

女が女の視点で書いた小説を募集します。

これこそソープ文学といえる作品を待望します。

原稿用紙四〇〇字詰50枚以内

資格 女性のみ。切 7月末日

賞金 なし

良い作品が集まれば一冊の本として発行しま

す。選考は編集委員の判断にまかせて下さい。

住所・氏名・電話明記のうえ

埼玉県入間郡三芳町北永井869の18

舟本恵美(元「女・エロス」メンバー)まで

お送りください。

好奇心の強い女のページ

女の映画・文学の登場を望む

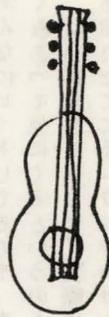
— 仏映画「歌う女・歌わない女」を見て —

フランス映画「歌う女・歌わない女」は、評判どおりの素晴らしい映画だった。映画評で、監督アニエス・ヴァルダは、大声で叫ぶことなく二人の女の生き方を単々と描いているVと書いた男がいる。とかくウーマン・リブは金切声をあげるといいたいらしいが、わたしの見たところ、この映画ほど主張(メッセージ)にあふれた映画はないという気がした。歌う女ボムがキャラバンを連れかねて、フランス中をまわり、街角で「私の体は私のもの」というミュージカルを上演するとき、こちこちの石頭と思われる村のおばさんが思わず手をたたく姿など、これほど素晴らしい意識伝達はないという気がする。ふと同じことをやるうとしてゐるわが国の「どてかぼ一座」のことを思い浮かべた。

歌わない女シュザンヌは二人の子どもを育てながら家族計画を推進する協会に勤め、避妊の知識を指導するのだが、子どもが欲しくないのに渡したピルをちゃんと飲まない家庭の主婦をどうしたら説得できるのかと、砂の城を築くようなくり返しの運動に精を出す。これまた素晴らしい、女を救うための行為ではないか。ボムがシュザンヌのことを考えてベッドでまんじりとしぬいのを、ボムの恋

人が側で「やきもちやいちゃうぞ」といいながら男も喜んでいる描写がある。同じ設定がアメリカ映画「結婚しない女」にもあったがこの時夫は「君はほくより、女友達のほうが大切なかい」といってすねている。日本の男ならさしずめ「そんな友達とは別れてしまえ」とびんたの一つも食わせかねない。

仕事に疲れはてて自殺してしまう男、家族と離れられず子どもだけもらって里帰りする男——この映画の男たちは決して、特別に意志の弱い男たちではなく、たいいていの男は、人間らしい弱さをもっている。田宮二郎がつ



っぱって生きようとして耐えられなくて猟銃自殺したのは、つい去年の暮れだった。合掌！あまりにかっこうつけたがる男や、女にえらそうに口をきく男は用心したほうがいい、裏にすこい劣等感をもっているからなのだ。

映画に話をもどすと、日本の有名女性たちがアニエス・ヴァルダと会って感想をのべている。岸恵子は「ベルサイユのばら」撮影現場で(ジャック・ドゥミール監督はアニエスの夫だ)彼女が、日本の男性は処女にしか価値を認めないから怪しからんと息まいてるのでそんなことはないと一生懸命弁護したあげくアニエスの頑固さを嘆いていた。左幸子

はフランスで開かれた日仏映画女性監督シンポジウムに出席しアニエスと対談をし(モア3月号)そのあとで「彼女は今幸せだから、あのようにはっきりものがいえるのだ」ともらしたという(「歌う女・歌わない女」のパンフレットに収録)。来日中のアニエスが「イレブンPM」に出席し、ニコッと笑うだけのカパーガールに、彼女も花を手にして笑うだけでなく、こちらにきて討論に加わったときそつたらしいが、それを画面で見た落合恵子は、女が女に対して差別すると受けとつたらしく、「女の敵は女？」というエッセイを女性セブン(3/1号)に書いている。

どういうわけか、日本の社会ですてによい(と思われる)仕事をしている女は、普通の女の痛みがあまり理解できず、女と女が助けあうというイメージが湧かない(というより女は女の足をひっぱるといふ固定観念に毒されている)らしいのは、とても残念だ。

アメリカやフランスですてに社会的な働きをしている女たちが、リブの意識を受けついで「私は女のために頑張ります」といえるのはどうしてだろう。日本では、リブに批判的であることを旗印にしないと、マスコミで受け入れられないということがあるからだろうか。その日本のマスコミが「今年(は女の時代(西武))、八十年の女性募集(カネボウ)」という資本の要求で新しい女がしをしているのは、喜ぶべきか、悲しむべきか(S)

「男」の監督が「女の視点で……」ってねえ

白米 ちんぷ

28号の合評会で映画「結婚しない女」が話題になったとき、「いい映画だ」という点ではみんなほぼ一致。そのとき泉さんが原作と比較して話してくれたので、それを書いてもらいました。(編集部)

映画を見たのは、たしか昨年の8月。東京へ行った時に友だちと「今、話題の映画だから」というんで、とくに大きな期待もなく、「高い金は払ってソシしたなんてのはいやだからね」とつぶやきつつ、えらく混みあった場内をおしのけおしのけようやく確保した座席に腰をおろしたのでありました。まわりをみまわしてみると、なんとまあ、女と男のカップルの多いこと、多いこと。どーいう映画を期待して見にきているのかしらん、このヒトたちは……などと、自分のことはタナにあげてはじめはわりとナナメに見る感じだったのが、身につまされる部分が多くあったりして、いつしかすっかりのめりこみ、映画館を出るときには、いたく感心しておりました。大きな衝撃を与えるというものじゃないけど、結婚がすべてじゃないとおうとしてるし、エリカだって苦しんだけど立ち直って、

ソールみたいないい男に会った時には、自身のためにゆずれないことを主張するようになったじゃないか。少なくとも希望はもたせてくれるよな。それと、いままで、女どうしがささえあえる関係なんて、えがかれたことあった？ こりゃわりといい映画じゃないの。と、しきりに評価したのですよ。

ところが、どうも一つ気にかかる。なんであの映画、あんなにヒットしてるの？ 恋人どうしが肩くみあって見にくるというのもひっかかるし、女の自立をときつつ、実際には結婚幻想をおおりにたてる「クロワッサン」や「モア」やでもてはやされてるのは、やっぱりうさんくさいことだ。しばらくして「こりゃ原作を読んでみよう」と思ったのは、男の友だちが「いい映画だけど、なんで最後に一緒に暮さないのがわからない」といっていたのをきいてからだ。原作をよんでみて、ハアーンとナゾがとけた。映画は、ありゃラブストーリーだったんだよ。私は自分の思いこみをたぶんに入れつつ映画をみていたんだなあ。

映画の中では、エリカが彼女自身の中の依存性や、男への役割期待に気づいていく過程

がぬけおちていて、まるで新しく出会った「いい男」によって立ちなおれたかの如き印象を与えられる。その過程こそが一番重要で興味のあるところなのにもかかわらず。

経済的な不安に関しても映画では薄められていて、実をいえば、私自身も映画を見た当時ひっかからないでいられたわけ。どうしてかというところ、エリカはすごくカッコよくて、「生活臭さ」がないのです。まさにそこが映画なのだと思うけれど、それにしても、経済的なことは、離婚において重要なポイントであるはずで、それをぬきにした「結婚しない女」はリアリティに欠けてて当然なのだ。

「結婚しない」ということは、ただ男と一緒に暮らすことを選ばないというだけのことじゃなくて、「男によって存在を証明される」ことが女にとって本当の人生なのだ」という価値観との戦いであり、それは当然にして自分自身との戦いであるはずだからだ。

気にかかっていた3人の女友達たちも、一人一人が人生を抱えている女たちとして小説の中ではずいぶんウエイトを置いて描かれている(映画では、エリカの結婚生活の幸福さを強調するために出てきたようにみえる)し、夫が「別れてほしい」と告げる場面は、映画では、ポーゼンと立ちすくみ、嘔吐するエリカが、小説では、どなりちらし、平手うちをくわし、レンガをなげつける……と、なんと胸のすく思いをさせてくれることか。

この映画、シナリオと監督は男で、「女の視点から描いてみたかった」と言ったそうだが、やはりすっきりしないことがある。残るんだよね。映画と小説と、そりゃ違いは出てくるだろうけど、この場合「結婚しない」という意味自体が、ずいぶん違って描かれてるんじゃないだろうか。映画をみた人、ぜひ一

さあ、子持ちの女たち ♪ フィーバーしようぜ! ♪

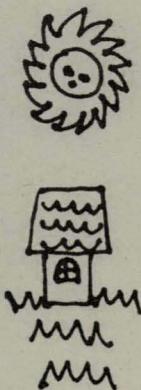
歌って踊ってバイクに乗って かわいい男ちゃんみつけて 自分に体に正直に生きよう
ガキがいればみんな育てよう 何もしたことなくあったら0から始めてみよう
金がなけりゃ何をしてでも手に入れよう
うるさい男がいたらぶっとばせ!
ただいま ナンパ、ミーハーリブ募集中!
音楽、芝居、写真、映画 etc 興味ある方
Y談、男、女、好きな方
人生、ひっちゃかめっちゃか 子づれで楽しみたい方 連絡して下さい
ロックンロールメンバーも募集中!
豊中市柴原町3丁目10-15
メゾン中井201号室 太田方
TEL 06(843) 4515
アカギ・モモ

ペン小説にも目をとおしてほしいなあ。
オマケをちょっとつけ加えれば、自分の人生を生きたいと願う女にとっては、男を愛するということが、同時に(自分自身と男とに向かう)憎しみと背中あわせに在りつづけてしまうことのしんどさを、ひきうけていくしかないのかなあ……とボヤかせて下さいませ。

女たち自らの手で、「男女平等法」を!

女の自立は経済的自立から、といってもイザ女が働こうとすると、新卒採用、継続、転職、再就職の場合にも何と多くの問題に直面することか。本当に女の労働条件を向上させる武器となるような「雇用平等法」がほしい。そのためには当事者たる自分たちが立ちあがらなくては、とリブ魂盛んな女たちが集まって昨秋から準備を進め、去る一月二十日、東京・渋谷の山手教会で「私たちの男女雇用平等法をつくらう」大集会を開催。何が性差別か、定義を明確にし、平等実現の推進機関となる「男女平等委員会」の設置を中心にした試案をめぐっての説明、現状の告発・討論と四時間はアツという間に過ぎてしまう。参加者は約八百人。その後、原宿まで風船片手にデモで、道行く人々に訴えた。

採用段階の差別、パート労働なども視野



に入れているのは、この法案の画期的な点。男並みに働くことが果たして本当に人間らしい労働か、育児・家事は社会化を進めるだけでよいのか等々の発言、育児休暇・生理休暇については独断的な意見も目立ち、自分の実感に立つことと、他の女の状況を知ることと、両方の必要性も痛感。東京だけでなく全国で討論が行なわれることよって、女たちの輪がまた広がっていくことが期待される。当日配布された法案資料(三百円)及びさらに詳しいことを知りたい方は是非左記に連絡を。(寺崎あきこ)

私たちの男女雇用平等法をつくる会
東京都新宿区加賀町二一三
「わいふ編集部」内
TEL 03-2601-4771または、
03-4001-4690

女たちへ

◎映画「女ならやってみな」を
買っちゃうよ

昨年11月、東京で開かれた「女たちの映画祭」78は、三日間とも満員、女と男の役割交代をあつかったよびもののデンマーク映画「女ならやってみな」は大好評。あとから新聞で知った全国の女たちから上映の問いあわせが殺到。残念ながらあのフィルムは借りものであるときかぎり。でも、もっとたくさんの方たちに見てもらいたいという思いはおさまらず、「いっそ買いたいと思えば？」「ウンそうしよう」と決定。女なら買ってみな、というわけで、いま上映委員会では女たちからの協力を必要としています。さしあたり160万円が必要なのです。そしてもちろん女たちのエネルギーもとめています。

債券 一口 5千円（2年間・無利子・あるとき払いで催促してね）

協力券 一枚 千円（上映券として2年間どこでも有効）

カンパ 郵便振替口座 東京7-40000805
（いつでも・いくらでも）

送り先 女たちの映画祭実行委員会
（債券・協力券・カンパの別を明記してね）

なお、8月に全国縦断上映キャラバンをし

ます。上映予定地はいまのところ東京、静岡、名古屋、京都、大阪、広島で、各地で実行委員会を組んでおこないます。このほかの所でもぜひ上映してほしいので、やりたい人はぜひ連絡してください。東京03(370)6007映画祭実行委員会まで。各地の上映に協力したい人は、名古屋052(763)3571ウーマンズ・ハウス、京都075(744)2949アトリエ367内、沢田、大阪06(392)7768グループ飛女(ひめ)、広島0822(93)2419手作り会館内アノまで。

◎ペンパルになりませんか

スエーデンの70才になる女の人が、京都の女の人と英語で文通を希望しています。彼女は1925年頃、大農場や大きな家で女の学校をつくり、女の地位や女の権利のための運動をくりひろげたソルスタットグループで活躍した人です。日本の伝統工芸にもくわしくインターナショナルな関心をもっています。紹介者の町野さんあてに連絡してください。

Machino Miwa (町野美和)
c/o Doris Nilsen
Södravägen 4
41254 Göteborg
Sweden



ぱくみらあ

▼ロスからやってきたジョーン・キャンピオンさんからきいた話。アメリカのリップの集会では、はじめにその集会でタバコをのんでもよいかどうか決めるそうだ。さいきんではほとんど禁煙になるとか。京都や大阪ではこのごろ喫煙タイムを設けて、集会中は禁煙にするようになったが、これはたばこの煙がにがてなわたしには、ほんとうにうれしいことなのです。▼ネッスル製品のポイコットに協力してください。ネッスルはその必要のない所に粉ミルクを売りつけて、その結果、哺乳ビンから感染して多くの赤ちゃんが死にました。アジアやアフリカの地域によっては、冷蔵庫もなくガスもなく、粉ミルクを飲ませるような条件がととのっていないのに、そして十分母乳が出るのに、ネッスルはミルクをどんどん売りつけて、死んだ赤ちゃんに何の保障もしていません。ぜひポイコットを(M)

女から女たちへ

№29 1979. 3.
¥200 千60

購読申込：千葉市磯辺60-1
磯辺第一団地4-302
鈴木洋子
投稿：京都市右京区梅津
大縄場町6-6の6-405
三木草子
振替口座：大阪48156
加入者：三木草子